

岩倉忠在地遺跡Ⅱ

同志社中学校・高等学校校舎建設に伴う発掘調査報告書



2011

同志社大学歴史資料館

序 文

同志社岩倉校地は、緑の山々に囲まれた岩倉盆地南部に位置します。この地域周辺の丘陵では、5 - 6 世紀の古墳や平安時代の瓦・陶器の窯跡などが多数みつき、遺跡や古代文化の痕跡が多く残る地域です。岩倉校地でも、同志社小学校建設時の発掘調査で古墳時代初頭の竪穴住居群や土坑墓群がみつき、3 世紀の人々の営みを示す遺跡の存在が明らかになりました。

2010 年度からは、同志社中学校と同志社高等学校が統合されることになり、そのための新校舎が建設されることになりました。同志社小学校に南接する新校舎建設地には、地下に 3 世紀の村の跡が広がっている可能性が高く、発掘調査を行うことになりました。

2008 ~ 2009 年に行われたこの調査では、さらに南側に 3 世紀の村が広がっていることがわかりました。竪穴住居や井戸、生活に用いられた多数の土器が溝に捨てられている状態でみつかったのです。発掘調査が終わって 2 年近くが過ぎ、ようやく本書にその詳細なデータを記し、学術資料として後世に記録を残すことができました。

また、現地調査の際に行った現地説明会には地元住民を中心に、非常に多くの見学者のご参加を頂き、近隣住民の地域の文化・歴史への関心の高さを目の当たりとすることになりました。大学が、地域に対して教育だけでなく文化・学術上の貢献ができることを感じました。

同志社大学歴史資料館では、このような貴重な文化遺産を調査し、教育や地域社会に還元する努力を続けていく所存です。今後とも当館の活動にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2011 年 3 月

同志社大学歴史資料館 館長
山 田 史 郎

例言

1. 本書は、同志社中学・高等学校校舎建設に先立つ発掘調査に関する報告書である。
2. 調査地点は、京都市左京区岩倉大鷲町89である。
3. 調査期間は、試掘調査が2007年7月17日～31日、本調査が2008年8月1日～2009年6月30日であった。
4. この発掘調査は、同志社中学校・高等学校の依頼によって、本学歴史資料館が行い、調査にかかわる掘削・記録作業については、本学施設課から物アジアカ測に業務委託を行った。現地調査では、歴史資料館職員とともに、その指示のもとに同社が作業を行った。
5. 現地調査の統括は、歴史資料館教授辰巳和弘の助言のもと准教授若林邦彦・講師浜中邦弘が担当した。また、文学部松藤和人教授からも、調査に関わる技術指導を受けた。事務関連・各種調整業務に関しては、同館事務長久山喜久雄・嘱託職員中井美知子が担当した。
6. 報告書作成作業は、2009年度に本学京田辺キャンパスに所在する歴史資料館において行った。若林の指導のもと、学生諸氏・非常勤職員が遺物整理作業にあたった。また、これに関わる事務関連・各種調整業務は、同館事務長久山喜久雄・嘱託職員中井美知子が担当した。
7. 本書の執筆は、若林邦彦・山本亮・面将道が行った。担当は、目次に記載した。
8. 本調査に関わる記録類・遺構図・遺物などすべての情報・資料は、歴史資料館において保管・管理している。
9. 現地調査と報告書作成作業に際して、以下の方々からご教示をいただいた。記して感謝申し上げる。(五十音順・敬称略)
家原圭太(京都市文化財保護課)・一瀬和夫(京都橘大学)・伊藤淳史(京都市立大学)・宇野隆志(京都市文化財保護課)・梶川敏夫(京都市埋蔵文化財研究所)・柏田有香(京都市埋蔵文化財研究所)・阪口英毅(京都市立大学)・田中元浩(和歌山県埋蔵文化財センター)・富井眞(京都市立大学)・長谷川行高(京都市文化財保護課)・堀大輔(京都市文化財保護課)
10. 現地調査および2009年度に行った報告書作成作業に参加した学生・非常勤職員は以下のとおりである。(五十音順・敬称略)
足立千春・今村栄一・上塚篤史・太田安由美・岡田健吾・面将道・久保宏資・小森敦人・古塚子・佐伯公子・柴田将幹・下川千佳・鈴木康高・高村夏・棚田祐子・種村明美・反田美樹・手島美香・中屋啓太・早川広子・平岩知奈美・福田沙織・藤原希・藤井咲子・宮原教子・三浦勇人・安富匠彦・山本亮

岩倉忠在り地遺跡Ⅱ

目次

序

第1章 遺跡と調査の概要	1	若林
第1節 位置と環境		
第2節 調査に至る経緯と経過		
第3節 調査の方法		
第2章 層序	6	若林
第3章 検出された遺構	11	若林
第1節 1区の遺構		
第2節 2区の遺構		
第3節 3区の遺構		
第4節 4区の遺構		
第4章 出土した遺物		
第1節 土器	55	山本
第2節 石器	93	面
第5章 まとめ	100	若林

第1章 遺跡と調査の概要

第1節 位置と環境

今回の調査は、同志社中学校・高等学校校舎建設に伴って行われた。建設予定地は、京都市左京区大鷲町と忠在地町にまたがる地点に位置している。この地は、平安建都以後1200年以上にもわたって都市として継続してきた現在の京都市街地の北方約数kmに相当する。建設地は、市街地のある京都盆地とは低丘陵で隔てられた小盆地である岩倉地域の中央やや東寄りの地点であり、元々同志社高校北グラウンドとして利用されてきた場所である。調査地の真東には比叡山山頂を望むことができる。

調査地は、岩倉川に東接する地点にある。後述するように、遺構群が検出された基盤層にはシルト質の堆積物とともに多量の礫が含まれていた。これは、現在の岩倉川の前身となる流路帯の流水作用によって北方の丘陵部の土砂が再堆積して形成された層と考えられる。堆積した土砂の粒度には礫・粗粒砂などが多数含まれているため、旧岩倉川の流芯近くの河川内堆積領域とその脇に形成された自然堤防といった環境変異を繰り返していた地点に相当し、縄文時代末以後には旧岩倉川は当調査地の西側のいずれかへと移動したものと思われる。つまり、古墳時代以後の当地点は、旧自然堤防帯として形成された比較的高燥な環境にあったと考えられる。ただし、調査地の南方約50mにある同志社高校理科館地



図 1.1 調査地点と周囲の遺跡

点における1990年の発掘調査では、古墳時代以後の沼地と思しき窪地が検出されている。このことから、当調査区は、旧岩倉川流路帯が形成した自然堤防帯に位置するが、その近接領域には後背湿地が控えていたと考えるべきであろう。つまり、調査地点そのものは、安定的居住適地であるとともに、隣接して水田などへの利用が可能な湿地を眼前に控えた立地であったとすることができる。この環境が、後述する古墳時代初頭を中心とした集落形成の一因となった可能性は高い。

岩倉盆地では、古墳時代前期以前の遺跡は、遺物散布地がいくつか知られるだけで、今回のように集落遺跡が調査された例はほとんどない。

この地域では、5～6世紀の古墳と古代の窯跡がよく知られている。「夫火竟」銘の神獸鏡や鉄刀・玉類が出土した幡枝古墳などが古墳時代中期に築かれた後、6世紀には盆地南西部の丘陵斜面に群集墳が築かれている。6世紀後半に形成されたといわれる本山古墳群はその中でも最大規模のもので、40基を越える円墳が築かれ、横穴式石室が確認されている本山神明古墳は有名である。また、松ヶ崎丘陵の東側に、6世紀中ごろには西山古墳群が築かれていたと考えられている。

飛鳥時代には深泥ヶ池瓦窯跡・岩倉元稲荷窯跡・木野墓窯跡などで瓦・須恵器が生産されて京都盆地の古代寺院に供給されていた。奈良時代にも木野地区に数多くの須恵器窯がつけられて窯業生産地域として発達していた。平安時代造営以後は、栗栖野瓦窯などをはじめとする多くの窯跡があって、瓦・陶器類など多様な焼き物が平安京へと供給されていたことがわかっている。

このように、岩倉地域は、京都盆地の古墳時代有力氏族の墓域として機能していた。それが、古代以後に窯業生産拠点という性格を強め、平安京が造営されるとその生産拠点として益々窯業生産地としての重要性が高まったものと考えられる。

一方で、先述のように、集落遺跡の状況は各時代を通じて判然としなかった。2004年度の同志社小学校建設に伴う調査では、古墳時代初頭の集落遺跡が広い範囲で確認された。岩倉盆地における人的活動を初めて明確に示したことになる。また、当遺跡の範囲は、今回の調査地点にとどまらず北方約500mにある叡山電車岩倉駅付近まで想定されている。出土している土器は、弥生時代後期～古墳時代前期のものである。この範囲に弥生時代後期～古墳時代前期の集落が継続的に営まれていたことになる。この地が岩倉盆地の拠点的生活領域の一つであったことも考えられる。

ただし、先述の古墳群の形成などは古墳時代後期を中心とした現象であり、今回検出した遺構群の主要な時期からは外れている。このため、この地が古代以前に継続的な集落形成地であったか否かは、いまだに判然としない。ただ、近接する大鷲町内での2001年の発掘調査では、古代の条里地割の相当する施設が検出されており、当地点とその近隣地域に古代の農業開発が行われていたことは確実である。

第2節 調査にいたる経緯と経過

今回の調査は、同志社中学校・高等学校建設に伴い行われた。同志社中学校は2010年度に今出川校地から岩倉校地へと移転し、同志社中学校と同志社高等学校が2010年度より統合されることとなり、同校地に新たな校舎建設がおこなわれることとなった。

建設地点に北接する京都市の公園領域では、そこがまだ同志社大学の校地であった1970年代後半に、施設立替などに伴って発掘調査が行われ、弥生時代後期後葉～古墳時代初頭のものと考えられる土器や縄文土器の破片などが出土していた。また、当地点から叡山電鉄岩倉駅周辺にかけて地点で、同様に縄文土器や弥生土器片が出土することが、京都市教育委員会によって確かめられていた。また、北接する同志社小学校建設時には、2004年度に同志社大学歴史資料館による発掘調査が行われ、古墳時代初頭の堅穴住居群や土坑墓群が検出された。また、1990年度に同志社高等学校理科館建設に伴って同志社大学校地学術委員会が発掘調査を行い、沼状地形に古墳時代～古代の土器片が少数散布する状況を確認している。このことから、建設予定地にあたる同志社中学校・高等学校敷地については岩倉忠在地遺跡の弥生～古墳時代集落などの周辺領域に相当すると考えられていた。

このような弥生時代～古代にかけての何らかの遺構が残存している可能性のある地点で同志社中学校・高等学校建設計画が持ち上がったことから、歴史資料館では、建設予定地に南半部について試掘調査を行った。この領域に関しては、既往の立会調査などでも遺構の残存が希薄なことが予想された。そのため、周知の遺跡範囲内であるが試掘調査を行った後に必要な部分について本調査を行う方針が立てられた。試掘調査は2007年8月に行ったが、遺構・遺物は検出されず、京都市文化財保護課との協議により、建設予定地南半部については本調査の必要なしという判断に至った。

しかし、約9000㎡におよぶ建設予定地北半部については、古墳時代初頭集落の検出された同志社小学校校舎に南接していることから、連続する遺構群が残存している可能性が高かった。そこで、建設に先立つ2008年8月中旬より校舎建設位置にあたる北グラウンド西半部の発掘調査を開始した。調査に際しては、㈱アジア航測に測量・掘削・図面作成業務を委託し、現地に歴史資料館准教授若林邦彦・講師浜中邦弘の指揮のもとに本学学生を含む同館非常勤職員らとともに調査作業にあたることとなった。

予想に違わず、校舎予定地の全面にわたって、中～近世の耕作痕跡などともに古墳時代初頭を中心とした時期の堅穴住居・柱穴・土坑・溝などが検出された。調査は2009年5月末まで行った。途中、2009年4月25日には現地説明会を開催して調査状況の公開を行った。あいにく説明会当日は雨であったが、地元住民や考古学関係者など総計約100人の参加があった。

また、2009年度・2010年度には、京田辺市の同志社大学歴史資料館において遺物整理作業や報告書作成作業を行った。こうした作業を経て本書が完成して刊行にいたった。報告書作成に関しては、若林の指示のもと歴史資料館の非常勤職員や本学や他大学の学生らが作業を行った。

第3節 調査の方法

【掘削作業】

今回の調査は、同志社中学校・高等学校校舎部分について行われた。前節に述べたように、調査区は校舎部分の全面にわたった。約9000㎡程度の範囲にわたったが、地表面から約10～50cmの部分については、機械掘削によって堆積土を除去した。遺構面は、近世以後の耕作やグランド整備によってすでに削平されており、いわゆる遺物包含層は確認できない状態であった。そのため、機械掘削後の掘削面からすでに遺構が確認できる状態であった。機会掘削後、人力で遺構面精査を行うと、住居・柱穴・土坑・溝などが多数検出され、遺構埋土を人力で掘削することとなった。廃土置場が広く確保できなかったため、南北に調査区を分割し、反転して掘削作業・記録作業を行った。

【測量基準・地区割】

調査に際しては、国土座標を用いた地区割り設定を行った。国土座標系については、2002年度以後、日本測地系から世界測地系へと移行が行われている。今回の調査は新基準である世界座標系に即してすべての測量作業を行っている。今回の調査地は、この座標体系上においては、第Ⅵ座標系上に位置している。また、水準については、東京湾平均海水準面を基準とする標高を採用している。

この座標系に基づけば、当調査区は、 $X=-103380 \sim -103540m$ 、 $Y=-19580 \sim -19390m$ の範囲内に相当する。そこで、 $X=-103370m \cdot -19580m$ を基点とした10mメッシュの地区割名称を設定して、調査を行った。同点を基準に、西側へ順に10mごとにA・B・C・D～Tの20区画、南側へ順に1・2・3・4～17の17区画の名称を与えた。各10m区画については、その組み合わせでA-1区・B-2区という呼称を与えた。

本文中にみえる各遺構の所在地情報は、この区画に基づいた表現である。また、調査に際して遺物取り上げを行った際には、各遺物ラベルにこの地区割名称を記入し、遺物取上げ単位で行った出土遺物登録作業にもこの地区割名称を用いた。したがって、本書に掲載されていない出土遺物についても、その資料に貼付された遺物ラベルや、収納データはこの地区割りを利用した記載がなされ、最低10m区画単位での出土位置情報が復元可能となっている。

【記録作業】

遺構情報の記録は、実測図と写真の2種類の方法を用いた。実測図については、一部を座標軸などに沿った基準線から手実測する手法をとったが、大半は㈱アジア航測による写真測量によって作成した。個別遺構の平・断面図に関しては最低1/10縮尺での実測精度を確保するようにし、遺構全体の平面図作成については、1/50縮尺の精度を保つようにした。

また、これとは別に、作業風景や遺構・遺物の検出状況、土層断面の情報などについては、35mm白黒、ブローニー版のカラーリバーサルフィルムおよびデジタル一眼レフカメラによって記録撮影を行った。

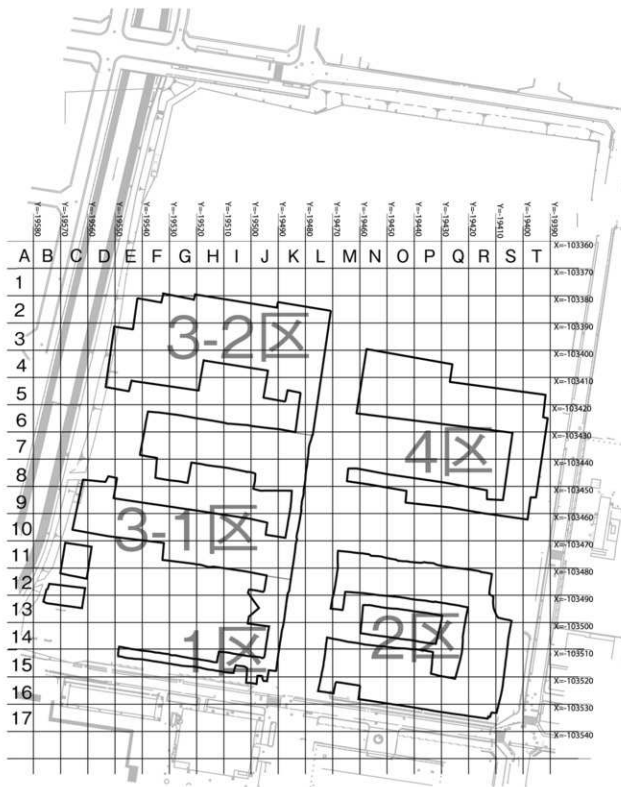


図 1.2 調査区と地区割

第2章 層序

調査区全体においては、無遺物層と考えられる礫～シルト層上面の堆積物のうち、近現代の盛土・整地層より下位については、基本的に大別3層に分層することが可能であった。1層は褐色中～粗粒砂まじりシルトを基調としており、土壌化の進行が顕著である。この1層からは主に近世の陶磁器類が出土している。江戸時代耕土層と考えられる。3-2区北部や2区西端・南半部など、基盤層からの堆積が薄い調査区では層厚が10cm以下であったが、それ以外では20cm前後の層厚が確認できた。

1層の下面には、灰褐色の細～中粒砂まじりシルトを基調としており、古代～中世の陶器・須恵器片が出土する2層が堆積していた。各粒度の砂粒が均質に混じる状況と遺物量が顕著でないことからこの層も古代・中世耕土と考えられる。3-2区・4区・2区では層厚が10cm前後であったが、3-1区では約20cm程度と厚く堆積していた。出土遺物は、奈良時代末～平安時代の須恵器・陶器片が主体を占めるが、少量ながら弥生時代末～古墳時代初頭の土器片も含まれている。そのため、弥生時代末～古墳時代初頭の遺物包含層に古代・中世の耕作が及んだ結果として2層が形成された可能性が高い。

2層の下面には、無遺物層である3層が調査区全面に展開していた。3層は扇状地下部の堆積物と考えられる礫層を基調とするが、礫層の凹部には黄褐色シルトが堆積している状態であった。今回調査では、2層下面にひろがるこの2つの層相を含む無遺物層全体を3層と総称して調査を進めた。結果的には、弥生時代末以後の遺物包含層である2層と、無遺物層である3層の層界面を遺構検出面として発掘調査を進めた。結果として、遺構面からは弥生時代末～近世に形成された遺構が検出されることとなった。

3層上面である遺構検出面の標高は、もっとも高い3-2区北部で96.6m前後、もっとも低い3-1区東端部で94.8m前後であった。つまり、おおむね今回調査区の南北約120mの間に、北から南にかけて約1.8m前後の比高差が認められたことになる。さらに、調査区北半部は2層形成時の古代・中世の耕作による弥生時代末・古墳時代初頭の生活面の削平は顕著であったと考えられることから、古代以前には相当起伏に富んだ地形が展開していたことが想定される。

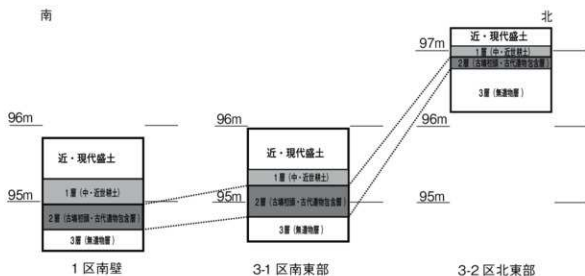
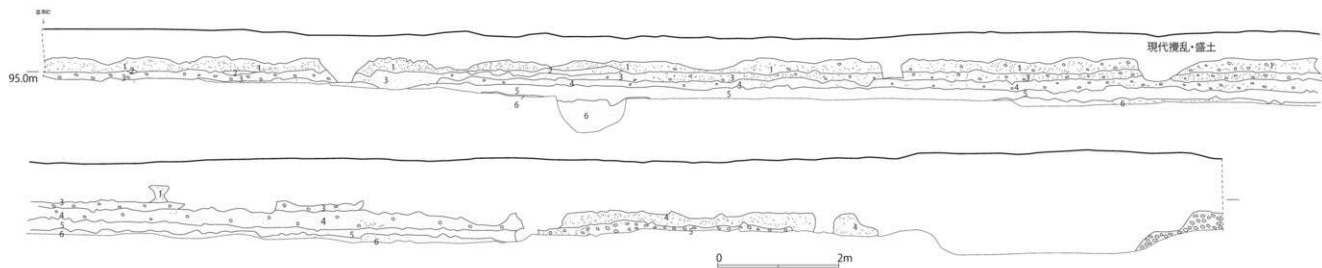
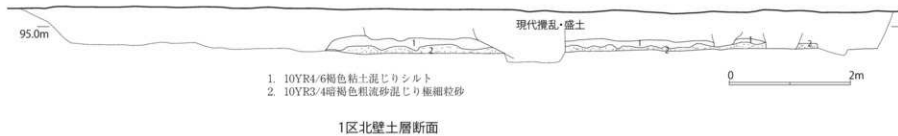


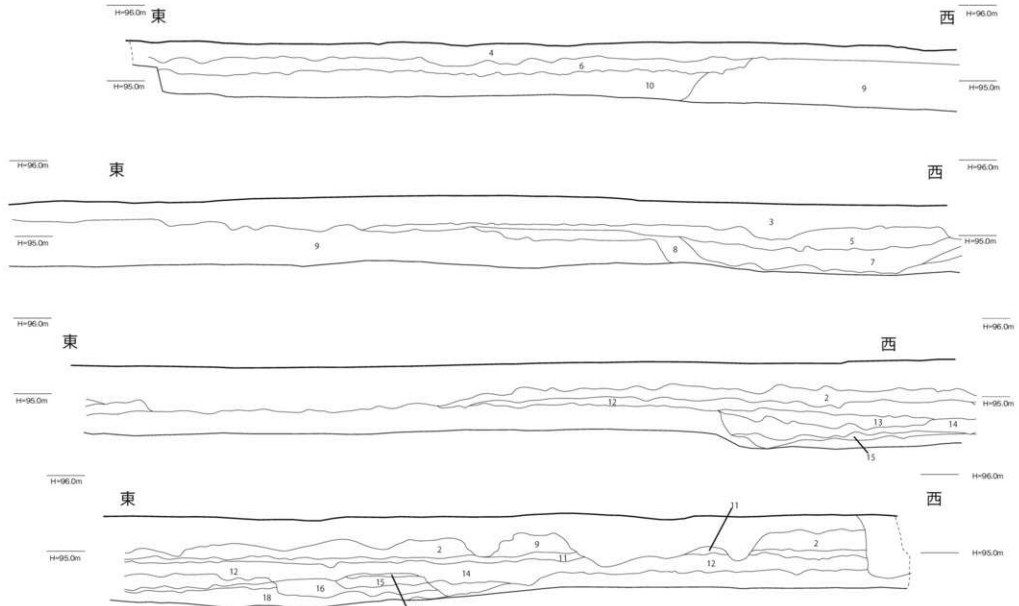
図 2.1 南北方向基本層序柱状図



1. 10YR5/4にふい黄褐色粗粒砂混じり極細粒砂 (下面に鉄分沈着)
2. 10YR6/6明黄褐色礫混じり極細粒砂 (全面に鉄分沈着)
3. 10YR5/4にふい黄褐色礫混じりシルト
4. 10YR4/2灰黄褐色礫混じり粘土
5. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂混じり粘土 (東端部では10cm大礫を少量含む)
6. 2.5 Y 明褐色粘土混じりシルト
6. 2.5 Y 明褐色礫混じりシルト

1区南壁土層断面

図 2.2 1区土層断面図



- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1 | 6 10YR5/4 におい黄褐
φ = ~2cm程度の礫をごく少量含むシルト | 11 7.5YR5/8 明褐
φ = ~2cm程度の礫をごく少量含むシルト | 16 10YR5/2 灰黄褐
φ = ~3cm程度の礫・細粒砂を少量含む粗粒砂 |
| 2 10YR5/1 褐灰
φ = ~2cm程度の礫・粗粒砂をごく少量含むシルト | 7 7.5YR5/2 灰青褐
φ = ~5cm程度の礫・粗粒砂を少量含むシルト | 12 10YR5/2 灰青褐
φ = ~2cm程度の礫をごく少量含むシルト | 17 5YR5/2 灰青褐
粗粒砂をごく少量含むシルト |
| 3 10YR5/2 灰黄褐
φ = ~5cm程度の礫を少量含むシルト | 8 7.5YR5/1 褐灰
φ = ~4cm程度の礫・粗粒砂の多く混じるシルト | 13 10YR6/2 灰黄褐
φ = ~5cm程度の礫を多く含むシルト | 18 10YR5/1 褐灰
粗粒砂の多く混じるシルト |
| 4 10YR3/3 暗褐
φ = ~3cm程度の礫を少量含むシルト | 9 10YR5/3 におい黄褐
φ = ~2cm程度の礫・粗粒砂の多く混じるシルト | 14 10YR4/2 灰黄褐
φ = ~5cm程度の礫を少量含むシルト | |
| 5 10YR6/2 灰青褐
φ = ~10cm程度の礫・粗粒砂混じりシルト | 10 7.5YR5/6 明褐
φ = ~3cm程度の礫をごく少量含むシルト | 15 10YR4/1 褐灰
φ = ~3cm程度の礫・粗粒砂を少量含むシルト | |

図 2.3 2区土層断面(東西方向) [1/50]

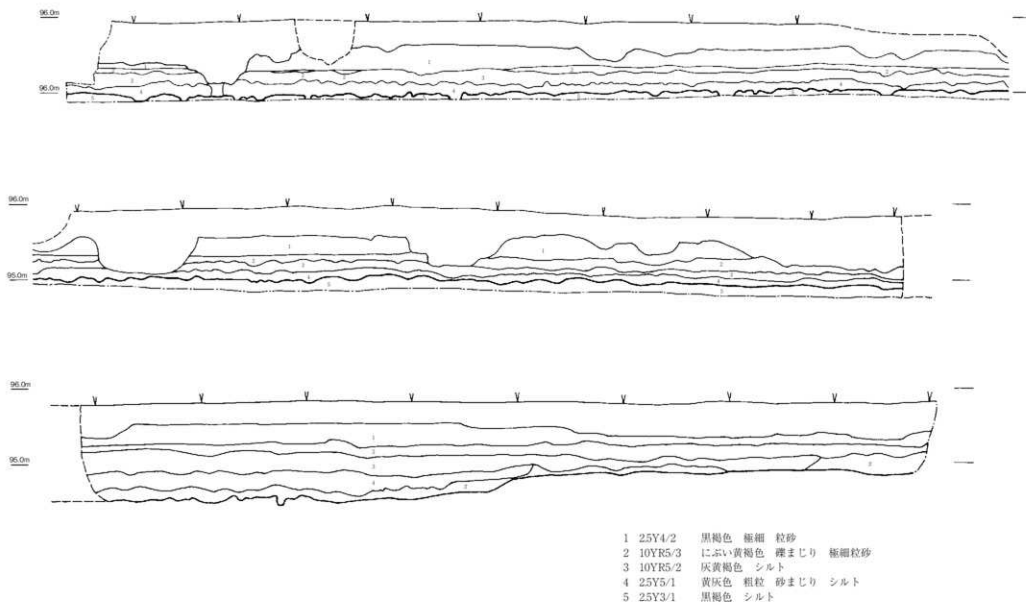


図2.4 3-1区南壁土層断面図

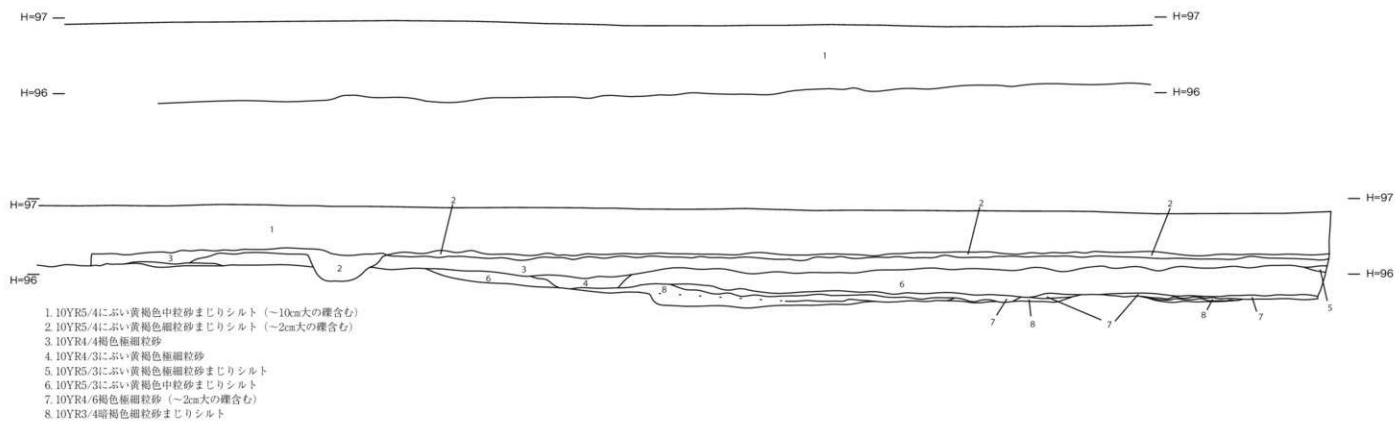


図 2.5 4区北壁土層断面図 [1/50]

第3章 検出された遺構

第1節 1区の遺構

当調査区は、1990年度の同志社高校理科館建設にともなう発掘調査区に隣接する地点である。理科館建設時の調査では、古墳時代初頭～古代の土器が出土する沼状遺構が検出されている。今回の調査でもそういった低湿地の自然遺構などの検出が予想されたが、実際にはそのような遺構のひろがりには及んでいなかった。1区では、弥生後期末土器・古式土師器・平安時代須恵器・中近世の陶器類などを含む2層を除去した3層上面で遺構検出をおこなったが、南半部に不整形な土坑群、北東部で落込み状遺構と土坑を検出した。1区は、北東部を1Aトレンチ、南辺の東西方向に長い部分を1トレンチと呼称して調査を進めた。

1Aトレンチでは、深さ5cm程度で一辺約3m規模の平面不整形を呈する落込み13の周辺に、深さ10cm程度で平面径20cm程度の柱穴14・17が検出された。落込み13の平面形態からみて、これらの遺構群が堅穴住居を形成する可能性もあるが、落込み内に主柱穴が見つからないことなどから、住居・建物跡と判断することは難しい。これらの遺構からは時期特定が可能な遺物は出土しなかった。埋土の土色・質は、他の調査区で検出された中～近世の耕作に伴う遺構と酷似していることから、中～近世の遺構とも考えられる。

ただ、長軸長約18m、短軸長約12m平面規模の土坑15(図3.2)については、埋土からは少量ながら土師器細片が出土したことから、古墳時代の遺構と考えられる。

南辺部の1Bトレンチでは、平面が径40～70cmの不整形円で深さ約10cm程度の小土坑・柱穴(土坑1.2.5.6.7.8.9.11)が多数みられるが、時期特定が可能な遺物は出土しなかった。また、土坑3や土坑10は不整形な落ち込み状の遺構である。これらにおいても、時期特定が可能な遺物は出土しなかった。また、南辺部で検出された長軸長約70cm、短軸長約40cm、深さ約20cm規模の土坑4の埋土からは基部に大きな抉部をもつサヌカイト製凹基式石鏃が出土している。形態からは縄文時代の所産と考えられる。さらに北東部の2層中からもチャート製の凹基式打製石鏃が出土している。縄文土器片は出土していないが、縄文時代の人的活動が当調査区近辺にまで及んでいた可能性は高い。ちなみに、当遺跡における2005年の同志社小学校建設に伴う調査時には縄文中期・後期の土器片が出土していることから、当遺跡における縄文時代遺物の出土地点は1区にまで及んでいることがわかる。

1Bトレンチでは2層中に古式土師器片が多く含まれることから、弥生時代末～古墳時代前期の遺構形成があったことは想定できる。ただ、2層からは古代・中世の土器片も多く出土していることから、複数の時期の遺構形成があったと考えるべきであろう。ただし、柱穴などの明確な居住遺構がみあたらないこと、遺構への土器投棄などの生活に密着した遺物廃棄行為が見つからないことから、いずれの時代にも当地区での集落形成があったとは考えにくい状態である。

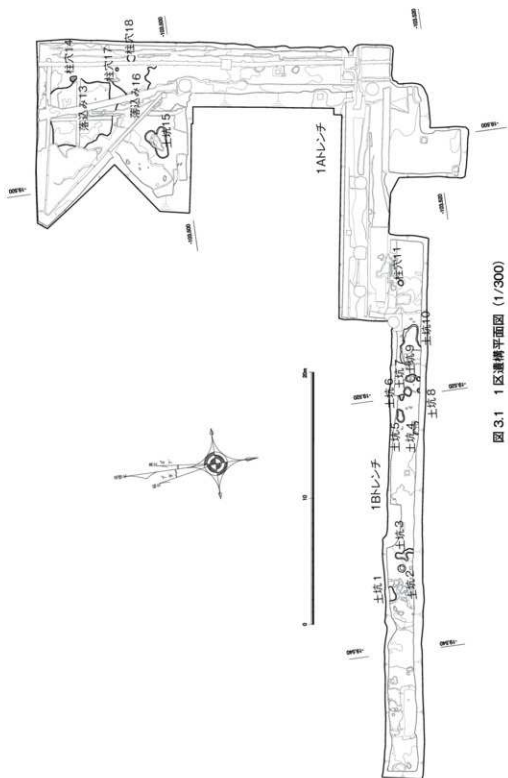


図 3.1 1区遺構平面図 (1/300)

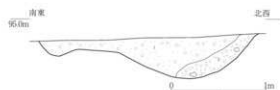


図3.2 1区土坑15土層断面図 [1/40]

表3.1 1区検出遺構

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
土坑	1	1B	F-15	118	不明	4	10YR4/3にぶい黄褐色粘質土(径0.5～2cmの礫多く混じる)	不明	
土坑	2	1B	F-15	60	60	12	10YR4/3にぶい黄褐色粘質土(径0.5～2cmの礫混じる)	不明	
土坑	3	1B	F-15	110	45	11	10YR3/4暗褐色粘質土(25V6/2灰黄色シルトまじり細粒砂ブロック混)	不明	
土坑	4	1B	G-15	105	不明	8	10YR3/4暗褐色粘質土(10YR5/8黄褐色粘質土(粘性弱・ベース)ブロック混)	縄文時代?	石礫出土
土坑	5	1B	G-15	105	55	9	10YR3/4暗褐色粘質土(10YR5/8黄褐色粘質土(粘性弱・ベース)ブロック混)	不明	
土坑	6	1B	G～H-15	45	40	8	10YR3/4暗褐色粘質土(10YR5/8黄褐色粘質土(粘性弱・ベース)ブロック混)	不明	
土坑	7	1B	H-15	65	60	9	10YR3/4暗褐色粘質土(10YR5/8黄褐色粘質土(粘性弱・ベース)ブロック混)	不明	
土坑	8	1B	H-15	不明	35	7	10YR3/4暗褐色粘質土(10YR5/8黄褐色粘質土(粘性弱・ベース)ブロック混)	不明	
土坑	9	1B	H-15	100	55	17	10YR3/4暗褐色粘質土(10YR5/8黄褐色粘質土(粘性弱・ベース)ブロック混)	不明	
土坑	10	1B	H-15	325	不明	9	10YR3/4暗褐色粘質土(10YR5/8黄褐色粘質土(粘性弱・ベース)ブロック混)	不明	
柱穴	11	1A	H-15	45	40	5	10YR6/4にぶい黄橙砂礫(径0.5～4cmの礫)	不明	
落込み	13	1A	J-13	不明	550	10	10YR4/6褐色シルトまじり細粒砂(径0.5～2cmの礫少量含む)	中～近世?	
柱穴	14	1A	J-13	55	40	18	10YR4/4褐色粘質土(粘性弱・径2cmの砂岩含む)	中～近世?	落込み13を切る
土坑	15	1A	J-13	250	125	22	10YR4/4褐色粘質土(径0.5～1cmの礫含む)	古墳時代	断面図化(東から)
落込み	16	1A	J-13	不明	不明	3	7.5YR4/4褐色シルトまじり細粒砂(径0.5～5cmの礫多く含む・径2cmの砂岩含む)	中～近世?	
柱穴	17	1A	J-13	30	25	11	10YR4/4褐色粘質土(径0.5～1cmの礫含む)	中～近世?	
柱穴	18	1A	J-13	不明	65	4	10YR3/4暗褐色粘質土(粘質弱・粗粒砂含む)	中～近世?	

第2節 2区の遺構

当調査区は、中央部分を2A トレンチ、その周囲の北半部を2B トレンチ、南半部を2C トレンチと呼称して作業を進めた。主要な遺物包含層である2層からは、弥生後期末土器・古式土師器・平安時代須恵器・中近世の陶器類が出土している。1区に比べて全体に2層の遺物出土数は多く、特に弥生後期末土器・古式土師器の比率が多い。3層上面である遺構検出面の標高は2区東半部で95.0～95.2m、西半部で94.5～94.7mと東から西へ傾斜している。

土坑・溝・柱穴・竪穴住居などが検出されているが、1区に比べて、各遺構埋土からの遺物出土量が多く、遺構の形成・埋没時期の認定が一定程度可能である。このうち、溝23・25・34・94・104・130・131、土坑31・32・33からは、弥生後期末土器・古式土師器が複数出土し、古墳時代初頭を中心とした時期に形成された遺構と考えられる。また竪穴住居62は布留式新相の古式土師器が出土しており、古墳時代前期に形成・埋没したと考えられる。さらにその北西部に検出された柱穴群のうち、列を形成している柱穴49～54からは断片的に古式土師器片が出土しており、古墳時代初頭・前葉の掘立柱建物の存在をうかがわせる。

このように、2区にはほぼ全面に古墳時代初頭を中心とする遺構が検出されていることになる。また、土坑31は、湧水層と考えられる砂層に達したところまではほぼ垂直に掘り込まれていることから井戸の可能性が高い。また、溝34からは多数の完形に近い土器群が投棄されている状況がうかがえ、土坑32・33でも同様の土器出土状況が確認できた。つまり、2区では古墳時代初頭・前葉の住居や生活関連遺構が展開していたと考えられる。

それ以外の遺構は古代以後に形成されたと考えられるが、溝35から平安時代の陶器片がまとまって出土した以外は、時期の限定できる出土遺物は僅少で、遺構の時期決定は難しい。1区同様に平安時代以後は、集落などの居住地ではなく、耕作地として利用されていたと考えるのが自然であろう。また、遺物包含層からは写真3.01のような銅銭が出土した。「元豊通宝」の銘が読み取れる。古代末～中世に広く流通した宋銭であるが、私鑄銭なども多く中国製か否かは判別できない。いずれにしても当地区に古代末～中世に人的活動があったことをうかがわせる資料である。

2区の遺構については、表3.02にその内容の概略一覧を掲載した。その中でも多数の遺物が出土したり、遺構の機能などが特定できる主要遺構についてののみ、詳述を行う。



写真 3.01 2区遺物包含層から出土した宋銭



图 3.04 2区西半遺構平面図 (1/200)

图 3.05 2区東半遺構平面圖 (1/200)

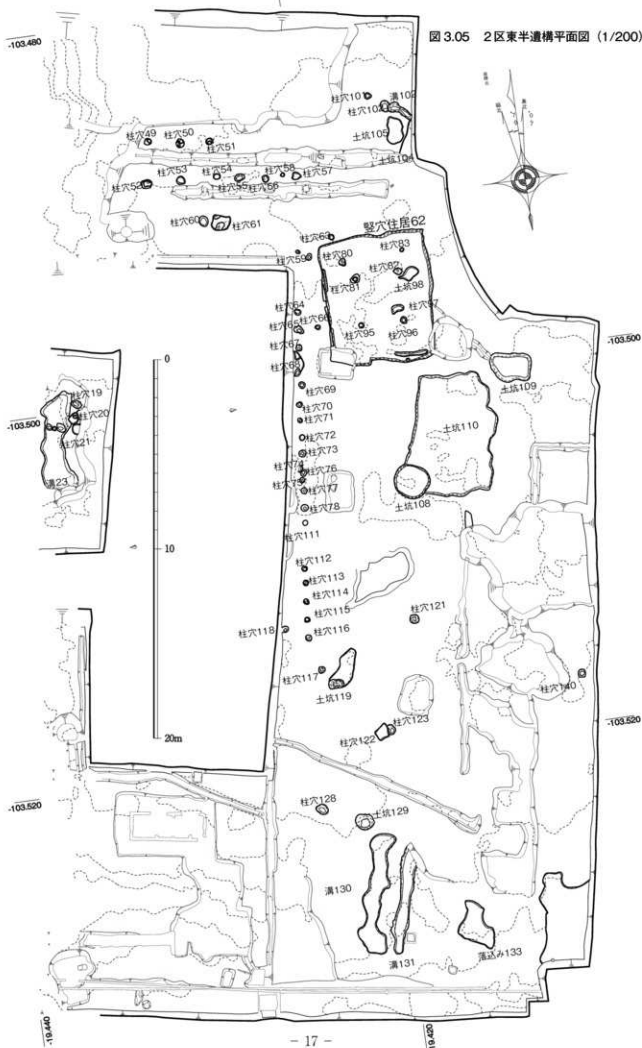


表 3.02-① 2区で検出された遺構①

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
柱穴	19	2A	P-13	55	40	13	75YR5/4 ぶい褐色砂礫(径～4cm 大の礫まばらに含む)	弥生時代末～古墳時代初期	溝 23 を切る。古式土師器出土
柱穴	20	2A	P-14	不明	不明	不明	75YR4/6 褐色砂礫(径～2cm 大の礫少量含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	21	2A	P-14	55	50	19	75YR5/3 ぶい褐色粘質土(径8cm 大の礫多数含む)	弥生時代末～古墳時代初期	柱穴 20 を切る
柱穴	22	2A	P-14	不明	55	6	10YR5/6 黄褐色極細粒砂(径 0.5～5cm 大の礫多数含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
溝	23	2A	P-13～14	不明	100	4	10YR6/4 ぶい黄褐色細粒砂(径 0.5～5cm 大の礫含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
土坑	24	2A	P-14	160	90	6	10YR4/4 褐色細粒砂(径 10cm 大の礫まばらに含む)	弥生時代末～古墳時代初期	古式土師器出土
柱穴	27	2A	P-14	75	不明	17	10YR5/4 ぶい黄褐色細粒砂(径 3cm 大の礫少量含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
土坑	28	2A	O～P-13	170	100	16	10YR5/4 ぶい黄褐色中粒砂混じりの細粒砂(径 3cm 大の礫少量含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	29	2A	P-13	不明	45	3	10YR5/6 黄褐色極細粒砂(径 5cm 大の礫まばらに含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	30	2A	P-14	40	35	18	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂(細粒砂径～2cm の礫少量含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
土坑	31	2A	O-13	不明	不明	62	10YR3/3 暗褐色シルトまじり細粒砂(細粒砂径～4cm の礫多く含む。土器多く含む)	弥生時代末～古墳時代初期	西半は攪乱により壊される。古式土師器出土
土坑	32	2A	N-13	250	170	5	10YR3/3 暗褐色シルトまじり細粒砂(細粒砂径～7cm 大の礫含む。炭化物微量含む。土器含む)	弥生時代末～古墳時代初期	長頸蓋・高杯出土。北西角は攪乱により壊される。古式土師器出土
土坑	33	2A	N-13	150	不明	9	10YR4/3 ぶい黄褐色シルトまじり細粒砂(細粒砂径～4cm の礫少量含む。炭化物微量含む。土器含む)	弥生時代末～古墳時代初期	蓋(?)出土。北半は攪乱により壊される。古式土師器出土
溝	34	2B	M～N-11～12	不明	875	40	10YR3/4 暗褐色砂礫(径～8cm 大の礫多数含む)	弥生時代末～古墳時代初期	石蔵出土
溝	35	2B	O～P-11～13	不明	425	39	10YR4/3 ぶい黄褐色砂礫(径～10cm の礫多く含む)	平安時代	
土坑	36	2B	N～O-12	600	250	10	10YR5/6 黄褐色砂礫(細粒。径～8cm 大の礫多く含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	49	2B	Q-12	40	35	9	10YR4/6 褐色シルトまじり細粒砂(径 5mm～1cm の礫と炭少量含む。ベースブロック混)	弥生時代末～古墳時代初期	柱穴 49～54 までは同一グループ
柱穴	50	2B	Q-12	50	50	13	10YR4/6 褐色シルトまじり細粒砂(径 5mm～1cm の礫少量含む。ベースブロック混)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	51	2B	Q-12	40	35	11	10YR5/6 黄褐色シルトまじり細粒砂(ベースブロック混)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	52	2B	Q-12	60	45	11	10YR4/6 褐色シルトまじり細粒砂(径 5mm～1cm の礫少量含む。ベースブロック混)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	53	2B	Q-12	50	45	17	10YR4/6 褐色シルトまじり細粒砂(径 5mm～1cm の礫少量含む。ベースブロック混)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	54	2B	Q-12	40	35	15	10YR5/6 黄褐色シルトまじり細粒砂(径 5mm～3cm の礫少量含む。ベースブロック混)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	55	2B	Q-12	55	40	17	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂(径 5mm～4cm の礫含む)	弥生時代末～古墳時代初期	柱穴 55～57 までは同一グループ
柱穴	56	2B	Q-12	40	35	13	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂(径 5mm～6cm の礫含む。炭少量混じる)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	57	2B	Q-12	50	40	9	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂(径 5mm～1cm の礫含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	58	2B	Q-12	25	20	4	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	59	2B	Q-13	25	20	10	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂	弥生時代末～古墳時代初期	

表 3.02-② 2区で検出された遺構②

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
柱穴	60	2B	Q-13	55	50	5	10YR4/6 褐色シルトまじり細粒砂(径2~4cmの礫少量含む)	弥生時代末~古墳時代初期	
柱穴	61	2B	Q-13	100	75	9	10YR4/6 褐色シルトまじり細粒砂(径4cm大の礫含む。25Y4/2暗灰黄色シルトまじり細粒砂ブロック混)	弥生時代末~古墳時代初期	
竪穴住居	62	2B	R-13	665	575	23	10YR3/4 暗褐色シルトまじり細粒砂(径3cmの礫多く含む)	古墳時代前期	
柱穴	63	2B	R-13	35	30	21	10YR4/6 褐色シルトまじり細粒砂(径1cm大の礫少量含む)	弥生時代末~古墳時代初期	
柱穴	64	2B	Q-13	40	30	5	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(径4cmの礫少量含む)	弥生時代末~古墳時代初期	
柱穴	65	2B	Q-13	60	35	20	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(径1cmの礫少量含む)	中~近世?	
柱穴	66	2B	Q-13	30	25	4	10YR5/4 におい黄褐色シルトまじり細粒砂	中~近世?	
柱穴	67	2B	Q-13	35	30	14	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(径1cmの礫含む)	中~近世?	
土坑	68	2B	Q-13	135	不明	4	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(径4cmの礫含む)	中~近世?	
柱穴	69	2B	Q-14	40	30	14	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(径2cmの礫含む)	中~近世?	
柱穴	70	2B	Q-14	35	30	14	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(径2cmの礫含む)	中~近世?	
柱穴	71	2B	Q-14	30	30	7	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(極細、径1cmの礫含む、炭混じり)	中~近世?	
柱穴	72	2B	Q-14	30	30	4	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(極細、径1cmの礫含む、炭混じり)	中~近世?	
柱穴	73	2B	Q-14	40	35	14	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(極細、径1cmの礫含む、炭混じり)	中~近世?	
柱穴	74	2B	Q-14	30	不明	6	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(極細、径1cmの礫含む、炭混じり)	中~近世?	
柱穴	75	2B	Q-14	30	26	10	25YR4/4 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(極細、径1cmの礫含む、炭混じり)	中~近世?	
柱穴	76	2B	Q-14	35	33	11	25YR4/3 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(極細、径4cm大の礫少量含む)	中~近世?	
柱穴	77	2B	Q-14	35	35	11	25YR4/3 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(極細、径4cm大の礫少量含む)	中~近世?	
柱穴	78	2B	Q-14	40	38	30	25YR4/3 オリーブ褐色シルトまじり細粒砂(極細、径4cm大の礫少量含む)	中~近世?	
落込み	79	2B	Q~R-14	55	45	34	10YR5/4 におい黄褐色シルトまじり細粒砂(径2cmの礫含む、径5cm大の礫少量含む)	不明	
柱穴	80	2B	R-13	40	38	30	竪穴住居 62 最下層埋土と同じ	弥生時代末~古墳時代初期	竪穴住居 62 床面検出(北西区)
柱穴	81	2B	R-13	55	45	34	竪穴住居 62 最下層埋土と同じ	弥生時代末~古墳時代初期	竪穴住居 62 床面検出(北西区)柱痕あり
柱穴	82	2B	R-13	50	35	17	竪穴住居 62 最下層埋土と同じ	弥生時代末~古墳時代初期	竪穴住居 62 床面検出(北東区)
柱穴	83	2B	R-13	23	20	12	竪穴住居 62 最下層埋土と同じ	弥生時代末~古墳時代初期	竪穴住居 62 床面検出(北東区)
土坑	88	2C	O-16	130	110	2	10YR5/6 黄褐色シルトまじり細粒砂(径5cm程の礫多く含む)	中~近世?	遺構 87 に切られる
溝	90	2C	O-16	95	20	1	10YR4/3 におい黄褐色粘質土(径0.5~3cmの礫含む・しまり悪い)	弥生時代末~古墳時代初期	
土坑	92	2C	O~P-15	150	不明	不明	10YR5/6 黄褐色粘質土	中~近世?	飛乱 86 に切られる 遺構 94 を切る
土坑	93	2C	O~P-16	165	110	10	10YR4/3 におい黄褐色シルトまじり細粒砂(径1~3cmの礫含む)	中~近世?	遺構 94 を切る

表 3.02-③ 2区で検出された遺構③

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
土坑	94	2C	O～P-15 ～16	135	130	24	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂	中～近世?	遺構 85・攪乱 86・遺構 92・遺構 93 に切られる
柱穴	95	2B	R-13	30	28	16		弥生時代末～古墳時代初期	竪穴住居 62 床面検出 (南西区)
柱穴	96	2B	R-13	40	35	30		弥生時代末～古墳時代初期	竪穴住居 62 床面検出 (南東区)
土坑	97	2B	R-13	65	35	8		弥生時代末～古墳時代初期	竪穴住居 62 床面検出 (南東区)
土坑	98	2B	R-13	80	58	11		弥生時代末～古墳時代初期	竪穴住居 62 床面検出 (北東区)
土坑	100	2B～2C	R-14	635	420	11	10YR4/6 褐色シルトまじり細粒砂 (径～10cm 大の礫多量含む)	弥生時代末～古墳時代初期	遺構 108 に切られる
柱穴	101	2B	R-12	35	35	17	10YR3/4 暗褐色シルトまじり細粒砂 (径 0.5～3cm の礫少量含む、やや粘性あり)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	102	2B	R-12	不明	48	17	10YR3/4 暗褐色シルトまじり細粒砂 (径 1～4cm の礫含む)	弥生時代末～古墳時代初期	土坑 99 に切られる
溝	103	2B	R-12	不明	30	26	10YR3/4 暗褐色シルトまじり細粒砂 (径 0.5～3cm の礫少量含む、やや粘性あり)	弥生時代末～古墳時代初期	土坑 99・遺構 104 に切られる
土坑	104	2B	R-12	不明	不明	不明	10YR4/4 褐色砂粘質土 (径 1～3cm の礫含む、粘性弱い、炭酸量混じる)	弥生時代末～古墳時代初期	遺構 103 を切る
土坑	105	2B	R-12	143	75	6	10YR3/4 暗褐色シルトまじり細粒砂 (径 1～4cm の礫含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
土坑	106	2B	L-12	90	不明	7	10YR4/3 に近い黄褐色シルトまじり細粒砂 (径 1～2cm の礫含む)	弥生時代末～古墳時代初期	
柱穴	107	2B	R-13	20	18	13			竪穴住居 62 床面検出 (南東区)
土坑	108	2B	R-14	185	163	18	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂 (径～10cm 大の礫多量含む)	弥生時代末～古墳時代初期	遺構 100 を切る、コンクリート混
土坑	109	2B～2C	R～S-14	213	145	10			
柱穴	111	2B	Q-14	30	30	10			落込み 79 の下層
柱穴	112	2B	Q-14	30	30	8	10YR4/3 褐色粘質土 (礫ほとんどなし)	中～近世?	
柱穴	113	2B	Q-15	35	35	8	10YR4/3 褐色粘質土 (礫ほとんどなし)	中～近世?	
柱穴	114	2B	Q-15	35	25	8	10YR4/3 褐色粘質土 (礫ほとんどなし)	中～近世?	
柱穴	115	2C	Q-15	30	28	7	10YR4/3 褐色粘質土 (礫ほとんどなし)	中～近世?	
柱穴	116	2C	Q-15	35	33	13	10YR4/3 褐色粘質土 (礫ほとんどなし)	中～近世?	
柱穴	117	2C	Q-15	35	35	16	10YR4/6 褐色シルトまじり細粒砂 (径 1～10cm の礫含む)	中～近世?	
柱穴	118	2C	Q-15	不明	33	17	7.5YR4/4 褐色粘質土 (礫ほとんどなし)	中～近世?	
柱穴	121	2C	R-15	50	45	19	10YR3/4 褐色シルトまじり細粒砂 (礫ほとんどなし)	中～近世?	
柱穴	122	2C	Q～R-15	70	60	5	10YR5/4 黄褐色シルトまじり細粒砂 (径 1～5cm の礫含む・土しまる)	中～近世?	柱穴 123 を切る
柱穴	123	2C	R-15	不明	55	11	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂 (礫ほとんどなし)	中～近世?	柱穴 122 に切られる
柱穴	128	2C	Q-16	60	50	10	10YR4/3 褐色粘質土	不明	
土坑	129	2C	Q-16	100	80	21	10YR5/4 に近い黄褐色粘質土 (しまりが無い土)	不明	
溝	130	2C	Q～R-16～17	625	110	7		弥生時代末～古墳時代初期	

表 3.02-④ 2区で検出された遺構④

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
溝	131	2C	Q~R-16~17	不明	60	11	10YR4/4 褐色粘質土(径1~5cmの礫含む・しまりない土)	弥生時代末~古墳時代初頭	攪乱に切られる
溝	132	2C	R-16~17				10YR5/6 黄褐色シルトまじり細粒砂(径1~10cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代初頭	
踏み込み	133	2C	R-16~17	不明	不明	9	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂(径1~10cmの礫含む)	中~近世?	
土坑	137	2C	N~O-15~16	165	110	4	10YR4/6 褐色粘質土	中~近世?	
注穴	140	2C	S-15	43	40	15	10YR4/2 灰黄褐色粘質土	弥生時代末~古墳時代初頭	
土坑	141	2C	N-15	170	50	不明	7.5YR5/2 灰褐色シルトまじり細粒砂(径1~4cmの礫含む)やや粘質	中~近世?	
踏み込み	142	2C	M~N-14~15	615	380	13	10YR5/2 灰黄褐色シルトまじり細粒砂(径1~5cmの礫含む)	中~近世?	
土坑	143	2C	M~N-14				10YR4/2 灰黄褐色シルトまじり細粒砂(径1~4cmの礫少し含む)	弥生時代末~古墳時代初頭	
溝	144	2C	L~M-14~16	不明	550	49	10YR4/2 灰黄褐色シルトまじり細粒砂(径1~5cmの礫含む)	古墳時代初頭~古代	
溝	147	2C	L-15	不明	110	7	10YR4/2 灰黄褐色シルトまじり細粒砂(径1~3cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代初頭	

〔土坑 31〕 (図 3.06)

本遺構は、2区中央の2A トレンチの北西部の X-103488m・Y-19450m 付近で検出された土坑である。北半部は調査区外のため、全体規模・形状は不明。検出された部分では、平面が不整形を呈し、東西幅約 3.8 m・深さ約 0.48 m の規模である。断面形態は逆台形を呈する。埋土中層より上位には全体に炭片を多く含んだシルト質の泥質土壌が堆積していた。埋土全体に多量の土器片が含まれており、中層からは板状・棒状の木製品の破片も出土した。大型土器片は、特に土坑南半に多く集積していた。また、南端部には幅一辺 30cm 程度の砂岩が埋積していた。形態から台石・砥石とも考えられる。

出土土器の年代は庄内式併行期と考えられるものが多い。このことから、本遺構は弥生時代末/古墳時代初頭に形成・埋積したと考えられる。遺構底面が基盤層の湧水砂層に達していることから、井戸としての機能を有していた可能性が高い。実際、遺構掘削を進めると、最下層に達した段階で、多量に湧水する状態となった。井戸最下層が埋没後、湧水機能を呈したのちに土器・木製品の破片が廃棄されたと推定できる。周囲の遺構から出土する土器片の時期と一致しており、居住域内の井戸ないしは水溜施設と考えられよう。

〔土坑 32〕 (図 3.07)

本遺構は、2区中央の2A トレンチの西部の X-103497～-103499m・Y-19452～-19454m 付近で検出された土坑である。北西端部は近現代擾乱のため欠失しているが、平面が不整形を呈する。東西幅約 2.5 m・南北長約 1.7m で深さ約 0.16 m の規模である。断面形態は皿状を呈する。埋土中には全体に炭片を含んだ細粒砂質が堆積していた。埋土全体に土器片が含まれており、北端部・西端部・東半部に土器片の集積部があった。集積部の土器片は、完形に近い形状の弥生土器～古式土師器が埋置場所で潰れた状態で検出された。特に東半部には 4～5 個体の土器が埋置されていたと考えられる。

出土土器の年代は庄内式併行期と考えられるものが多い。このことから、本遺構は弥生時代末/古墳時代初頭に形成・埋積したと考えられる。破碎・細片化した土器片の集積ではなく、一部破損しただけの土器を埋置したと考えられる。細頸壺・台付無頸壺・甕・高坏がみられ、各種の器種がバランスよく出土している。

2区で検出された周囲の柱穴などからも同時期の土器片が多く出土していることから、居住区内の土器廃棄場所であったと推測できる。

〔土坑 33〕 (図 3.08)

本遺構は、2区中央の2A トレンチの西部の X-103496～-103497m・Y-19450～-19452m 付近で検出された土坑である。北半部は近現代擾乱のため欠失しているが、平面が不整形を呈する。東西幅約 1.4 m・深さ約 0.06 m の規模である。断面形態は逆台形を呈する。埋土中には炭片を含んだ細粒砂質土が堆積していた。

埋土全体に土器細片が含まれており、中央部に土器片の集積部があった。集積部の土器片は、完形に近い形状の弥生時代末～庄内式期の甕が 1 点潰れた状態で検出された。このことから、本遺構は弥生時代末/古墳時代初頭に形成・埋積したと考えられる。

2区で検出された周囲の柱穴などからも同時期の土器片が多く出土していることから、居住区内の土器廃棄場所であり、東接する土坑 32 と類似した機能を持つ遺構と推測できる。本来は、土坑 32 と一体の遺構であったものが、遺構上半が削平されることにより、下半部だけが別遺構として検出されてしまった可能性もある。

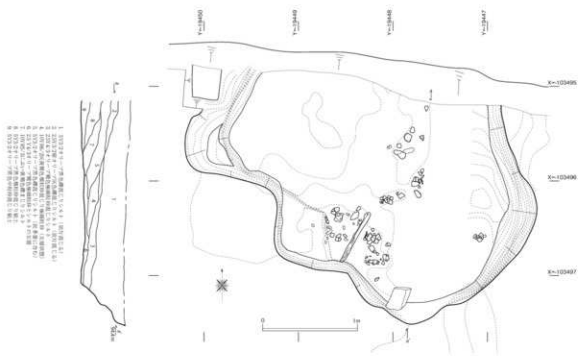


图 3.06 土坑 31 平·断面图 (1/40)

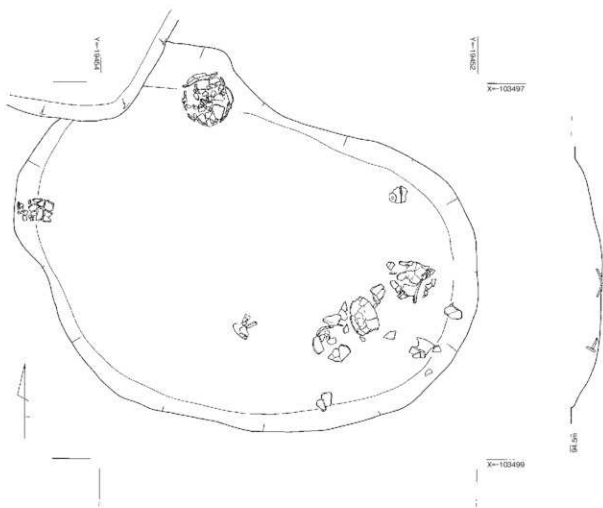


图 3.07 土坑 32 遗物出土状况 (1/20)

〔溝 34〕 (図 3.09)

本遺構は、2区北半の2Bトレンチ西部のX-103477～-103489m・Y-19452～-19457m付近で検出された溝状遺構である。南半部は調査区外のため形態不明であるが、2Aトレンチでは連続する遺構が確認できないため、2Bトレンチとの間で浅くなり、凹部が不明な状態になると考えられる。最大幅約8.4m・深さ約0.5mの規模である。断面形態は半円形を呈する。埋土中には砂礫が堆積していた。

埋土全体に土器細片が含まれており、東寄りの範囲に土器片の集積部が多数あった。集積部の土器片は、完形に近い形状の弥生時代末～庄内式期の土器がいくつも潰れた状態で検出された。このことから、本遺構は弥生時代末/古墳時代初頭に形成・埋積したと考えられる。集積していた土器は、壺・甕・鉢・高坏・小型器台とバラエティに富んでいる。特に北半部に土器廃棄が集中していることが注目される。

2区で検出された周囲の柱穴などからも同時期の土器片が多く出土していることから、居住区内の土器廃棄場所と推測できる。断面形態が浅く・半円形を呈すること、2区中央から南部では明確に連続する遺構が確認できないことなどから、不整形に形成された流路状の落込みだった可能性が高い。埋土の土質も砂礫質を中心としていることは、流路として機能していた推測を首肯する。

おそらく、古墳時代初頭の居住城内もしくはそれに接する領域にあった自然流路に土器が廃棄された結果、このような遺物出土状況が確認されたのであろう。ただし、遺構埋土には古墳時代初頭以前の遺物片は見受けられず、遺構形成そのものは同時期に近い年代だったと考えられる。古墳時代中期以後の遺物も見られないことから、埋没も同時期内に進行したと考えられる。

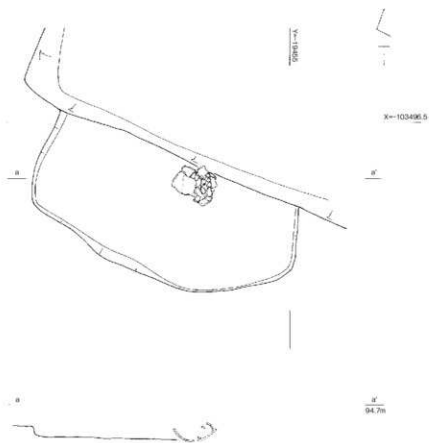


図 3.08 土坑 33 遺物出土状況 (1/20)

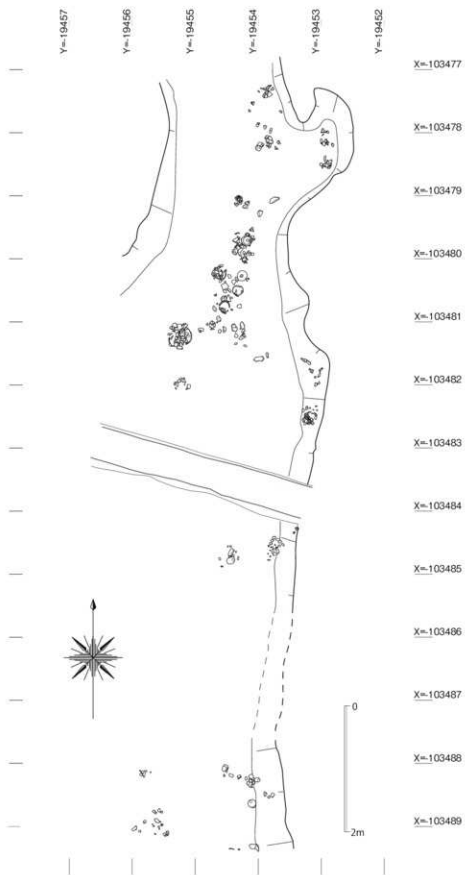


图 3.09 土坑 34 遺物出土狀況 (1/60)

〔竪穴住居 62〕 (図 3.10)

当遺構は、2区北半の2B トレンチの東端部、X=-103493 ~ -103500m、Y=-19414 ~ -19420m 付近で検出された。南北長約 6.6m・短辺約 5.8m 規模の平面方形の竪穴住居跡である。検出面から床面までの深さが約 0.2m 程度しかなく、きわめて浅い遺構であった。これは、前章の基本層序の概略でふれたように、当調査区が近世以後の削平を受けていたことによるもので、実際には数十cm以上の深さのある遺構だったと考えるべきであろう。

住居跡の周壁溝は西辺と南辺の一部で検出されただけで、平面では全周した状態では確認できなかった。壁溝は2か所とも幅約 0.2m、床面からの深さ約 0.1m の規模であった。ただし、東西方向の土層断面図には、床面形成雄と考えられる最下層 (図中の3層) の上面が壁際で小さく凹んでいる状態が確認でき、壁溝が全周していた可能性はある。住居跡の南東隅・南西隅は後世の攪乱によって破壊されているため、壁溝が外部へと延びているか否かは確認できなかった。

いずれにしても、平面・断面ともに壁溝は1条だけで、主柱穴も4本一組でしか検出されていないことから、重複や建て替えなどは行われなかった可能性が高い。

また、柱穴 81・82・95・96 は当竪穴住居の上屋を支える主柱痕跡と考えられる。柱穴 80・83 も主柱穴に類似した規模の柱穴で、上屋を支える何らかの役割を果たしていた可能性がある。柱穴 82 の東には、長軸長約 1.2m・短軸長約 0.7m 規模の平面不整楕円形の土坑 98 が、深さ約 0.2m 程度床面から掘り込まれた状態で検出された。また、柱穴 96 の東～南にも浅い落込み状の凹みがみられる。それ以外には床面には土坑状の遺構は確認できず、炉跡と考えられる遺構も明確ではなかった。

床面と考えられる断面図中の3層上面では遺物はごくわずしか出土していない。しかし中層からは多数の土師器片が出土している。後章に示すように、布留式中～新相の土器群が多く出土している。最上層からは古墳時代後期初頭の須恵器も出土している。このことから、当竪穴住居は、古墳時代前期に廃棄された後、中～後期まで完全に埋積せずに凹地の状態であったと推定できる。

〔掘立柱建物〕 (図 3.11)

当遺構は、2区北半の2B トレンチの北東部、X=-103487 ~ -103490m、Y=-19423 ~ -19430m 付近で検出された。柱穴 49・50・51・52・53・54 で構成される掘立柱建物である。これら柱穴群の周囲には後世の攪乱が多く形成され、建物の全体形態は不明である。柱穴の平面規模はいずれも 0.4m 前後の不整形。深さはいずれも 0.1m 前後と浅い。これは、前章の基本層序の概略でふれたように、当調査区が近世以後の削平を受けていたことによるもので、実際には数十cm以上の深さのある遺構だったと考えるべきであろう。土層断面からは柱根部と考えられる部分が径 0.05m 程度あったことが推定できる。柱間は、1.5 ~ 1.7m である。

これらの柱穴から出土した遺物は、弥生土器・土師器片である。詳細な時期決定は難しいと考えられるが、周囲の遺構から多く出土している弥生時代末～庄内式併行期の土器群と考えて矛盾はない。おそらく、この掘立柱建物は、古墳時代初頭の所産と考えられる。

本遺跡では、当該期の竪穴住居は複数検出されているが、掘立柱建物を構成する柱列を確認することはこれまでできていない。2004 年度の発掘調査時も、柱穴は多数検出されていたが、明確な建物を復元することはできなかった。この遺構の存在により、本遺跡の古墳時代初頭居住域に竪穴住居だけでなく、掘立柱建物があった可能性が高くなった。集落内の居住可能遺構の数を類推する上で重要である。

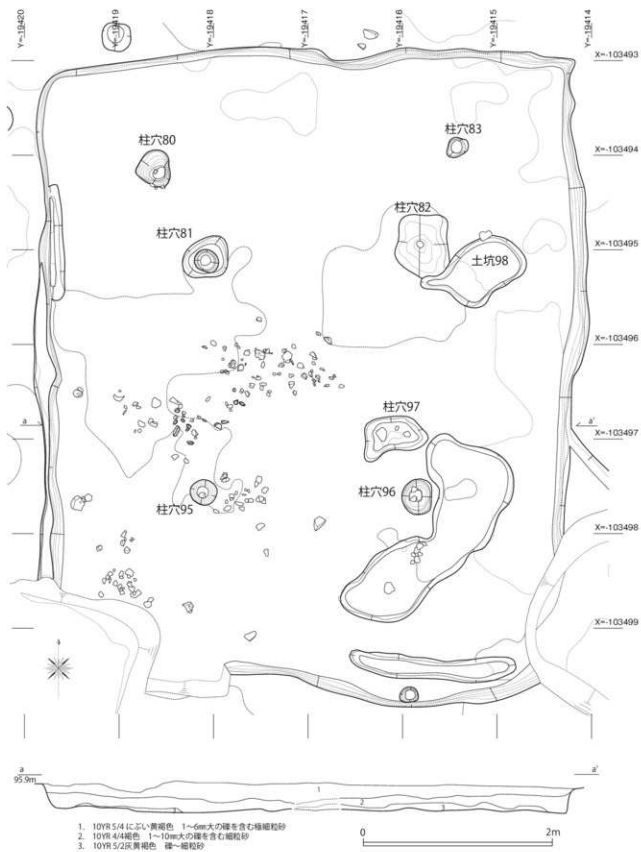


図 3.10 竪穴住居 62 平・断面図 (1/40)

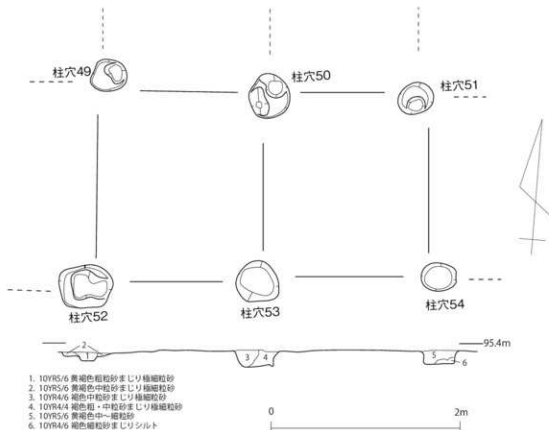


図 3.11 掘立柱建物平・断面図 (1/40)

第3節 3区の遺構

[3-1区]

当調査区は、1区の南側部分を3Aトレンチ、そこから南西方向に離れた部分を3B・3Cトレンチ、その北側に東西方向に広がる部分を3Dトレンチと称して調査を進めた。

主要な遺物包含層である2層からは、弥生後期末土器・古式土師器・平安時代須恵器・中近世の陶器類が出土している。ただし、2区などに比べて著しく僅少である。

3Aトレンチにおいては、検出された遺構は多数あるが、その多くが、不整形で断面形態が皿状を呈する浅い落ち込み状遺構で、おそらく自然地形と考えられる。その中でも落込み180は、深さ約0.5mの凹地で、下層に自然木の根が広い範囲に残存している状況が確認された。この遺構は、形状や堆積状況などから、1990年の理科館調査時に検出された沼状遺構からの続く自然地形の一部と考えられる。埋土中からは、弥生時代末土器・古式土師器・平安時代須恵器などが出土しており、弥生時代末～古代にかけて開口していた窪地と考えられる。3Aトレンチでは、西半部では3層上面の遺構検出面の高さが95.5m程度であるが、東半部では95m前後と低い状態であった。それに呼応して、東半部では3層が粘土質で、検出遺構埋土もシルト～粘土質であることなど広い範囲で低湿な堆積状況が確認された。また、この低湿部の落込み154からは、サヌカイト製凹基式石鏃が出土している。1区出土石鏃と類似した形態であることから、縄文時代の所産と考えられる。このことからすると、当調査区では、3層の形成は縄文時代以前ということになり、3-1区東半部は弥生～近世にかけて湿潤な状態にあったと考えられる。

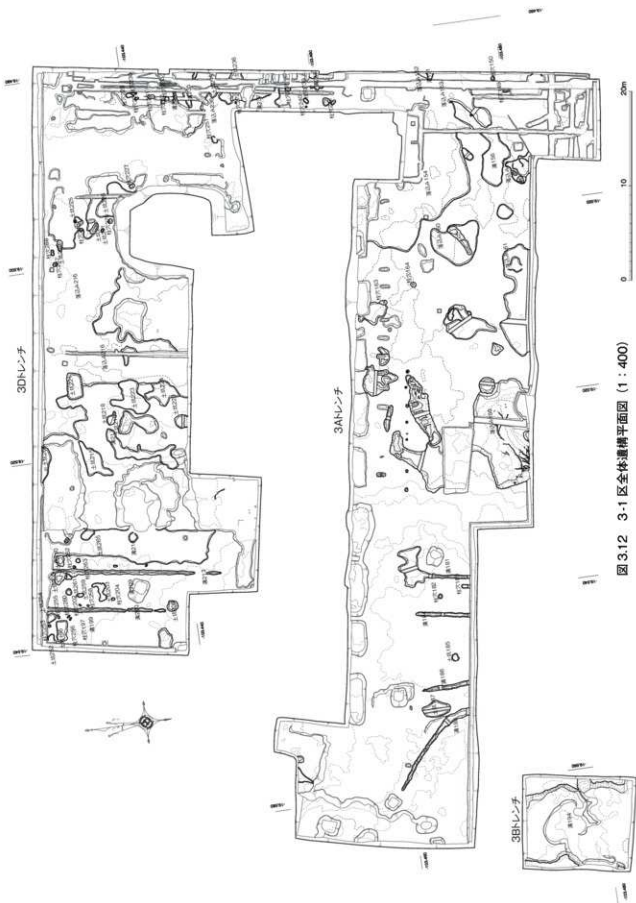


図 3.12 3-1 区全体遺構平面図 (1 : 400)

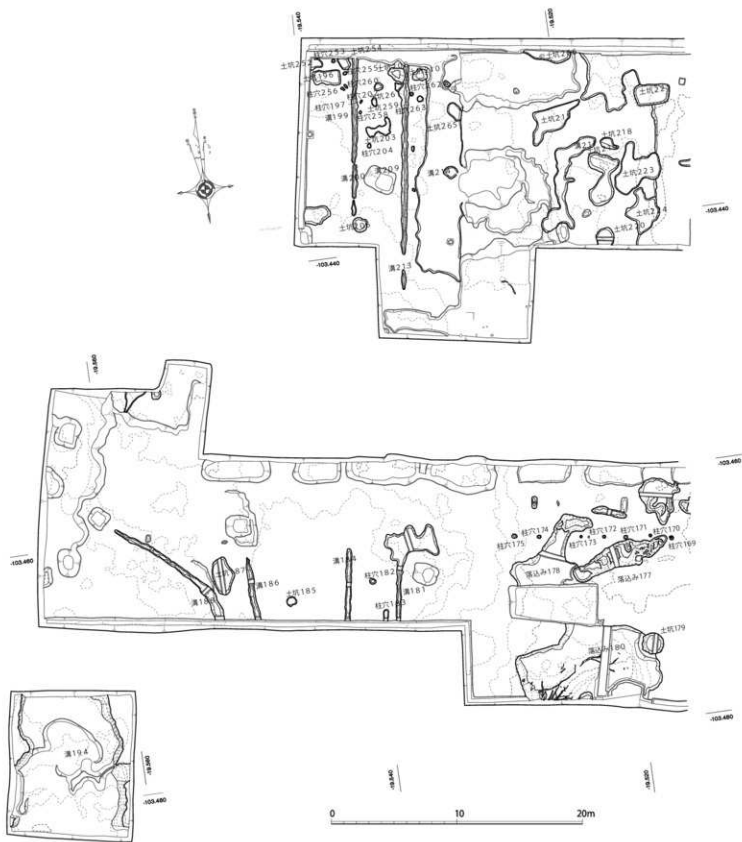


图 3.13 3-1 区西半遺構平面图 (1/300)

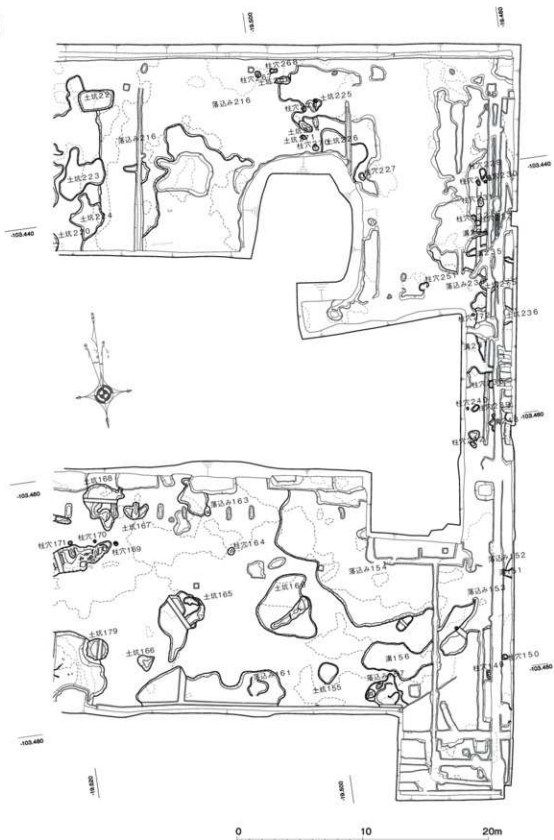


图 3.14 3-1 区东半遗構平面图 (1 : 300)

また、高燥な堆積環境にある3B・3Cトレンチでは、南北方向にのびる不整形な溝状の凹み（溝194）が検出された。埋土中からは中～近世陶磁器類が出土している。この遺構は現岩倉川河道に平行することから、堤防背後の排水路遺構とも考えられるが、3Cトレンチでは底面が不整形で、土坑状遺構の集積状況を呈する部分もあった。岩倉川堤防背後で行われた土取り作業の集積した結果溝状の凹みが形成された可能性もある。

3Dトレンチは遺構検出面が95.0～95.3m程度で、3層の基層となる堆積物も粗粒砂～礫などを主体としている。溝や多数の不整形な落込み・土坑が検出されているが、こういった遺構の多くからは中～近世陶磁器類が出土している。溝状遺構は耕作痕跡で、土坑状遺構も居住遺構とは認めにくく、耕作地近辺での人的活動の痕跡と考えられる。ただし、3Dトレンチの西辺部には、柱穴状の遺構が多数検出され、居住遺構が展開していた可能性が高い。またそのうちのいくつかの埋土からは、弥生時代末土器・古式土師器片が出土している。遺構検出面の標高をみると、西半部に比べ0.2m程度低く、基盤となる3層中にもシルト質堆積物が目立つ状態である。この部分は、古代以前特に古墳時代初頭前後の生活遺構形成があり、遺構形成面がやや低かったために後世の削平・攪乱を免れて遺構が残存したものと考えられる。

このように、3-1区全体の遺構形成をみると、南東部は低湿地、東半部は高燥で中～近世の耕作関連遺構しか残存せず、北西部にのみ古代以前、特に古墳時代初頭前後の居住遺構の残存が認められることになる。また、3-1区東半部には、3A,3Dトレンチを貫くように小溝2条が並行（溝184・200・204と溝181・213・209）している状況が確認できた。これは道路遺構の側溝の可能性が高い。おそらく、条里地割にそった道路の痕跡と考えられる。遺構埋土からは近世陶磁器片が出土していることから江戸時代の地割遺構と考えられる。

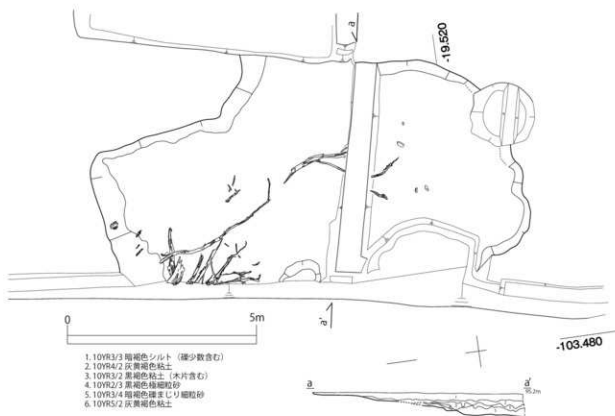


図 3.15 落込み 180 平・断面図 (1/100)

表 3.03-① 3-1 区から検出された遺構①

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
柱穴	149	3A	K-11～12	75	不明	14	10YR3/4 暗褐色粘質土	中～近世	水道管に切られる
柱穴	150	3A	K-11	40	35	10	7.5YR4/3 褐色粘質土	中～近世	
溝	151	3A	K-11	不明	55	2	5YR5/3 にぶい赤褐色粗粒砂まじりシルト (径～3mm 大の礫含む)	中～近世	
落込み	152	3A	K-11	不明	不明	4	7.5YR5/3 にぶい褐色粗粒砂まじりシルト	中～近世	
落込み	153	3A	J～K-11	不明	135	11	7.5YR4/3 褐色シルト (径～3mm 大の礫含む)	中～近世	土坑 160・162 に切られる
落込み	154	3A	I～J-10 ～11	不明	不明	5	5YR4/4 にぶい赤褐色粗粒砂まじりシルト	中～近世	土坑 155 に切られる 石蝕出土
土坑	155	3A	J-11	155	80	4	7.5YR6/4 にぶい橙色シルト (径～3mm 大の礫少量混じる)	中～近世	落込み 154 を切る
溝	156	3A	J-11	不明	208	5	5YR3/4 暗褐色シルト (径～5mm 大の礫少量混じる)	中～近世	
土坑	157	3A	J-11～12	不明	195	7	7.5YR3/3 暗褐色細粒砂まじりシルト	中～近世	
土坑	158	3A	I～J-11	163	145	5	7.5YR3/2 黒褐色粗粒砂まじりシルト	中～近世	
土坑	160	3A	I-11	487	438	7	7.5YR4/2 灰褐色シルト (径～5mm 大の礫少量含む)	中～近世	土坑 159 に切られる 落込み 153 を切る
土坑	161	3A	I-11	1175	不明	6	5YR4/1 灰褐色シルト (径～1cm 大の礫少量含む)	中～近世	
土坑	162	3A	K-11	23	18	27	7.5YR5/4 にぶい褐色粗粒砂まじりシルト	中～近世	落込み 153 を切る
落込み	163	3A	H～I-10	不明	175	8	10YR2/2 黒褐色細粒砂まじりシルト (ベアスブロック混、径～1cm の礫少量含む)	中～近世	
柱穴	164	3A	I-10	60	50	12	10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂まじりシルト (径～2cm の礫含む)	中～近世	
落込み	165	3A	H～I-11	568	300	4	10YR3/2 黒褐色シルト (粘性強)	中～近世	
土坑	166	3A	H-11	118	90	19	10YR3/4 暗褐色細粒砂まじりシルト	中～近世	
土坑	167	3A	H-10	195	110	21	10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂まじりシルト (径～2cm の礫含む)	中～近世	
土坑	168	3A	H-10	380	278	9	10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂まじりシルト (径1～2cm の礫含む)	中～近世	
柱穴	169	3A	H-10	38	30	12	10YR5/6 黄褐色シルトまじり細粒砂 (径0.5cm 大の礫含む)	中～近世	柱痕 (?) は 10YR5/3 にぶい黄褐色
柱穴	170	3A	H-10	25	23	9	10YR4/3 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径1cm 大の礫含む)	中～近世	
柱穴	171	3A	H-10	33	33	7	10YR4/3 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径0.5～3cm 大の礫含む)	中～近世	
柱穴	172	3A	G-10	30	25	5	10YR4/2 灰黄褐色シルトまじり細粒砂 (径0.5～2cm 大の礫含む)	中～近世	
柱穴	173	3A	G-10	23	20	6	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂 (径0.5cm 大の礫含む、やや粘性有り)	中～近世	
柱穴	174	3A	G-10	33	25	6	10YR5/3 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (0.5～2cm 角の礫少量含む)	中～近世	
柱穴	175	3A	G-10	40	30	10	10YR5/3 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (0.5～10cm の礫含む)	中～近世	
溝	176	3A	G～H-10	280	55	24	10YR4/3 にぶい黄褐色シルトまじり粗粒砂 (径0.5～3cm の礫やや多く含む)	中～近世	
落込み	177	3A	G～H-10	795	168	23	10YR5/3 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径0.5～2cm の礫含む)	中～近世	土坑 178 を切る
落込み	178	3A	G-10	不明	225	13	10YR4/3 にぶい黄褐色シルトまじり粗粒砂 (径0.5 大の礫含む)	中～近世	土坑 177 に切られる

表 3.03-② 3-1 区から検出された遺構②

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
土坑	179	3A	H-11	170	165	30	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂 (径 0.5 ~ 1cm 大の礫含む)	中～近世	落込み 180 を切る
落込み	180	3A	G～H-11	不明	1150	72	10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂まじりシルト (径 0.5 ~ 1cm の礫含む、植物遺体 (木) 混じる)	中～近世	土坑 179 に切られる
溝	181	3A	F-10	680	60	10	10YR4/3 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径 1 ~ 10cm の礫多く含む)	中～近世	南側の溝状部は同色 (径 1 ~ 2cm の礫含む、炭化物混じる)
柱穴	182	3A	E～F-10	55	45	8	10YR5/3 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径 0.5 ~ 1cm 大の礫含む)	中～近世	
溝	183	3A	F-10	不明	33	5	10YR5/4 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径 1cm 大の礫含む)	中～近世	
溝	184	3A	E-10	不明	48	11	25Y4/2 暗灰黄色シルトまじり細粒砂 (径 0.5 ~ 2cm の礫含む、炭化物・ガラス混じる)	中～近世	
柱穴	185	3A	E-10	80	63	10	10YR5/3 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径 1 ~ 5cm 大の礫多く含む、炭化物混じる、粘性有り)	中～近世	
溝	186	3A	E-10	不明	45	11	10YR5/3 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径 1 ~ 5cm の礫多く含む)	中～近世	
落込み	187	3A	D-10	300	175	13	10YR5/4 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径 1 ~ 5cm 大の礫多く含む)	中～近世	
溝	188	3A	D9～10	不明	45	7	10YR3/3 暗褐色シルトまじり細粒砂 (径 0.5 ~ 10cm 大の礫含む、炭化物混じる)	中～近世	
柱穴	190	3A	D-8	不明	70	4	10YR5/4 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径 0.5 ~ 1cm の礫少量含む)	中～近世	
溝	191	3A	D-8	不明	100	4	10YR5/3 にぶい黄褐色シルトまじり細粒砂 (径 0.5 ~ 2cm 礫含む)	中～近世	
土坑	192	3B	C-12	不明	不明	10	10YR4/4 褐色粗粒砂まじり細粒砂	中～近世	№ 194 と同じ
落込み	194	3B	B～C-12 ～13	不明	740	50	10YR4/4 褐色粗粒砂まじり細粒砂	中～近世	
土坑	196	3D	F-6	218	110	12	10YR4/4 褐色礫 (径 0.5 ~ 3cm) ~ 極細粒砂 (炭片含む)	中～近世	
柱穴	197	3D	F-6	45	15	4	10YR3/3 暗褐色礫 (径 0.5 ~ 3cm) ~ 中粒砂	中～近世	
土坑	198	3D	E～F-7	不明	135	6	10YR4/6 褐色礫 (0.5 ~ 10cm) ~ 細粒砂	中～近世	
溝	199	3D	F6～7	不明	45	7	10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 (礫径 3cm 程少々含む)	中～近世	
溝	200	3D	F-7	130	35	5	10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂まじりシルト (礫径 1 ~ 5cm を少々含む)	中～近世	
溝	201	3D	F-7	30	15	3	10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂まじり極細粒砂 (礫 0.5 ~ 2cm を少々含む)	中～近世	
柱穴	202	3D	F-6	190	80	4	10YR4/2 灰黄褐色礫 (0.5 ~ 2cm) 混じり極細粒砂	中～近世	
土坑	203	3D	F6～7	43	30	5	10YR4/4 褐色極細粒砂 (礫径 0.5 ~ 2cm 少々含む)	中～近世	
柱穴	204	3D	F-7				10YR4/6 褐色礫 (径 1cm) まじり極細粒砂	中～近世	
土坑	206	3D	F-7	118	115	13	10YR3/3 暗褐色礫 (径 1 ~ 10cm) ~ 細粒砂	中～近世	
土坑	208	3D	F-6	不明	105	13	10YR3/4 暗褐色礫 (径 1 ~ 3cm) まじり細粒砂	中～近世	溝 209 に切られる
溝	209	3D	F6～8	不明	50	14	10YR4/3 にぶい黄褐色中粒砂まじり極細粒砂 (礫径 1cm 含む)	中～近世	土坑 208 を切る
土坑	210	3D	F-6	115	90	15	10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 (礫径 1cm、炭片含む)	中～近世	
柱穴	211	3D	F-7	45	23	4	10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 (礫径 1 ~ 3cm 含む)	中～近世	

表 3.03-③ 3-1 区から検出された遺構③

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構裡土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
柱穴	212	3D	F-7	30	20	3	10YR4/4 褐色粗粒砂まじり極細粒砂	中～近世	
溝	213	3D	F-8	155	35	6	10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂まじりシルト	中～近世	
溝	214	3D	F-G6 -8	不明	295	4	10YR4/6 褐色礫(径 0.5～5cm)～粗粒砂	中～近世	
落込み	215	3D	G-H6 -7	500	185	4	10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂まじり極細粒砂	中～近世	
溝	217	3D	G-H7	840	113	1	10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂(北側一部に極少量粒径 1～3cm を含む)	中～近世	
土坑	218	3D	H-7	155	85	3	10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂まじり中粒砂	中～近世	
落込み	219	3D	H-7	405	160	10	10YR5/2 灰黄褐色礫(径 1～3cm 程)まじり中粒砂	中～近世	
土坑	220	3D	H-8	不明	150	6	10YR4/4 褐色礫(径 1～3cm 程)まじり中粒砂	中～近世	
土坑	221	3D	H6-7	280	160	20	10YR4/3 にぶい黄褐色礫(0.5cm 程)まじりシルト	中～近世	
土坑	222	3D	H-17	212	518	8	10YR4/2 灰黄褐色礫(0.5～1cm 程)まじりシルト	中～近世	
落込み	223	3D	H-7	420	420	7	10YR4/2 灰黄褐色礫(0.5～2cm 程)まじりシルト	中～近世	
落込み	224	3D	H7-8	393	265	8	10YR5/4 にぶい黄褐色礫(径 1～5cm 程)まじり中粒砂	中～近世	
土坑	225	3D	J-7	85	60	3	7.5YR4/3 褐色細粒砂(中央に 10YR5/6 黄褐色細粒砂ブロック混じる)	中～近世	
落込み	226	3D	J-7	不明	320	7	10YR4/6 褐色礫(1～3cm)まじりシルト	中～近世	西半分が落込み 216 の下から検出
柱穴	227	3D	J-7	65	40	14	7.5YR4/6 褐色礫(1～2cm)まじりシルト	中～近世	
柱穴	228	3D	K-8	88	45	5	7.5YR5/6 明褐色細砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
柱穴	229	3D	K-8	50	28	6	7.5YR5/6 明褐色細砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
柱穴	230	3D	K-8	25	23	3	7.5YR5/6 明褐色細砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
柱穴	231	3D	K-8	95	40	14	10YR4/6 褐色細粒砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
柱穴	232	3D	K-8	不明	50	7	7.5YR4/4 褐色礫(1～2cm)まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
柱穴	233	3D	K-8	45	40	15	7.5YR4/4 褐色細砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
溝	234	3D	K-8	不明	45	14	7.5YR3/4 暗褐色礫(0.5～1cm)まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
溝	235	3D	K-8	不明	55	16	10YR4/6 褐色細粒砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
土坑	236	3D	K-8	不明	120	7	7.5YR4/4 褐色細粒砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
溝	237	3D	K-9	不明	不明	7	7.5YR4/4 褐色礫(1～5cm)まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
柱穴	238	3D	K-9	60	不明	5	7.5YR4/4 褐色細粒砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
柱穴	239	3D	K-9	65	40	7	7.5YR5/4 にぶい褐色細砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
柱穴	240	3D	K-9	25	18	8	10YR4/6 褐色細砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
土坑	241	3D	K-10	85	80	23	7.5YR4/4 褐色細粒砂まじりシルト	中～近世	

表 3.03-④ 3-1 区から検出された遺構④

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
柱穴	242	3D	K-10	60	35	12	10YR4/4 褐色細粒砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
柱穴	251	3D	K-8	85	50	4	7.5YR3/4 暗褐色礫(1～3cm)まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	
土坑	252	3D	F-6	不明	60	2	10YR5/3 にぶい黄褐色礫(1～5cm)まじり極細粒砂	中～近世	
柱穴	253	3D	F-6	30	30	7	10YR4/4 褐色極細粒砂 一部に礫(1～2cm)を含む	中～近世	
土坑	254	3D	F-6	不明	80	8	10YR4/3 にぶい黄褐色礫(1～5cm)まじり極細粒砂	中～近世	
柱穴	255	3D	F-6	35	25	4	10YR4/6 褐色細粒砂 一部に礫(0.5～3cm)を含む	中～近世	
柱穴	256	3D	F-6	35	18	5	10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 一部に礫(1～2cm)を含む	中～近世	
柱穴	258	3D	F-6	25	18	3	10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 一部に礫(3cm)含む	中～近世	
土坑	259	3D	F-6	70	40	3	10YR5/3 にぶい黄褐色礫(1～2cm)まじり細粒砂	中～近世	
土坑	260	3D	F-6	75	63	10	10YR4/2 灰黄褐色礫(1～5cm)まじり極細粒砂	中～近世	
土坑	261	3D	F-6	不明	60	3	10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 一部に礫(2cm)含む	中～近世	
柱穴	262	3D	F-6	30	30	不明	10YR5/4 にぶい黄褐色礫(0.5cm)まじり細粒砂	中～近世	
柱穴	263	3D	F-6	45	45	3	10YR4/3 にぶい黄褐色礫(1～2cm)まじり極細粒砂	中～近世	
土坑	264	3D	F-6	110	100	8	7.5YR5/6 明褐色極細粒砂 一部に礫(1～3cm)を含む	中～近世	
土坑	265	3D	F-6	115	95	7	10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂 一部に礫(1～3cm)を含む	中～近世	
落込み	266	3D	G～H-6	不明	不明	14	10YR4/3 にぶい黄褐色礫(0.5～5cm)まじり極細粒砂	中～近世	落込み 216 の下から検出
柱穴	267	3D	J-7	50	40	24	10YR4/4 褐色極細砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	落込み 216 の下から検出
柱穴	268	3D	J-7	60	28	6	10YR4/3 にぶい黄褐色極細砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	落込み 216 の下から検出
柱穴	269	3D	J-7	125	60	9	7.5YR3/4 暗褐色極細砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	落込み 216 の下から検出
柱穴	270	3D	J-7	40	35	11	7.5YR4/4 褐色細粒砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	落込み 216 の下から検出
柱穴	271	3D	J-7	50	33	不明	7.5YR4/3 褐色細砂まじりシルト	弥生時代末～古墳時代初頭	落込み 216 の下から検出
柱穴	272	3D	K-9	20	20	4	10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂まじりシルト	中～近世	
柱穴	273	3D	J-7	50	43	17	10YR4/4 褐色細粒砂まじりシルト	中～近世	落込み 216 の下から検出
土坑	274	3D	J-7	125	55	6	10YR4/4 褐色礫(1～2cm)まじり粘質土	中～近世	東半分は落込み 216 の下から検出
土坑	275	3D	K-8	不明	不明	不明	7.5YR3/4 暗褐色細砂まじりシルト	中～近世	

[3-2区]

当調査区は、全面を3Eトレンチと称して、分割せずに調査を進めた。主要な遺物包含層である2層は、当調査区北半部では5cm程度と薄く、南半部では10-15cmと厚く堆積していた。2層からは、弥生後期末土器・古式土師器・平安時代須恵器・中近世の陶器類が出土している。2層の遺物出土数の中では弥生後期末土器・古式土師器の比率が高い。

また、3層上面である遺構検出面の標高は、北半部で96.3～96.5m、南半部で95.6～95.9mであった。これは古代以後に南半部が大きく削平された結果と考えられる。ただ、北半部の2層が薄いことは北半部にも削平が及んでいたことも示している。結果として古墳時代以前の遺構の多くは、極めて浅く、これらは古代以後の耕作の結果と考えられる。

それでも当調査区では古墳時代以前、特に古墳時代初頭を中心とした時期の遺構が多数検出された。まず、方形の竪穴住居が3棟(竪穴住居282・291・394)検出された。竪穴住居は一辺5m程度の平面規模で、深さは約10～25cm程度であった。ただし、遺構検出面は、古代以後の耕作によって削平をうけていることから、実際の竪穴住居の深さは50cm以上あったと想定するべきであろう。その中でも竪穴住居291は比較的残存状況が良好であった。いずれも床面直上層には多数の土器片が集積した状態で出土している。これら、竪穴住居から出土した土器の形態は庄内式期前半の特徴を有しており、弥生時代後期末～古墳時代初頭に営まれた住居と考えられる。さらに、住居の近くには掘立柱建物も検出された。それ以外にも多数の柱穴が検出されており、竪穴住居以外の形態の建物もあったことが類推できる。

また、当調査区南半部の落込み378からは、多量の弥生時代後期末～古墳時代初頭の土器群が廃棄されている状況が検出された。この土器群は、竪穴住居と同じ庄内式期前半のものが中心と考えられる。現状では、隣接する窪地へ、居住域から生活物資が多数廃棄された結果としてこのような土器集積が形成されたものと考えたい。

それ以外の遺構としては、南半部を中心に中・近世の溝・土坑が検出されている。柱穴などは検出されないことから、中・近世には居住域ではなく耕作地として利用されていたと考えられる。

(竪穴住居282) (図3.19)

当遺構は、3-2区北半、X=-103530～-103535m、Y=-19380～-19382m附近で検出された。南北長約4.5m・短辺3.3m以上の規模の平面方形の竪穴住居跡と考えられる。遺構北半部は削平により欠失している。検出面から床面までの深さが約0.05m程度しかなく、きわめて浅い遺構であった。これは、前章の基本層序の概略でふれたように、当調査区が近世以後の削平を受けていたことによるもので、実際には数十cm以上の深さのある遺構だったと考えるべきであろう。

住居跡の壁面に接する周壁溝は東辺と南辺の一部で検出されただけで、平面では全周した状態では確認できなかった。壁溝は2か所とも幅約0.2m、床面からの深さ約0.1mの規模であった。東西方向の土層断面図をみても床面形成層は不明で、掘り込み面をそのまま床面としている可能性がある。

いずれにしても、平面・断面ともに周壁溝は1条だけで、主柱穴の可能性のある遺構は柱穴387しか確認できていない。柱穴280も主柱穴の可能性はあるが、深さ約0.1mと浅い。床面には炉跡と考えられる遺構も明確ではなかった。

床面上面では遺物はごくわずかしき出土していない。しかし、タケキメを持つ土器片もみられることから、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器群が出土していると考えられる。このことから、当竪穴住居は、弥生時代後期～古墳時代初頭のものと考えられる。

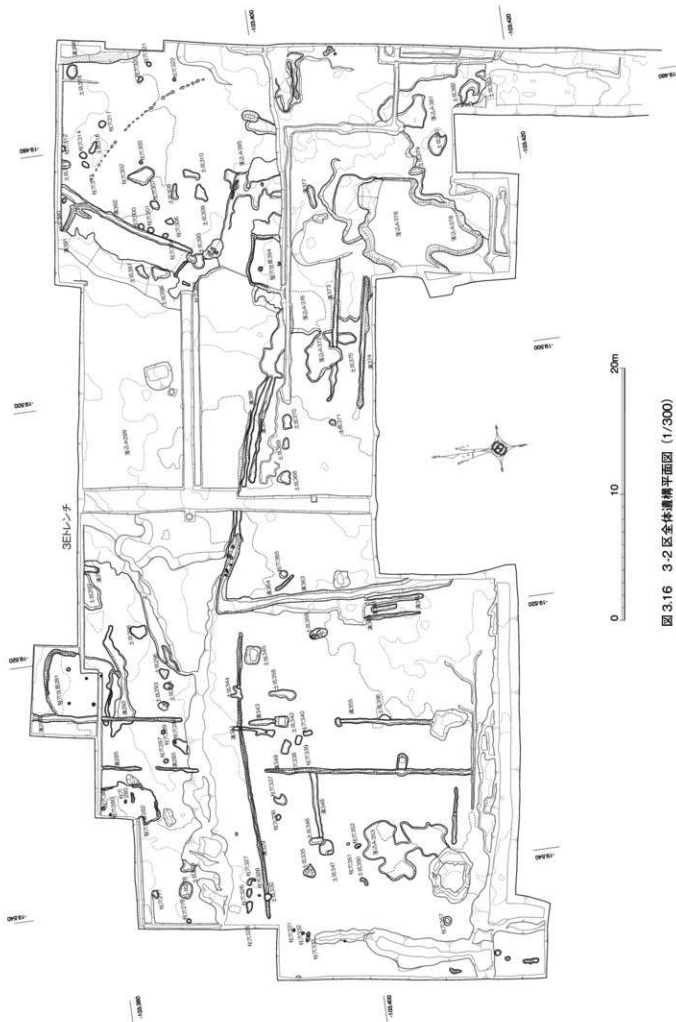


図 3.16 3-2区全体遺構平面図 (1/300)

表 3.04-① 3-2 区から検出された遺構①

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区別	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との 切合いなど)
柱穴	276	3E	E-2	40	35	4	10YR4/4 褐色礫(1~5cm) まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	277	3E	F-2	65	50	8	2.5Y4/2 暗灰黄色礫(1~5cm) 含む細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
土坑	278	3E	F-2	130	100	8	10YR4/3 にぶい黄褐色礫(1~5cm) まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
土坑	279	3E	F-2	不明	105	5	10YR5/4 にぶい黄褐色礫(1~5cm) 含む極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	南東側が覆乱に切られる
柱穴	280	3E	F-2	20	18	2	10YR4/2 灰黄褐色極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	10YR5/6 黄褐色焼土混じる 竪穴住居 282 内
柱穴	281	3E	F-2	55	25	11	10YR4/4 褐色礫(0.5~1cm) まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	5YR5/8 明赤褐色焼土混じる 竪穴住居 282 内
竪穴住居	282	3E	F-2	不明	不明	4	10YR4/4 褐色礫(1~7cm) 含む極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
溝	285	3E	G-2	不明	25	6	10YR5/4 にぶい黄褐色礫(1~5cm) 含む細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
溝	286	3E	F~G-2	340	25	7	10YR5/4 にぶい黄褐色礫(1~4cm) 含む細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	287	3E	G-2	45	35	11	2.5Y4/3 オリーブ褐色極細粒砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	288	3E	G-2	不明	75	4	10YR4/4 褐色礫(1~5cm) 含む極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	南側が覆乱に切られる
柱穴	289	3E	G-2	35	30	5	10YR4/4 褐色極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
溝	290	3E	G-2	不明	35	15	10YR5/4 にぶい黄褐色礫(1~4cm) 含む細砂	弥生時代末 ~古墳時代	竪穴住居 291・溝 292 を 切る
竪穴住居	291	3E	G-H-1 ~2	540	不明	22	10YR4/4 褐色礫(1~3cm) 含む極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	溝 290 に切られる 溝 292 を切る
溝	292	3E	G-H-2	880	70	13	10YR4/4 褐色礫(1~2cm) わずかに含む極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	溝 290・竪穴住居 291 に 切られる
土坑	293	3E	G-2	75	68	5	10YR4/2 灰黄褐色礫(1~7cm) まじり細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
土坑	294	3E	G-2	80	50	7	10YR5/4 にぶい黄褐色礫(1~4cm) まじり細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
土坑	295	3E	G-2	75	58	5	10YR4/4 褐色礫(2~3cm) まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
土坑	296	3E	H-2	130	95	4	10YR5/4 にぶい黄褐色礫(0.5~1cm) まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
土坑	297	3E	H-2	不明	不明	6	10YR5/4 にぶい黄褐色礫(1cm) 含む細砂	弥生時代末 ~古墳時代	黒チャート含む
溝	298	3E	H-2	不明	45	3	10YR5/4 にぶい黄褐色礫(1~4cm) 含む極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
落込み	299	3E	G-2・H- K2-4	不明	不明	20	10YR4/3 にぶい黄褐色礫(0.5~1cm) 含む極細砂	弥生時代末 ~古代	
柱穴	300	3E	K-2	55	50	4	10YR5/3 にぶい黄褐色細砂	弥生時代末 ~古墳時代	黒チャート含む
柱穴	301	3E	K2-3	55	45	6	10YR4/4 褐色礫(1~2cm) まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	黒チャート含む
土坑	302	3E	K2-3	220	125	7	10YR4/4 褐色礫(1~3cm) まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	303	3E	K2-3	28	25	4	10YR4/4 褐色極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	黒チャート含む
柱穴	304	3E	K-3	45	40	4	10YR4/4 褐色礫(1cm) まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	306	3E	K-3	75	45	3	10YR5/4 にぶい黄褐色細砂	弥生時代末 ~古墳時代	黒チャート含む
土坑	307	3E	K-3	85	65	3	10YR4/4 褐色極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
土坑	308	3E	K-3	125	35	3	10YR4/3 にぶい黄褐色礫(1~3cm) まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	

表 3.04-② 3-2 区から検出された遺構②

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区別	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との 切合いなど)
土坑	309	3E	K-3	145	95	4	25Y4/2 暗灰黄色礫(1~3cm)まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
土坑	310	3E	K-3	140	50	3	10YR5/3 におい黄褐色極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	311	3E	K-2	不明	65	4	10YR3/4 暗褐色礫(1~2cm)まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	312	3E	L-2	不明	50	2	10YR4/4 褐色礫(1~2cm)まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	313	3E	K-2	65	38	3	10YR5/4 におい黄褐色礫(1~2cm)まじり細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	314	3E	K-2	58	50	3	10YR5/4 におい黄褐色礫(1~5cm)まじり細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
土坑	316	3E	K~L-2	105	40	2	10YR5/4 におい黄褐色礫(0.5~1cm)まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	317	3E	L-2	60	50	5	10YR4/4 褐色礫(2~5cm)まじり極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
土坑	318	3E	L-2	105	83	4	10YR5/4 におい黄褐色礫(1~3cm)まじり細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	320	3E	L-3	50	35	7	25Y4/2 暗灰黄色礫(1~3cm)まじり中砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	321	3E	L-3	38	35	3	7.5YR3/4 暗褐色礫(0.5~1cm)含む細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	322	3E	L-3	25	20	4	10YR4/4 褐色極細砂	弥生時代末 ~古墳時代	
柱穴	323	3E	G-2	20	20	4	10YR4/4 褐色礫(2cm)含む極細砂	中~近世	壑穴住居 291 内 深さ 6cm
柱穴	324	3E	G-2	20	20	6	10YR5/3 におい黄褐色礫(0.5~1cm)まじり中粒砂	中~近世	壑穴住居 291 内 深さ 8cm
土坑	325	3E	E-3	100	45	9	10YR4/4 褐色礫(1~5cm)まじり粗粒砂	中~近世	炭化物含む
土坑	326	3E	E-3	70	40	12	10YR3/2 黒褐色礫(1~5cm)まじり粗粒砂	中~近世	炭化物含む
土坑	327	3E	F-3	80	45	8	10YR4/6 褐色礫(1~4cm)まじり中粒砂	中~近世	
柱穴	328	3E	E-3	20	15	8	10YR4/3 におい黄褐色礫(1~4cm)まじり中粒砂	中~近世	炭化物含む
溝	329	3E	E~G-3	2250	35	12	10YR4/6 褐色礫(0.5~6cm)含む中粒砂	中~近世	土坑 330・溝 341・土坑 344 に切られる
土坑	330	3E	E-3	63	60	4	10YR4/2 灰黄褐色礫(0.5~5cm)まじり粗粒砂	中~近世	溝 329 を切る
柱穴	331	3E	E-3	25	20	8	10YR3/2 黒褐色極細砂	中~近世	炭化物含む
柱穴	332	3E	E-3	25	25	11	10YR3/2 黒褐色礫(1~2cm)まじり細砂	中~近世	炭化物含む
土坑	333	3E	E-3	80	30	11	10YR3/2 黒褐色礫(1~5cm)含む細砂	中~近世	炭化物含む
柱穴	334	3E	E-3	18	15	7	10YR3/3 暗褐色礫(1~2cm)含む中砂	中~近世	炭化物含む
土坑	335	3E	F-3	95	80	34	10YR4/2 灰黄褐色礫(1~6cm)まじり中砂	中~近世	炭化物含む
土坑	336	3E	F-3	50	38	4	10YR4/2 灰黄褐色礫(0.5~5cm)含む細砂	中~近世	
土坑	337	3E	F-3	105	65	5	10YR4/2 灰黄褐色礫(1~10cm)まじり細砂	中~近世	
土坑	338	3E	G-3	110	60	6	10YR4/2 灰黄褐色礫(1~3cm)含む細砂	中~近世	
土坑	339	3E	G-3	73	45	2	10YR4/3 におい黄褐色礫(1~2cm)まじり中砂	中~近世	
土坑	340	3E	G-3	75	35	3	10YR4/1 褐色礫(1~5cm)含む細砂	中~近世	
溝	341	3E	G-3	335	30	4	10YR4/2 灰黄褐色礫(1~7cm)含む中砂	中~近世	溝 329 を切る

表 3.04-③ 3-2 区から検出された遺構③

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区別	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
土坑	342	3E	G-3	110	85	23	10YR4/3にぶい黄褐色礫(1～4cm)含む中砂	中～近世	炭化物含む 溝 343 を切る
溝	343	3E	G-3	不明	48	6	10YR4/6褐色礫(1～8cm)まじり粗粒砂	中～近世	土坑 342 に切られる
土坑	344	3E	G-3	115	85	3	10YR4/6褐色礫(1～10cm)含む中砂	中～近世	溝 329 を切る
土坑	345	3E	G-3	165	115	15	10YR4/4褐色礫(1～12cm)まじり中砂	中～近世	
土坑	346	3E	F-3	115	50	7	10YR4/2灰黄褐色礫(1～4cm)まじり細砂	中～近世	炭化物含む 土坑 347・溝 348 を切る
土坑	347	3E	F-3	120	105	6	10YR4/6褐色礫(1～5cm)まじり細砂	中～近世	土坑 346 に切られる(溝 348 との切合い関係は?)
溝	348	3E	F-3	不明	45	5	10YR4/4褐色礫(1～8cm)まじり細砂	中～近世	土坑 346 に切られる(土坑 347 との切合い関係は?)
溝	349	3E	E3～4	不明	40	8	10YR4/3にぶい黄褐色礫(1～10cm)まじり中砂	中～近世	土坑 354 を切る(溝 348 との切合い関係は?)
土坑	350	3E	E3～4	75	25	2	10YR4/2灰黄褐色礫(1～3cm)含む細砂	中～近世	炭化物少量含む
柱穴	351	3E	F-3	28	20	6	10YR3/2黒褐色礫(1～2cm)含む中砂	中～近世	炭化物含む
土坑	352	3E	E～F3	55	30	5	10YR3/3暗褐色礫(1～4cm)含む粗粒砂	中～近世	炭化物含む
落込み	353	3E	E～F4	不明	475	5	10YR4/4褐色礫(1～10cm)まじり中砂	中～近世	
土坑	354	3E	F4	不明	80	54	10YR4/2灰黄褐色礫(1～4cm)含む細砂	中～近世	溝 349 に切られる
溝	355	3E	G3～4	不明	45	10	10YR4/3にぶい黄褐色礫(1～5cm)まじり中砂	中～近世	土坑 356 を切る
土坑	356	3E	G4	95	不明	6	10YR5/3にぶい黄褐色礫(1～6cm)まじり粗粒砂	中～近世	溝 355 に切られる
土坑	357	3E	E4	73	60	8	10YR4/2灰黄褐色礫(1～3cm)まじり細砂	中～近世	
土坑	358	3E	G-3	215	65	3	10YR5/3にぶい黄褐色極細砂(径0.5～1cmの礫含む)	中～近世	
土坑	359	3E	G-3	150	76	35	10YR4/4褐色細砂(径0.5～3cmの礫含む、南半には径10～15cm大の石がまぎって入る)	中～近世	
溝	360	3E	G～H4	510	30	7	10YR4/4褐色細砂(径0.5～2cmの礫含む)	中～近世	溝 361 を切る
溝	361	3E	H4	205	35	6	10YR4/4褐色細砂(径0.5～3cmの礫含む)	中～近世	溝 360 に切られる
溝	362	3E	H4	不明	45	7	10YR4/4褐色中砂(径0.5～3cmの礫含む)	中～近世	
溝	363	3E	H3～4	不明	80	17	10YR5/3にぶい黄褐色細砂(径0.5～7cmの礫含む)	中～近世	
溝	364	3E	H3	188	25	8	10YR4/4褐色細砂(径0.5cmの礫少量含む)	中～近世	
土坑	365	3E	H3	65	60	7	5Y4/1灰色細砂(径0.5～2cmの礫少量含む)	中～近世	炭化物まじる
溝	366	3E	I3	不明	40	5	10YR4/3にぶい黄褐色中砂(径0.5～2cmの礫含む)	中～近世	
溝	367	3E	I3	不明	38	7	10YR4/3にぶい黄褐色中砂(径0.5～2cmの礫含む)	中～近世	
土坑	368	3E	I3	105	95	8	10YR4/4褐色中砂(径0.5～3cmの礫含む)	中～近世	
土坑	369	3E	I3	90	45	4	10YR4/4褐色中砂(径0.5～1cmの礫含む)	中～近世	
土坑	370	3E	I3	120	70	5	10YR4/6褐色中砂(径0.5～3cmの礫含む)	中～近世	
土坑	371	3E	I4	60	45	8	10YR5/3にぶい黄褐色中砂(径0.5～2cmの礫含む)	中～近世	

表 3.04-④ 3-2 区から検出された遺構④

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区別	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
落込み	372	3E	1-J-4	390	275	8	10YR6/4 におい黄褐色礫(径~12cm)まじり中砂	中~近世	溝 373・落込み 376 に切られる 落込み 375 を切る
溝	373	3E	1-J-4	不明	40	4	10YR4/6 褐色中砂(径0.5~3cmの礫含む)	中~近世	
溝	374	3E	1-J-4	1050	43	10	10YR4/6 褐色中砂まじり細砂(径0.5~2cmの礫含む)	中~近世	落込み 376 を切る
落込み	375	3E	J-4	不明	96	15	10YR5/3 におい黄褐色細砂(径~3cmの礫含む)	中~近世	落込み 372・溝 373 に切られる
落込み	376	3E	J-K-4	不明	不明	26	10YR5/6 黄褐色中砂(径~5cmの礫含む)	中~近世	落込み 372 を切る 溝 373 に切られる
土坑	377	3E	K-4	190	50	11	10YR6/3 におい黄褐色礫(径0.5~5cm)まじり粗砂	中~近世	
落込み	378	3E	J-L-4 ~5	不明	不明	79	10YR4/6 褐色中砂(径0.5~6cmの礫多く含む)	弥生時代末~古代	炭化物少量まじる 土坑 379・土坑 385・溝 386・攪乱に切られる
土坑	379	3E	K-5	130	63	6	10YR4/4 褐色中砂(径0.5~1cmの礫含む)	中~近世	落込み 378 を切る
土坑	380	3E	K-5	175	135	4	10YR4/6 褐色中砂(径0.5~4cmの礫含む)	中~近世	
土坑	381	3E	K-L-5	不明	180	4	10YR5/6 黄褐色細砂(径0.5~3cmの礫含む)	中~近世	攪乱に切られる
土坑	382	3E	K-L-5	208	70	7	10YR4/4 褐色中砂(径~2cmの礫含む)	中~近世	攪乱に切られる
土坑	383	3E	L-5	不明	70	3	10YR4/6 褐色中砂(径~2cmの礫含む)	中~近世	攪乱に切られる
土坑	384	3E	L-4	88	30	19	10YR5/6 黄褐色細砂(径~5cmの礫含む)	中~近世	
土坑	385	3E	L-4	不明	130	8	7.5YR4/3 褐色細砂(径0.5~3cmの礫含む)	中~近世	溝 386 に切られる 落込み 378 を切る
溝	386	3E	L-4	368	40	7	10YR5/4 におい黄褐色細砂(径0.5~4cmの礫含む)	中~近世	落込み 378・土坑 385 を切る
柱穴	387	3E	F-1	25	25	6	—	中~近世	竪穴住居 282 内
柱穴	388	3E	F-2	30	20	9	—	中~近世	竪穴住居 282 内
土坑	389	3E	J-3	65	23	6	10YR5/6 黄褐色細砂(径0.5~4cmの礫含む)	中~近世	
柱穴	390	3E	K-2	43	30	4	10YR4/6 褐色細砂(径0.5~2cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代	
溝	391	3E	K-2	不明	40	9	10YR4/6 褐色細砂(径0.5~4cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代	落込み 299 の下層
溝	392	3E	K-2~3	不明	55	13	10YR5/4 におい黄褐色細砂(径1~8cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代	落込み 299 の下層
土坑	393	3E	J-K-3	195	115	13	10YR5/8 黄褐色細砂(径~6cmの礫含む、中央部に径15cm 大の石数個まともまて入る)	弥生時代末~古墳時代	落込み 299 の下層
竪穴住居	394	3E	J-K-3 ~4	不明	435	16	10YR6/8 明黄褐色細砂(径~3cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代	落込み 299 の下層
落込み	395	3E	K-3~4	不明	不明	47	10YR5/4 におい黄褐色細砂(径~4cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代	落込み 299 の下層
溝	396	3E	L-2~3	120	58	5	10YR4/4 褐色細砂(径~3cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代	
土坑	397	3E	J-K-2				10YR4/4 褐色細砂(径~3cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代	炭化物有り
土坑	398	3E	J-2~3	145	75	11	10YR4/4 褐色細砂(径1~15cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代	炭化物有り
柱穴	399	3E	J-3	不明	不明	不明	10YR5/3 におい黄褐色極細砂(径1~2cmの礫含む)	中~近世	
土坑	400	3E	K-3	30	20	11	10YR4/6 褐色細砂(径0.5~3cmの礫含む)	中~近世	

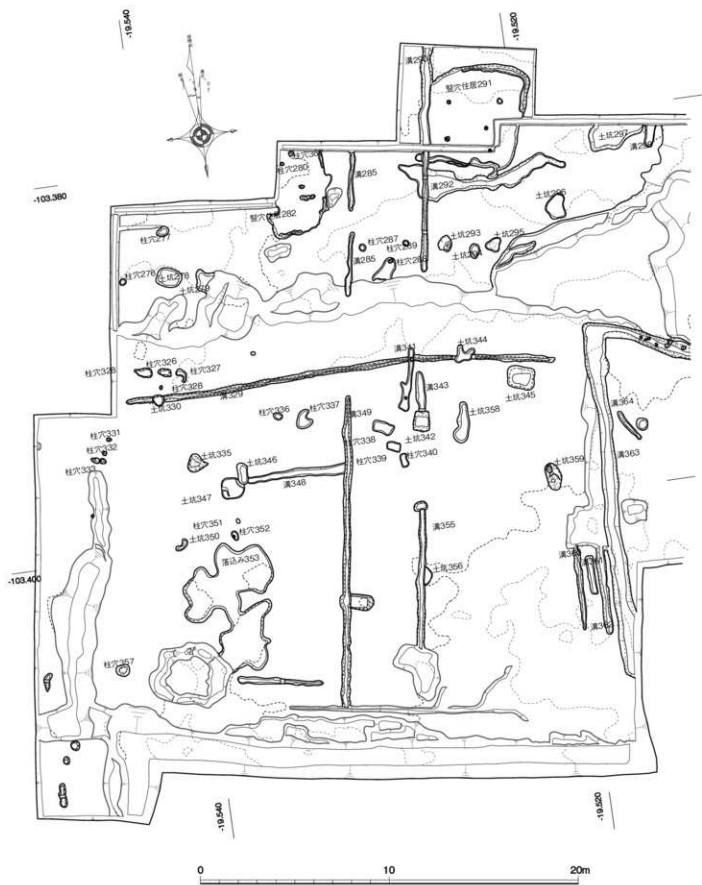


图 3.17 3-2 区西半遺構平面图 (1/200)

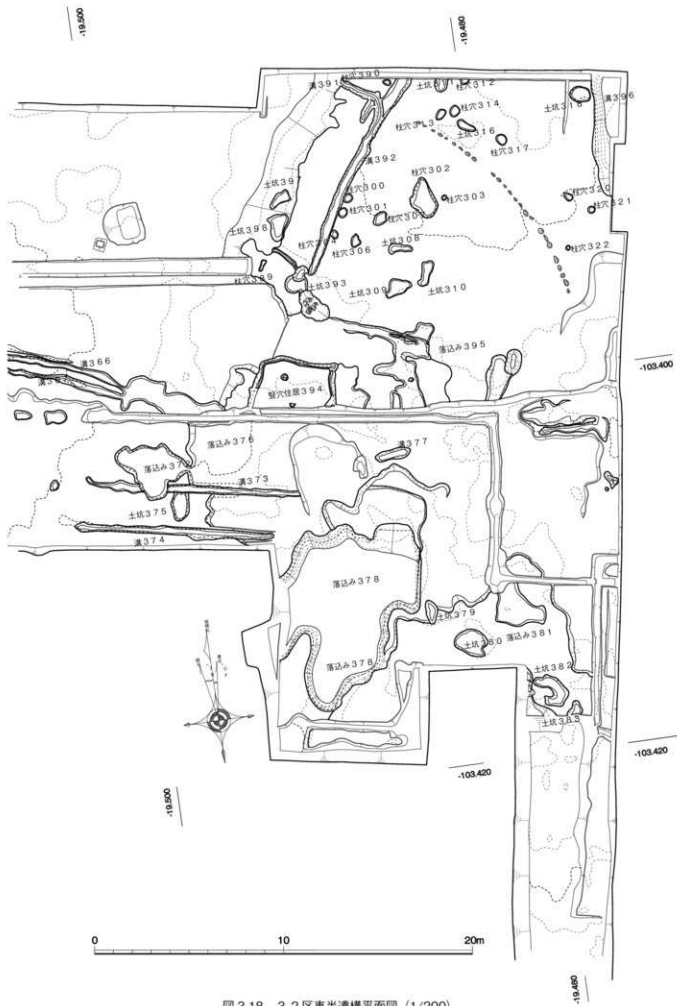


图 3.18 3-2区東半遺構平面図 (1/200)

〔竪穴住居 291〕 (図 3.20)

当遺構は、3-2区北西部、X=-103519～-103523m、Y=-19377～-19381m 付近で検出された。南北長約 5.4m・東西長約 5.5m 規模の平面方形の竪穴住居跡である。西辺は古墳時代初頭土器が出土した溝 290 によって削平されている。検出面から床面までの深さが約 0.2m 程度しかなく、きわめて浅い遺構であった。これは、前章の基本層序の概略でふれたように、当調査区が近世以後の削平を受けていたことによるもので、実際には数十cm以上の深さのある遺構だったと考えるべきであろう。北辺は比較的残存状態が良く、南辺部は削平をうけて深さ約 0.05m 程度しか残存していない。

住居跡の壁面に接する周壁溝は北・西・南辺で検出されている。壁溝は3か所とも幅約 0.2m、床面からの深さ約 0.1m の規模であった。東西方向の土層断面図をみても床面形成層は不明で、掘り込み面をそのまま床面としている可能性がある。周壁溝は、南東隅で屋外へと延びており、溝 292 に連結している。排水溝としての役割を果たしていたと考えられる。

いずれにしても、平面・断面ともに周壁溝は1条だけで、主柱穴も4～5基しか検出されていないことから、重複や建て替えなどは行われなかった可能性が高い。

図 3.20 にみるように、柱穴5基が床面で検出され、当竪穴住居の上屋を支える主柱痕跡と考えられる。ただし、南東部の柱穴は2基検出されいづれが主柱穴か特定することは難しい。位置からみて南側のものがそれに当たる可能性が高い。柱穴の深さは 0.2m～0.4m 程度であった。

それ以外には床面には土坑状の遺構は確認できず、炉跡と考えられる遺構も明確ではなかった。ただし、床面には部分的に炭化物や焼土破片が多く出土する地点がみられた。これらは、炉跡から掻きだされたものと考えられる。

床面と考えられる遺構掘り込み最下面とその上部から、土器片が何か所かでまとも出土している。特に住居東半部の壁溝近辺で多く出土した。復元可能な個体では、櫛描文をもつ受口状口縁鉢や碗形鉢や碗形高坏などがみられた。また、壺・鉢類の底部も見られる。出土土器は、その形態から庄内式併行期の所産と考えられ、竪穴住居の機能していたのは、古墳時代初頭と考えられる。

〔竪穴住居 394〕 (図 3.21)

当遺構は、3-2区北半、X=-103398～-103540m、Y=-19492～-19488m 付近で検出された。東西長約 4.2m・南北長 2.4m 以上の規模の平面方形の竪穴住居跡と考えられる。遺構南半部は削平により欠失している。検出面から床面までの深さが約 0.10m 程度しかなく、きわめて浅い遺構であった。これは、前章の基本層序の概略でふれたように、当調査区が近世以後の削平を受けていたことによるもので、実際には数十cm以上の深さのある遺構だったと考えるべきであろう。

住居跡の壁面に接する周壁溝は北辺と東辺の一部で検出されており、平面では全周した状態では確認できなかった。ただし、東西方向の土層断面図では、西辺にも幅 0.2m 程度の周壁溝が看取された。周壁溝は2か所とも幅約 0.2m、床面からの深さ約 0.1m の規模であった。東西方向の土層断面図をみても床面形成層は不明で、掘り込み面をそのまま床面としている可能性がある。

いずれにしても、平面・断面ともに周壁溝は1条だけで、主柱穴の可能性のある遺構は住居北西区画にしか確認できていない。この柱穴も床面からの深さ約 0.1m と浅い。床面には炉跡と考えられる遺構は明確には確認できなかった。

床面直上層では、遺物が多数出土した。大半は土器片である。一部は、北辺壁溝に落ち込む状態で土器片が出土したが、住居使用時か廃絶直後に廃棄された土器群と考えられる。外面にハケメの顕著な堯

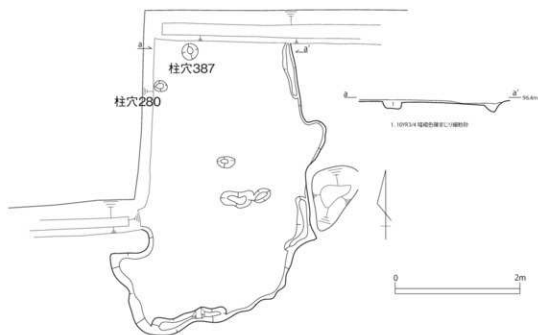


図 3.19 竪穴住居 282 平・断面図 (1/60)

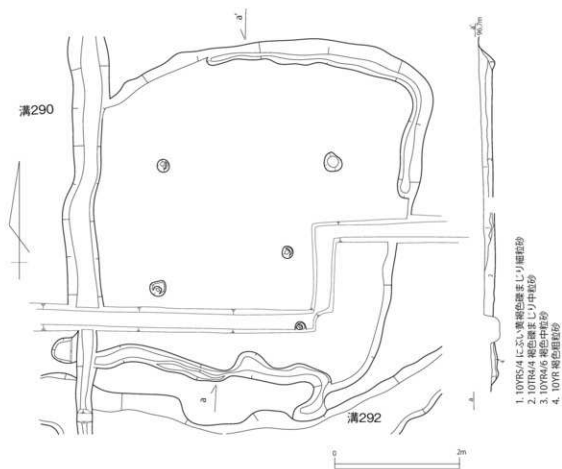


図 3.20 竪穴住居 291 平・断面図 (1/60)

とタタキメのある甕がみられ、完形に近い状態の椀形高坏も出土している。形態・調整技法などの特徴から、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器群と考えられる。このことから、当竪穴住居は、弥生時代後期～古墳時代初頭のものと考えられる。

〔落込み378〕(図3.22)

当遺構は、3・2区北東部で検出された不整形な落込み遺構。X=-103406～-103416m、Y=-19487～-19493m附近で検出された。深さは約0.5m程度である。上層からは、弥生後期土器・古式土師器とともに古代の土師器・須恵器・瓦片が出土した。また、写真3.02のように銅銭が出土した。銘は「開元通宝」と読め、中国銭である。古代もしくは中世に堆積したと考えられる。

中層より下位には多数の土器片が出土したが、すべて弥生時代後期末～古墳時代初頭の土器群であった。落込み底面から0.2m程度上部で最も多数の土器片が堆積していた。土器片は多数であるが、完形に復元できる個体はほとんどなく、細片化した土器片が落込みに廃棄されたと考えられる。出土層位も下層～上層まで幅広く、長期にわたって土器片廃棄が行われた可能性が高い。

粘土質の堆積物により埋積しており、沼状の地形だったと考えられる。廃棄された古墳時代初頭の土器群は、北側に隣接する竪穴住居群のある居住域からもたらされたと考えられる。

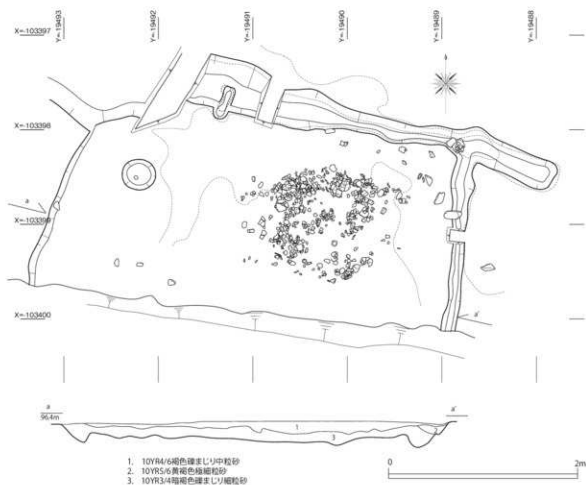


図 3.21 竪穴住居 394 平・断面図 (1/40)



写真 3.02 落込み 378 上層出土銅銭

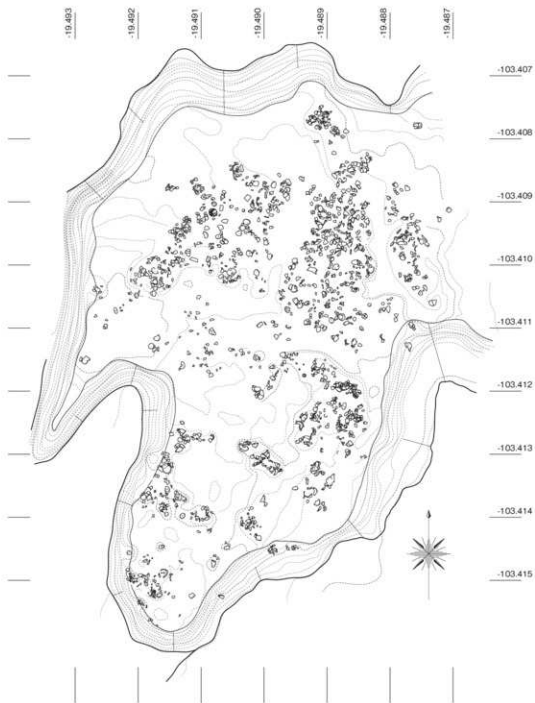


図 3.22 落込み 378 土器出土状況 (1/60)

第4節 4区の遺構

当調査区は、全面を4Aトレンチと称して、分割せずに調査を進めた。主要な遺物包含層である2層は、当調査区東半部では5cm程度と薄く、西半部では10-15cmと厚く堆積していた。2層からは、弥生後期末土器・古式土師器・平安時代須恵器・中近世の陶器類が出土している。2層の遺物出土数の中では弥生後期末土器・古式土師器の比率が高い。

遺構検出面の低い西半部では、南北方向の溝状の落込みが数条（溝419・470・落込み463・462）確認されたが、これらの遺構埋土からは、主に弥生後期末土器・古式土師器が出土している。特に落込み463と溝419からは、完形に近い状態の甕・壺・器台が検出されている。この出土状況は、2区の溝34と酷似しており、2区や3-2区同様に、自然の窪地に周囲の居住域から土器廃棄されたものとも考えられる。ただ、埋土中からは上層部を中心に須恵器片なども出土しており、古代後半期に最終的に埋没した窪地だったと想定できる。

一方、4区ではこの落込み463・溝419の周囲で検出される土坑や溝類に古墳時代初頭に形成されたと思しきものはみあたらない。調査区の西端では不整形な落込み・土坑（落込み401・416）が検出されているが、埋土中からは中・近世の陶器片などが出土している。またそれらを切るように東西・南北方向の小溝が多数（溝402～414）検出されているが、形状や配列状況からみて中・近世の畝溝・耕作痕跡と考えらるべきであろう。調査区東半部では、溝・土坑が検出されている。このうち溝429・430は底面が不整形なことから自然の落込み・流路痕と考えられるが、古代（平安時代か）と思しき須恵器片が出土している。落込み463・溝419から出土する平安時代須恵器の廃棄以外にも、古代後半期に人的活動が当調査区周辺に及んでいたものと考えられる。

当調査区東辺部では、不整形な土坑などが多数検出されているが、出土遺物量は僅少で、形成時期の認定は難しい。遺構埋土の土色質は、暗灰色シルトを基調としていて西辺部の耕作溝に類似している。近世に形成された遺構群と考えたい。

图 3.23 4 区全体湿構平面图 (1/300)

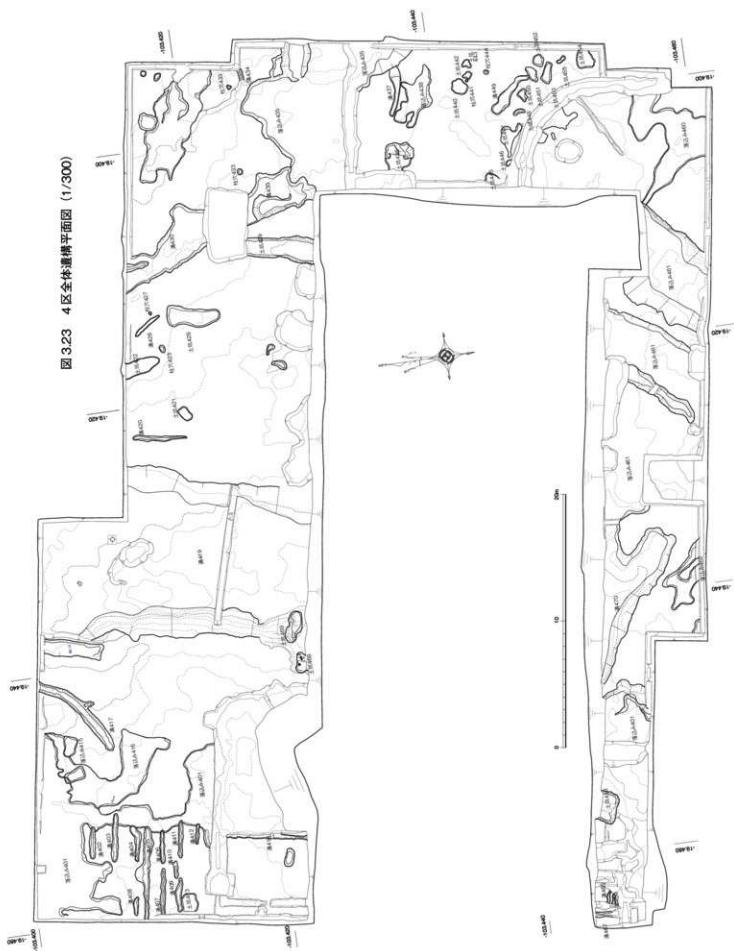


図 3.05-① 4区で検出された遺構①

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
落込み	401	4A	N-4	不明	不明	4	10YR5/6 黄褐色細砂 (径1~3cmの礫含む)	中~近世	
溝	402	4A	N-4	250	55	6	10YR5/2 灰黄褐色粘土質 (径1~3cmの礫含む)	中~近世	
溝	403	4A	N-4	385	45	7	10YR5/2 灰黄褐色粘土質 (径1~2cmの礫含む)	中~近世	
溝	404	4A	N-4	285	55	4	10YR5/2 灰黄褐色粘土質 (径0.5~1cmの礫含む)	中~近世	
溝	405	4A	N-4	不明	55	6	7.5YR4/2 灰褐色砂質粘土 (径0.5~3cmの礫含む)	中~近世	
溝	406	4A	N-5	270	40	3	10YR5/2 灰黄褐色粘土質 (径1~3cmの礫含む)	中~近世	
溝	407	4A	N-5	不明	40	2	7.5YR6/1 褐灰色粘土質 (径1~2cmの礫含む)	中~近世	
溝	408	4A	N-4	150	40	3	10YR5/2 灰黄褐色粘土質 (径0.5~1cmの礫含む)	中~近世	炭化物有り
溝	409	4A	N-5	275	50	9	7.5YR5/2 灰褐色砂質粘土 (径0.5~1cmの礫含む)	中~近世	
溝	410	4A	N-5	140	30	5	7.5YR5/2 灰褐色砂質粘土 (径0.5~1cmの礫含む)	中~近世	
溝	411	4A	N-5	300	40	3	7.5YR5/2 灰褐色砂質粘土 (径0.5~1cmの礫含む)	中~近世	
溝	412	4A	N-5	160	30	2	10YR5/2 灰黄褐色粘土質 (径0.5~1cmの礫含む)	中~近世	
土坑	413	4A	N-5	140	120	6	7.5YR5/2 灰褐色砂質粘土 (径0.5~2cmの礫含む)	弥生時代末~古墳時代初頭	
溝	414	4A	N-6	不明	40	4	10YR7/3 にふい黄褐色極細砂 (径1~4.5cmの礫含む)	中~近世	
土坑	415	4A	O-4	160	100	7	7.5YR5/2 灰褐色砂質粘土 (径2~5cmの礫含む)	中~近世	
落込み	416	4A	O-4	不明	90	4	10YR5/2 灰黄褐色砂質粘土 (径2~5cmの礫含む)	中~近世	
溝	417	4A	O-4	不明	130	30	7.5YR4/4 褐色細砂粒 (径~7cmの礫含む)	中~近世	
溝	418	4A	P-4	不明	130	7	7.5YR4/3 褐色細砂 (径~3cmの礫含む)	中~近世	
溝	419	4A	P~O-4 ~6	不明	1340	58	7.5YR4/3 褐色細砂	弥生時代末~古墳時代初頭	北半は礫ほほ含まず、南半は径~7cmの礫含む
溝	420	4A	Q-5	425	35	5	5YR4/4 にふい褐色細砂 (径~2cmの礫含む)	中~近世	
土坑	421	4A	Q-5	120	73	4	5YR3/6 暗赤褐色細砂 (径~1cmの礫含む)	中~近世	
溝	422	4A	R-5	不明	110	3	5YR3/4 暗赤褐色細砂中粒砂まじりシルト (径~5cmの礫含む)	中~近世	
柱穴	423	4A	R-5	60	40	8	7.5YR6/1 灰褐色中粒砂まじりシルト	中~近世	
土坑	424	4A	R-6	125	55	9	7.5YR4/3 褐色細砂 (径~3cmの礫含む)	中~近世	
土坑	425	4A	R-6	95	33	13	7.5YR4/4 褐色細砂 (径~13cmの礫含む)	中~近世	
溝	426	4A	R-5	250	30	2	7.5YR3/3 暗褐色細砂 (径~6cmの礫含む)	中~近世	
柱穴	427	4A	R-5	28	20	4	7.5YR4/3 褐色中粒砂まじりシルト (径~5cmの礫含む)	中~近世	
落込み	428	4A	R-5	420	130	4	7.5YR4/3 褐色細砂 (径~10cmの礫含む)	中~近世	
溝	429	4A	S-6	不明	150	30	7.5YR4/4 褐色細砂 (径~4cmの礫含む)	中~近世	灰色混じり
溝	430	4A	S5~6	不明	260	11	7.5YR5/1 褐灰色細砂 (径~9cmの礫含む)	中~近世	灰色混じり
土坑	432	4A	T-5	75	48	18	7.5YR4/3 褐色極細砂 (径~5cmの礫含む)	中~近世	
土坑	433	4A	T-6	40	35	6	7.5YR6/1 褐灰色中砂 (径~5cmの礫含む)	中~近世	褐色土含む
溝	434	4A	T-6	不明	35	9	7.5YR4/3 褐色細砂 (径~6cmの礫含む)	中~近世	
落込み	435	4A	S~T-6 ~7	不明	不明	20	7.5YR4/4 褐色シルトまじり中粒砂 (径0.5~3cmの礫含む)	中~近世	灰少量混じる
土坑	436	4A	S-7	不明	225	5	10YR3/1 黒褐色シルトまじり細粒砂 (径0.5~2cmの礫多く含む)	中~近世	
溝	437	4A	T-7	不明	50	1	10YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂 (径~1cmの礫含む)	中~近世	灰少量混じる
落込み	438	4A	S~T-7	495	150	4	10YR3/1 黒褐色シルトまじり細粒砂 (径~2cmの礫多く含む)	中~近世	7.5YR5/6 明褐色細粒砂のブロック少量混じる
土坑	439	4A	T-8				10YR3/1 黒褐色シルトまじり細粒砂 (径~3cmの礫多く含む。6cm大の礫1つあり)	中~近世	灰少量混じる。7.5YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂のブロック少量混じる
土坑	440	4A	T-8	135	110	10	10YR3/1 黒褐色細粒砂まじりシルト (径~2cmの礫多く含む)	中~近世	灰少量混じる。7.5YR4/4 褐色シルトまじり細粒砂のブロック少量混じる

図 3.05-② 4区で検出された遺構②

遺構種類	遺構番号	トレンチ	地区割	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	検出時の遺構埋土色・質	時期	備考(他の遺構との切合いなど)
柱穴	441	4A	T-8	23	20	5	10YR3/1黒褐色細粒砂まじりシルト(径～1cmの礫多く含む)	中～近世	
土坑	442	4A	T-8	80	45	3	10YR3/1黒褐色細粒砂まじりシルト(径～2cmの礫多く含む)	中～近世	75YR4/4褐色細粒砂まじりシルトのブロック少量混じる
土坑	443	4A	T-8	75	55	3	10YR3/1黒褐色細粒砂(径～2cmの礫多く含む)	中～近世	
柱穴	444	4A	T-8	40	35	6	10YR3/1黒褐色シルトまじり細粒砂(径～1cmの礫多く含む)	中～近世	
土坑	445	4A	S-8	不明	不明	2	5Y3/2オリーブ黒色シルトまじり細粒砂(径～2cmの礫多く含む)	中～近世	10YR4/4褐色シルトまじり細粒砂のブロック混じる
土坑	446	4A	S-8	60	不明	3	10YR3/1黒褐色細粒砂(径～4cmの礫多く含む)	中～近世	
落込み	447	4A	S-8	210	100	6	10YR3/1黒褐色細粒砂(径～7cmの礫多く含む)	中～近世	
土坑	448	4A	S-8	95	30	不明	10YR3/1黒褐色シルトまじり細粒砂(径～2cmの礫多く含む)	中～近世	
溝	449	4A	S～T-8	395	85	4	25Y3/2黒褐色シルトまじり細粒砂(径～5cmの礫多く含む)	中～近世	土坑451と接する 75YR4/3褐色シルトまじり細粒砂のブロック混じる
土坑	450	4A	S～T-8	105	70	不明	25Y3/2黒褐色中粒砂(径～4cmの礫多く含む)	中～近世	25Y7/3淡黄色中粒砂・10YR4/4褐色中粒砂のブロック混じる
土坑	451	4A	T-8	135	68	3	25Y3/2黒褐色細粒砂まじり中粒砂(径～2cmの礫含む)	中～近世	溝449と接する 75YR4/4褐色シルトまじり細粒砂のブロック少量混じる
土坑	452	4A	T-8	90	85	4	10YR3/1黒褐色中粒砂まじりシルト(径～2cmの礫多く含む)	中～近世	
土坑	453	4A	T-8	160	65	5	25Y3/2黒褐色シルトまじり細粒砂(径～3cmの礫多く含む、10cm大の礫少量含む)	中～近世	
土坑	454	4A	T-9	不明	135	2	10YR4/4褐色シルトまじり中粒砂(径～5cmの礫多く含む)	中～近世	炭少量混じる
土坑	455	4A	T-9	80	25	2	25Y3/2黒褐色細粒砂まじり中粒砂(径～3cmの礫多く含む)	中～近世	
土坑	456	4A	S-8	不明	100	1	10YR4/6褐色細粒砂(径～3cmの礫多く含む)	中～近世	
溝	457	4A	S-8	55	20	2	75YR4/4褐色中粒砂まじり細粒砂(径～2cmの礫含む)	中～近世	
落込み	458	4A	S-8～9	不明	不明	1	75YR4/4褐色細粒砂まじり中粒砂(径～4cmの礫含む)	中～近世	
落込み	460	4A	S9～10	不明	不明	3	25Y3/2黒褐色シルトまじり細粒砂(径～10cmの礫多く含む)	中～近世	
落込み	461	4A	O～S-8～9	不明	不明	52	10YR3/4暗褐色細粒砂(径4～20cmの礫多く含む)	弥生時代末～古墳時代初頭	
落込み	462	4A	O～P-9	不明	不明	11	5YR4/6赤褐色シルトまじり中粒砂(径～10cmの礫含む)	中～近世	
落込み	463	4A	N～O-8～9				75YR4/6褐色シルトまじり中粒砂(径～2cmの礫含む)	中～近世	
土坑	464	4A	N-8				5YR4/8赤褐色細粒砂(径～20cmの礫含む)	中～近世	土器片含む
溝	465	4A	M-8	不明	25	7	75YR5/6明褐色細粒砂(径～1cmの礫含む)	中～近世	攪乱に切られる
溝	466	4A	M-8	不明	20	7	75YR5/6明褐色細粒砂(径～1cmの礫含む)	中～近世	攪乱に切られる
溝	467	4A	M-8	不明	40	3	5YR5/4にぶい赤褐色細粒砂まじりシルト(径～5cmの礫含む)	中～近世	攪乱に切られる
土坑	468	4A	O-6	160	不明	5	75YR5/3にぶい褐色中粒砂(径～5cmの礫多く含む)	中～近世	
土坑	469	4A	OP-6	250	100	57	5YR5/4にぶい赤褐色中粒砂(径～5cmの礫多く含む)	中～近世	
溝	470	4A	O～P-8～9	不明	不明	30	25Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂(径～4cmの礫含む)	中～近世	落込み461との区切りは、P-8区南部の攪乱

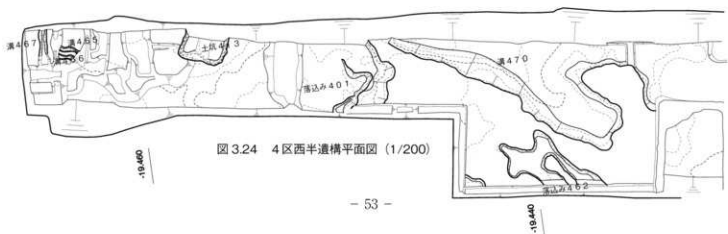
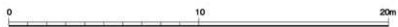
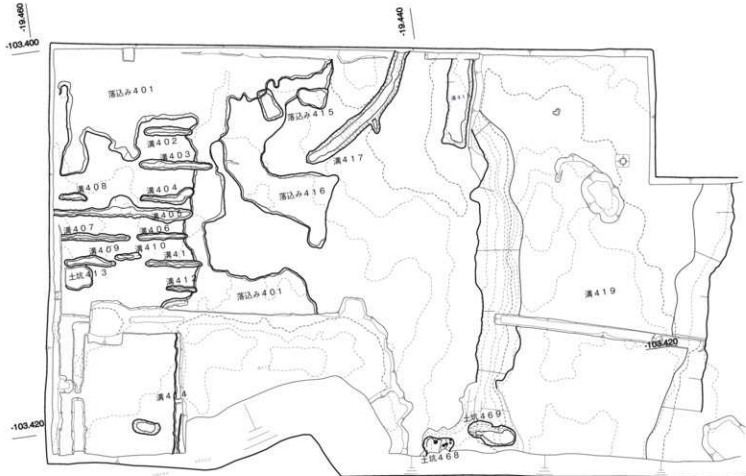


图 3.24 4区西半遺構平面図 (1/200)

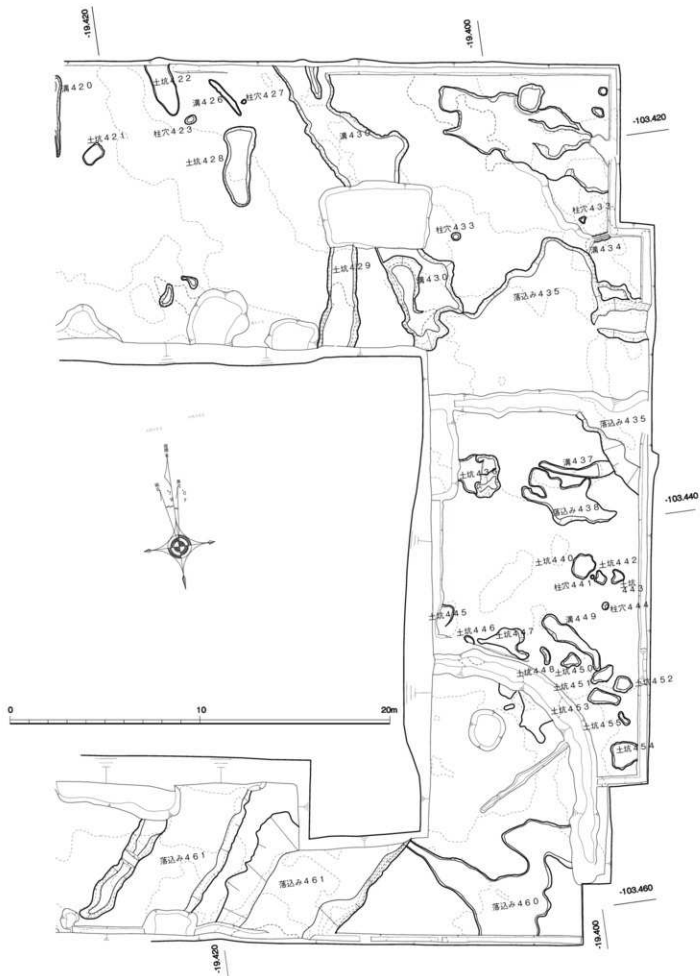


图 3.25 4区東半遺構平面図 (1/200)

第4章 出土した遺物

今回の調査では主に遺構内埋土から土器を中心とする遺物が出土し、石器にかんしては包含層からも資料を得ることができた。

本章では、土器・石器について、それぞれ記述を行い、出土遺物の状況について説明する。

第1節 土器

今回の調査では、複数の遺構で弥生時代末から古墳時代にかけての時期を中心とする土器が出土している。以下では地区ごとに出土した土器について報告する。器種名は、特に触れない限り土師器の器種名を指す。

【2区】

2区では土坑 31・32・33、溝 34、竪穴住居 62 から土器が出土した。

図 4.01 には土坑 31 から出土した土器群を示す。

図 4.01 の 1 は壺である。頸部以上、底部を欠損する。全体に縦または斜め方向のハケ調整をほどこす。外面の胴部最大径よりやや下位と、肩部の内面に粘土の接合の痕跡がみられる。

2～6 は甕である。2 は小型のもので、胴部以下を復元できる。外面は胴部がタタキ成形され、底部付近にハケ調整がほどこされる。内面はハケ調整で、底部にはハケ原体の当たりが放射状に残る。3 はいわゆる庄内型甕で、肩部以上を復元できる。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は頸部側がやや肥厚する。

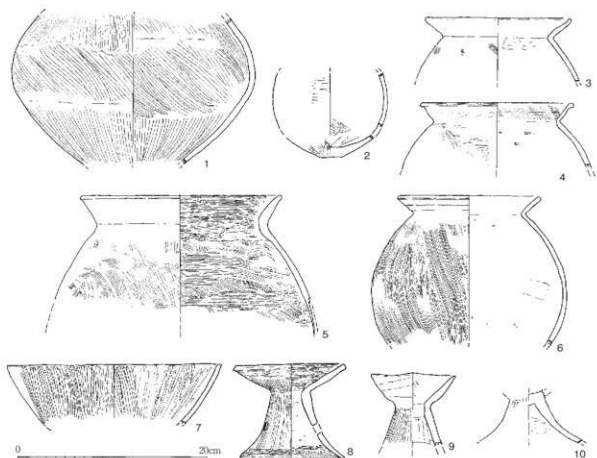


図 4.01 2区土坑 31 出土土器 (1/4)

写 真 图 版



1区北半 落込 13



1区北半 土坑 15



2区 竪穴住居 62



2区北半の遺構群



2区 溝 34 土器出土状況



2区南半の遺構群



3-1区 落込180



3-1区南半の遺構群



3-2区 竪穴住居 292



3-2区 竪穴住居 292 土器出土状況



3-2区 竪穴住居 394



3-2区 竪穴住居 394 土器出土状況



3-2区 落込 378 土器出土状況



3-2区の遺構群



4区 溝 419 土器出土状況



4区の遺構群



図 4.01-8



図 4.03-2



図 4.02-2



図 4.02-2



図 4.03-12



図 4.03-6



図 4.03-15



図 4.03-16



図 4.03-8



図 4.04-1



图 4.04-4



图 4.09-11



图 4.04-5



图 4.09-12



图 4.08-19



图 4.09-13



図 4.10-19



図 4.12-43



図 4.11-21



図 4.12-43



図 4.14-16



図 4.15-14



图 4.15-15



图 4.16-13



图 4.16-2



图 4.16-8



图 4.16-16



報告書抄録

ふりがな	いわくらちゅうざいちいせきに						
書名	岩倉忠在地遺跡 II						
副書名	同志社中学校・高等学校建設に伴う発掘調査報告書						
シリーズ名	同志社大学歴史資料館調査研究報告						
シリーズ番号	第 11 集						
編著者名	面将道・山本亮・若林邦彦						
編集機関	同志社大学歴史資料館						
所在地	〒 610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3 TEL0774-65-7255						
発行年月日	西暦 2011 年 3 月 31 日						
所収遺跡名	所在地	コード		緯度・経度	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号				
岩倉忠在地遺跡	京都市左京区 岩倉大鷲町 89	26100	364	北緯 35° 04' 06" 東経 135° 47' 11"	2008.8.20 ~ 2009.5.31	9000㎡	同志社中学校・ 高等学校建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
岩倉忠在地遺跡	集落	弥生時代末～ 古墳時代初頭	竪穴住居・柱穴・ 土坑	古式土師器・弥生土器			

岩倉忠在地遺跡Ⅱ

－同志社中学校・高等学校校舎建設に伴う発掘調査報告書－

2011年3月31日

発行 同志社大学歴史資料館

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3

Tel 0774-65-7255

印刷 株式会社 栄文堂

Archaeological Report II of
Iwakura-chuzaichi Site in Kyoto, Japan

2011

Doshisha University
Historical Museum

口縁端部は上方へつまみあげる。調整は肩部の外面にハケ、内面にケズリをほどこす。胎土に角四石と雲母を多く含み、生駒山西麓地域からの搬入品であると考えられる。4は肩部以上を復元できる。口縁端部は外方へ屈曲する。外面は肩部がタタキ成形であり、口縁部下側に一部タタキの痕跡がみられる。肩部にはタタキの上にハケ調整をほどこす。内面は肩部にケズリ、口縁部にハケ調整がほどこされる。外面には煤の付着が著しい。5はやや大型のもので、肩部以上を復元できる。内面には頸部付近に粘土の接合痕跡がみられる。頸部から口縁部にかけての器壁が比較的厚い。外面は口縁部にヨコナデ、肩部にハケ調整をほどこし、肩部の上位にはミガキ調整もみられる。内面は口縁部から胴部中位にかけて横方向のハケ調整をほどこす。胎土は精良であり、外面に煤が付着する。6は胴部下半を欠損する。外面は頸部から口縁部にかけてヨコナデをほどこす。胴部は外面に縦方向のハケ調整、内面にケズリがほどこされる。外面には全体に煤の付着が著しい。

7は高杯の口縁部と考えられる。口縁端部は面をもち、わずかに外方に肥厚する。内外面に縦方向のミガキ調整を密にほどこす。精良な胎土をもつ。

8・9は小型器台である。8は完形に復元でき、脚部には二方向に円形の透かしを穿つ。外面には受け部と脚部にともに縦方向のミガキ調整がほどこされたのち、受け部と脚部の端部側に横方向のミガキ調整をほどこす。内面は受け部が横方向のミガキ調整、脚柱部がケズリのものにナデをほどこし、裾部に横方向のミガキ調整をほどこす。9は裾部を欠損する。受け部は碗状を呈し、端部は凹凸が著しい。外面に粘土の積み上げの痕跡を残す。受け部内面は底面から放射状にナデをほどこす。脚部外面には縦方向のミガキ調整が、内面には工具の当たりがよく残る。8・9はともに胎土が精良である。

10は高杯の脚部である。杯部、脚端部を欠損する。杯部と脚部の接合に際しては杯部側から粘土を充填し、脚部内に粘土が垂下する。杯部と脚部の接合部の外面付近には縦方向のハケ調整のちミガキ調整をほどこす。脚部内面にはケズリをほどこす。

以上の土坑31から出土した土器のうち、甕には肩部までハケ調整の庄内形甕を含み、また球形に近く内面にケズリをほどこす胴部をもつものがある。いっぽうでタタキ目を残すものを含み、壺は胴部が算番玉状に近い。小型器台の形態からも、土坑31から出土した土器は全体として佐山Ⅱ式（高野2003）に含まれるものと考えられる。

図4.02の1～6には土坑32から出土した土器を示す。

1は細頸壺である。完形に復元できる。底部はやや尖りぎみの丸底である。内外面ともに磨減と剥離が著しい。2は注口付台付無頸壺である。口縁部と胴部、脚部の一部を欠く。胴部は球形に近い。器高は口縁部のうち注口付近がもっとも高く、反対側へ向けて高さを減じる。脚部内面に粘土の接合の痕跡を残す。外面は体部、脚部ともに縦方向のミガキ調整をほどこす。3は台付甕の底部付近から脚部にかけての部位である。外面は脚部にハケ調整後にミガキ調整をほどこし、脚端部付近にはヨコナデをほどこす。内面は底部付近にハケ調整、脚部内面にミガキ調整、脚端部は横方向のつよいナデ調整をほどこす。外面に煤が付着する。4は有稜高杯の杯部である。杯部と脚部の接合に際しては杯部側から粘土を充填する。内外面ともに密に縦方向のミガキ調整がほどこされ、屈曲部付近は内外面ともに横方向のミガキ調整がほどこされる。胎土は精良である。5、6は甕である。ともにほぼ完形に復元できる。5は平底をもち、胴部はやや長胴を呈する。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外反する。口縁端部には面をもつ。胴部の外面には縦方向のハケ調整、内面には一部に横方向のハケ調整がみられる。胎土に大きい砂礫を含み、外面には煤の付着が著しい。6は受け口状の口縁部をもつ。胴部は球形に近く、底部は平底を呈する。胴部の内外面にハケ調整をほどこす。外面では口縁部と胴部最大径付近に煤が付着する。

土坑 32 の土器群は注口付台付無頸壺（図 4.02 - 2）や甕（図 4.02 - 6）の胴部が球形に近いが、有稜高杯（図 4.02 - 4）は杯部底面の径が比較的広く、佐山Ⅱ式（高野 2003）範疇で収まるものと考えられる。

図 4.02 の 7 は土坑 33 から出土した。やや長胴を呈する甕であり、底部を欠損する。胴部最大径付近の外面に粘土の積み上げの痕跡を数条残す。内外面ともにハケ調整がほどこされる。胴部下半の外面に煤が付着する。

図 4.03、4.04 には溝 34 から出土した土器群を示した。

図 4.03 の 1～3 は壺である。1 はほぼ完形に復元できる。口縁部は肥厚し、口縁端部は下方に粘土を添付することによって垂下する。胴部最大径は中位よりもやや低い位置にある。底部は突出し、平底である。胴部は内外面ともにハケ調整、口縁部は外面には縦方向のハケ調整が、内面には横方向のミガ

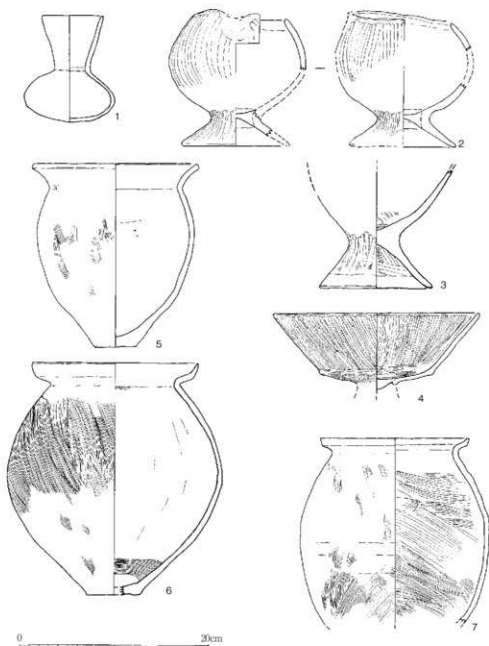


図 4.02 2区土坑 32・33 出土土器 [1/4]

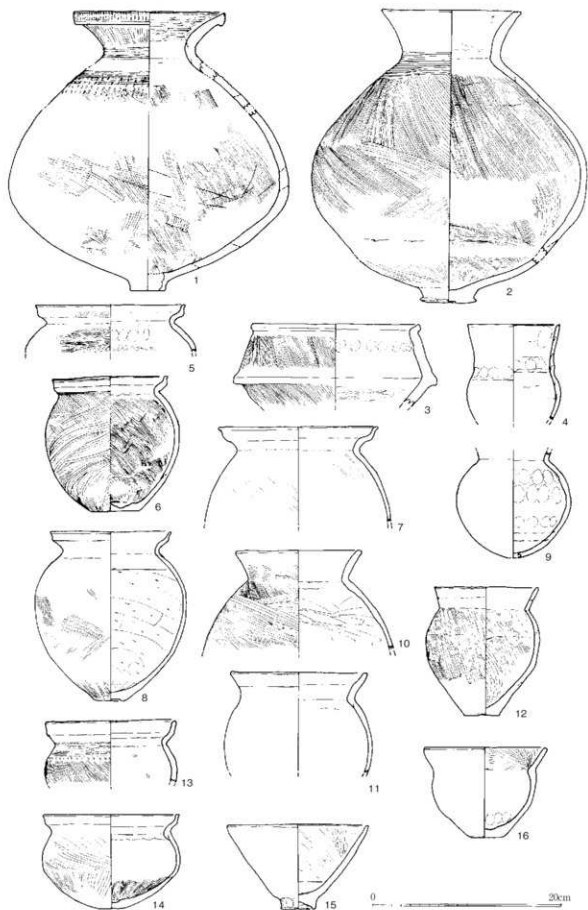


图4.03 2区清34出土土器 (1) [1/4]

キ調整がみられる。頸部と肩部には櫛描沈線文が巡り、口縁端部と肩部に刺突文をほどこす。2もほぼ完形に復元できる。口縁端部は上方向に面をもつ。胴部最大径はほぼ中位にある。底部は突出して輪台状を呈し、端部は外方向にややめくれる。頸部から口縁部の器壁の厚さが胴部に比べて厚い。胴部外面の下位に粘土の接合の痕跡を残し、器壁はこの部位からやや径を広げつつ胴部最大径へと至る。胴部は内外面ともにハケ調整で、口縁部内面に横方向のハケ調整をほどこす。頸部から肩部にかけて櫛描沈線文をほどこす。3は大型複合口縁部の口縁部である。屈曲部の外面は厚く突出し、端部を指ナデする。口縁端部は外方向へ屈曲する。外面に縦方向のハケ調整、一次口縁部内面に横方向のハケ調整をほどこし、二次口縁部内面にはユビオサエをほどこす。胎土に砂粒を多く含む。瀬戸内から大阪湾沿岸部に類似する形態をもつものが多いものである。ほかに胎土を同じくする胴部と考えられる破片が数点存在するが、接合しないため図化していない。

4・5は鉢である。4は小型のもので、胴部下半を欠損し、底部の形状や脚台の有無は不明である。口縁部は上方向に伸びる。内面に粘土の積み上げの痕跡をよく残し、頸部内外面にユビオサエをほどこす。胎土に砂礫を多く含む。5は胴部下半を欠損する。口縁部は受け口状を呈する。口縁端部はわずかに外方向に突出する。口縁部外面と、肩部内外面にハケ調整をほどこす。肩部内面にはユビオサエがみられる。外面には煤が付着する。

6～12は甕である。6は大きい平底と、受け口状の口縁部をもつ。口縁端部はわずかに外方向に肥厚する。胴部は内外面ともにハケ調整をほどこす。口縁部を接合したのち、その上からさらにハケをほどこして接合痕を消しているため、粘土のよじれが強く残る。底部内面にはユビオサエによる窪みがみられる。外面に煤が付着する。7は胴部下半を欠損する。口縁部は受け口状を呈し、口縁端部は外方向へ屈曲する。肩部の内外面にハケ調整をほどこす。接合しないため図化しなかったが、胴部下半の外面には煤が付着する。8はほぼ完形に復元することができる。口縁部は受け口状を呈し、底部は平底である。頸部直下の外面に口縁部を接合した際の痕跡を残す。外面は胴部にハケ調整をほどこし、底部は縦方向のハケ調整がみられる。内面は肩部付近までケズリをほどこす。胴部中位の外面に煤が付着する。9は球形の胴部をもつ。口縁部と、底部をわずかに欠損する。底部は尖底か丸底になると考えられる。内面にはユビオサエがみられ、胴部下半に粘土の接合の痕跡を残す。10は肩部以上を復元できる。器壁は胴部に比べ、頸部から口縁部が比較的厚い。外面は口縁部と肩部にハケ調整をほどこす。胴部内面にはハケ、あるいはケズリの原体の当たりが幾重にもみられる。肩部の外面に煤が付着する。11は胴部下半を欠損する。口縁部はやや内湾きみに外に開く。胴部に比べて頸部から口縁部の器壁が厚い。肩部内面に粘土の接合の痕跡を残す。12は小型のもので、ほぼ完存する。頸部はくの字に屈曲し、底部は平底を呈する。胴部から頸部にかけて内外面に数段の粘土の接合の痕跡を残す。口縁部の内外面にヨコナデをほどこし、胴部内外面に縦方向のハケ調整をほどこす。肩部の内面にはユビオサエがみられる。

13～16は鉢である。13は胴部下半を欠損する。口縁部は受け口状を呈し、端部は内傾する。肩部の外面には列点文を境にして上位は頸部までが横方向の、下位には縦方向のハケ調整がほどこされる。肩部内面にも一部縦方向のハケ調整がみられる。外面には煤が付着する。14は完形に復元することができる。口縁部は受け口状を呈し、口縁端部はわずかに外反する。底部は平底である。頸部は粘土の接合により肥厚する。外面は肩部に横から斜め方向の、胴部下半には縦方向のハケ調整がほどこされる。内面は胴部下半にハケ調整が、横方向にほどこされたのち縦方向放射状にほどこされる。15は碗形の鉢であり、ほぼ完存する。高台状の底部から胴部は一定の厚さの器壁をもち、直線的に立ち上がる。口縁

端部は凹凸が著しい。外面は底部にユビオサエ、内面は胴部、底部ともにハケ調整をほどこす。16はほぼ完存し、平底を呈する底部、くの字状に屈曲する頸部をもつ。口縁端部は凹凸が著しい。外面は全体にナデ調整、内面は胴部をナデ調整し、底部付近にユビオサエ、口縁部にハケ調整をほどこす。

図404の1は椀形高杯である。脚端部を欠損する。脚部は杯部との接合部付近がもっとも肥厚し、接合に際しては杯部側から脚部内に向けて粘土が充填される。脚部内への粘土の突出は顕著ではない。脚部には三方向に円形の透かしを穿つ。外面は脚部に縦方向のハケ調整のちミガキ調整をほどこす。内面は杯部の底面がハケ調整、口縁部から杯部の中ほどにかけて横方向のミガキ調整がみられる。脚部内面には絞りの痕跡が残り、円孔付近から裾部にかけては横方向のハケ調整がほどこされる。2は有稜高杯である。杯部底面をやや欠損するが、ほぼ完形に復元できる。杯部、脚部ともに器壁の厚さはほぼ一定である。脚内部には杯部と脚部の接合にともなって杯部側から充填された粘土が大きく垂下する。脚部には二方向に円形の透かしをほどこす。外面は杯部に縦方向のハケ調整のち縦方向・横方向のミガキ調整をほどこし、脚部に縦方向のミガキ調整、裾部は横方向のミガキ調整をほどこす。内面は杯部が縦方向・横方向のミガキ調整、脚内部の上半には絞りの痕跡と、絞りののちほどこされたケズリがみられ、裾部には縦方向の工具の当たりがみられる。

3～5は器台である。3は脚部を欠損する。受け部は直線的に外方向に伸びる。受け部・脚部ともに外面に縦方向のミガキ調整をほどこす。4は小型器台である。完形に復元することができる。受け部は直線的に伸び、端部には面をもつ。脚部は直線的に伸びたのち裾部付近でゆるやかに外方向に広がる。脚部には二方向に円形の透かしを穿つ。脚部外面に縦方向のミガキ調整、脚部内面にケズリをほどこす。5はほぼ完形に復元できる。受け部は直線的に伸び、端部に面をもつ。脚部は直線的に外に開く。受け部の径が脚部の径よりも大きい。脚部には3方向に円形の透かしを穿つ。外面は受け部に縦方向のハケ

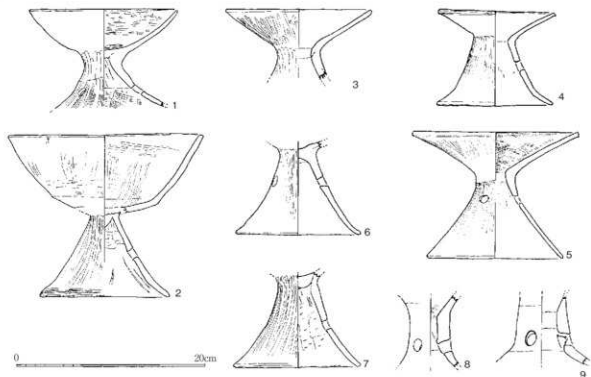


図404 2区溝34出土土器(2)〔1/4〕

調整、脚部に縦方向のミガキ調整をほどこす。内面は受け部が横方向のハケ調整、脚部上位にユビオサエがみられる。

6、7は高杯の脚部である。6はやや裾広がりになり、脚部内面は頂部が滑らかに窪む。円形の透かしを二方向に穿つ。外面に縦方向のミガキ調整をほどこす。内面は裾部をナデ調整する。7は杯部と脚部の接合の際に充填された粘土が脚部内に大きく垂下する。円形の透かしを二方向に穿つ。外面は縦方向のミガキ調整、内面には横方向のケズリをほどこし、上位に絞りの痕跡を残す。

8、9は器台の脚柱部である。ともに裾部を欠損し、円形の透かしを三方向に穿つ。8は脚柱部が直立し、受け部への屈曲部内面にハケ調整をほどこす。9は脚柱部がやや内傾して立ち上がり、裾部は円孔付近から大きく開く。

以上の溝34から出土した土器群は、甕では内面にケズリをほどこすもの(図4.03-8)や、やや尖底から丸底ぎみの甕(図4.03-9)を含む。いっぽうで受け部が大きく開く器台(図4.04-5)、杯部が大きく開く椀形高杯(図4.04-1)を含み、有稜高杯(図4.04-2)は深い杯部をもつ。帰属時期は佐山Ⅱ-1~2式(高野2003)を中心とするものと考えられる。

図4.05には壑穴住居62から出土した土器を示す。

図4.05の1は須恵器の杯身である。立ち上がりの端部を欠損する。受け部の突出は顕著ではない。外面の体部下半に回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、底部にユビオサエをほどこす。

図4.05の2~6は小型丸底甕である。2は肩部以上を復元できる。頸部はくの字に屈曲し、口縁部はやや外反する。口縁部の内外面にヨコナデをほどこす。3は胴部から底部を復元できる。底部内面がやや肥厚し、平底状になる。胎土には大きな砂礫を含み、底部中央には1cm弱の小礫がみられ、意図して入れられた可能性がある。全体に磨滅が著しい。4は完形に復元できる。底部はやや平底状につぶれる。内外面に数条の粘土の接合痕を残し、肩部内面の器壁が粘土の接合により比較的厚い。胴部外面にはハケ調整が、内面にはユビオサエがみられる。5は底部を欠損する。胴部は扁球形に近く、頸部はくの字に屈曲し、口縁部はやや外反して直線的に伸びる。胴部外面には縦方向のハケ調整、内面は胴部に横方向のケズリ、肩部にはユビオサエ、口縁部には横方向のミガキ調整をほどこす。6は底部を欠損する。肩部が張り、口縁部は上方へ伸びる。焼成は良好ではなく、全体的に磨滅、剥離が著しい。

7~16は甕である。7は複合口縁を呈する甕の口縁部である。屈曲部から口縁端部にかけてヨコナデが顕著であり、この部分の器壁が比較的薄くなる。8~14はいわゆる布留型甕である。いずれも肩部以上を復元できる。口縁端部は肥厚して大きく内傾し、頸部から肩部の器壁が厚い。口縁部・頸部の内外面はヨコナデ、肩部の内面にはケズリがほどこされる。8、10は肩部外面にハケ調整をみる事ができる。14は肩部がやや外湾ぎみに内傾しながら頸部へ至る。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部はやや内湾ぎみに外方向に立ち上がる。外面は肩部に横方向のハケ調整、頸部・口縁部にはヨコナデをほどこす。内面は肩部にケズリ、口縁部にナデ調整をほどこす。外面には煤が付着する。15は肩部以上を復元できる。頸部付近の器壁が薄くなり、頸部はくの字状に屈曲する。口縁部外面、肩部内面に粘土を接合した痕跡を残す。外面には頸部から肩部にかけてハケ調整をほどこす。16は肩部以上を復元できる。肩部が直線的であり、口縁部は中位でやや肥厚し端部に面をもつ。

17は短頸甕である。肩部以上を復元できる。頸部は湾曲し、口縁端部はわずかに外方向に肥厚する。外面は頸部から肩部にかけてハケ調整、内面には肩部内面にユビオサエあるいはラセン状のナデ調整をほどこす。

18は器台の受け部である。脚部から湾曲し、受け部は直線的に伸びる。端部には面をもつ。19～28は高杯である。19～22は杯部であり、いずれも精良な胎土をもつ。19は碗状を呈し、内外面にヨコナデをほどこす。20はやや内湾ぎみに立ち上がったのちに開く。外面に縦方向のミガキ調整をほどこす。21、22は外面に明瞭な稜がみられる。21は稜から器壁の厚さを減じながら直線的に立ち上がり、外面の稜の下には粘土のみ出しがみられる。内外面にヨコナデをほどこす。22は内湾ぎみに稜へ至ったのち外反し、直線的に伸びて端部へと至る。口縁端部には外方向に面をもつ。稜の外面には接合痕を残

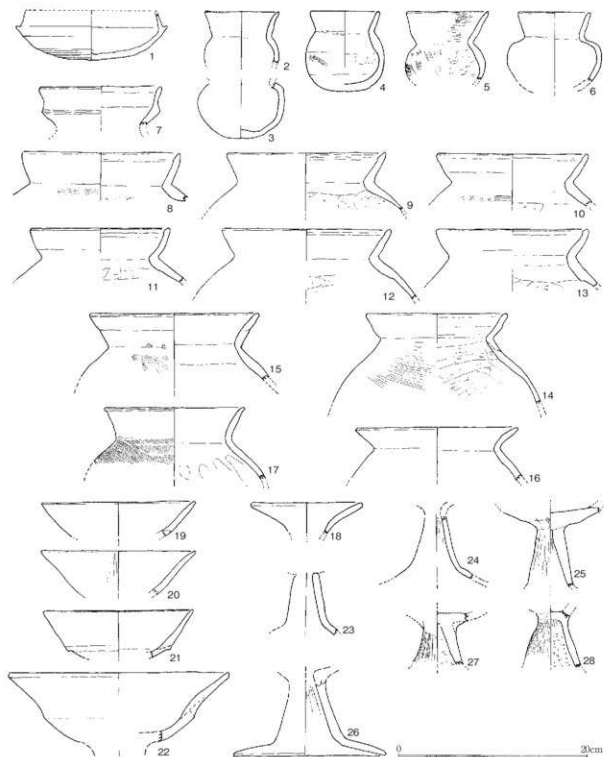


図4.05 2区壑穴住居62出土土器 [1/4]

す。23、24は脚柱部から裾部にかけての部位である。いずれも裾方向へ直線的に開きながら伸びたのち、屈曲して裾部へと至る。24は脚柱部上位の内面に絞りの痕跡を残す。25は杯部中位から脚柱部にかけての部位である。杯部と脚部の接合部の外面にユビオサエをほどこす。脚部外面には縦方向のミガキ調整をほどこし、内面には絞りの痕跡がみられる。精良な胎土をもつ。26は脚柱部以下を復元できる。脚柱部の器壁の厚さは一定であり、屈曲したのち裾部はやや厚さを減じてわずかに内湾ぎみに伸び、端部へと至る。脚柱部内面に絞りの痕跡を残す。27、28は杯部と脚部の接合部付近から脚柱部にかけての部位である。ともに脚部外面が縦方向のミガキ調整、内面にはケズリをほどこす。27は杯部と脚部の接合部外面に粘土を添付する。28は脚柱部内面上位にシボリの痕跡を残す。胎土は精良である。

これらの図4.05に示した竪穴住居62から出土した土器のうち、1・5・10・16・21・26は上～中層から出土した。上～中層から出土した土器のなかには1のようにTK43型式(田辺1981)と考えられる須恵器杯身と、5のように布留式中相に位置づけられると考えられる小型丸底壺が含まれており、混在が認められる。床面から下層で出土したものは型式差を顕著に示すものが少なく、おおよそ同一時期のものであると考えられる。下層の土器群は、小型丸底壺の粗裂化が著しいこと、斜め方向に直線的に立ち上がる口縁部をもつ短頸壺(図4.05-17)の存在から佐山ⅢB-1式(高野2003)に比定できる。すなわち竪穴住居62は佐山ⅢB-1式中に廃絶し、上層から出土した須恵器からは以後少なくともTK43型式期にかけて埋没したものと考えられる。

【3区】

3区では落ち込み180・378、竪穴住居291・394から遺物が出土した。

図4.06には落ち込み180から出土した土器を示す。

図4.06の1～3は須恵器である。1は提瓶である。肩部が遺存し、ボタン状の突起がつく。外面は回転ヘラケズリ、内面に回転ナデをほどこす。2は高台付杯の底部である。内面は回転ナデで、わずかに自然釉の付着をみる。3は大甕である。頸部から口縁部にかけて遺存する。頸部内面に同心円文をも

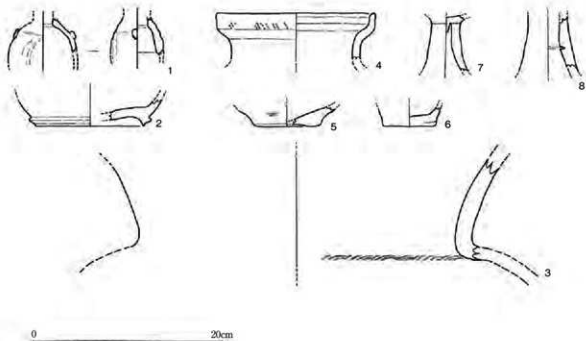


図4.06 3区落ち込み180出土土器〔1/4〕

つたタキの当て具の痕跡を残す。外面と口縁部内面に自然釉の付着が著しい。

4は甕である。頸部から口縁部にかけての部位である。口縁部は受け口状を呈し、外面にハケ調整具の端部による刺突文がみられる。胎土に大粒の砂礫を含む。5、6は底部であり、器種は不明である。5は輪台状の底部をもち、外面にハケ調整をほどこす。6は平底である。7は高杯の脚部である。脚部に杯部と脚部の接合にともなう粘土が垂下する。8は器台の脚部であり、内面中位に切り込みが入る。胎土に大粒の砂礫を含む。

図4.07には竪穴住居291から出土した土器を示す。

図4.07の1、2は鉢である。1は平底をもち、口縁部は受け口状を呈する。外面の調整は胴部がハケ調整で、頸部にはヨコナデをほどこす。外面では口縁部にハケ調整具の端部による刺突文が、肩部にはハケ調整具による刺突文を上下に挟むようにして横方向の櫛描文が巡る。2は椀状の鉢である。底部は輪台状を呈する。胎土に大粒の砂礫を含む。3～7は底部である。いずれも甕または鉢の底部であると考えられ、平底の7を除いていずれも輪台状を呈する。5、7は胎土に大粒の砂礫を含む。8は椀形の高杯であり、裾部を欠損する。杯部内面に放射状のハケ調整をほどこす。9は高杯または器台の脚柱状部である。三方向に円形の透かしを穿つ。

これら竪穴住居291から出土した土器のうち、鉢(図4.07-1)は胴部最大径が比較的高い位置にあり古相を示し、また椀形高杯(図4.07-8)は杯部が大きく伸びるが、鉢(図4.07-2)は胴部が浅い。以上の点からは佐山Ⅱ-1～3式新相(高野2003)の幅の中で捉えられる。

図4.08には竪穴住居394から出土した土器を示す。

図4.08の1は器台の口縁部である。器壁の厚さは一定であり、口縁端部は下方に垂下して櫛描文と竹管文をほどこす。2は直口壺の口縁部である。頸部から口縁端部にかけて器壁の厚さを減じる。口縁端部には面をもつ。3は壺または甕の胴部から底部にかけての部位である。底部は輪台状を呈し、胴部最大径はやや低い位置にある。内面をハケ調整する。

4～6は受け口状の口縁部を呈する甕または鉢である。4は頸部から肩部にかけての外面に横方向のハケ調整後に櫛描文を巡らし、口縁部外面にはハケ調整具の端部による刺突文をほどこす。5は頸部付近の部位である。頸部内面に明瞭な稜線をもつ。外面にヨコナデをほどこす。6は口縁端部が外反する。7は鉢であり、胴部は頸部から底部にかけて器壁の厚さを増す。外面は頸部から胴部にかけて縦方向のハケ調整をほどこし、内面は胴部に縦方向のハケ調整後にナデをほどこす。

8～16は甕である。8、9は肩部以上が遺存する。ともに肩部は球形に近く、頸部はくの字に屈曲する。胴部の内外面にハケ調整をほどこし、9は口縁部内面にもハケ調整をほどこす。10は完形に復元できる。平底を呈し、胴部の最大径は比較的高い位置にある。頸部はくの字に屈曲し、口縁部はやや肥厚す

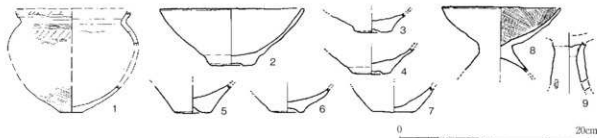


図4.07 3区竪穴住居291出土土器 [1/4]

る。外面は口縁部をヨコナデし、肩部にハケ調整をほどこす。内面は肩部にハケ調整をほどこす。胎土に大粒の砂礫を含む。11は完形に復元できる。やや膨らみのある平底をもち、頸部はゆるやかに外湾する。頸部から口縁部の外面をヨコナデ、胴部の内外面と底部の外面にハケ調整をほどこす。12は完形に復元できる。平底を呈し、頸部は外湾する。口縁端部を外方向につまみ出す。外面は口縁部と頸部にヨコナデをほどこし、肩部から底部にかけて縦方向のハケ調整をほどこす。内面は底部にユビオサエと放射状のハケ調整を、肩部に縦方向のナデをほどこす。胴部の内外面に粘土の接合の痕跡を残す。13はやや大型のものであり、肩部以上を復元できる。肩部は球形に近く、頸部はくの字に屈曲し、口縁部はやや内湾ぎみに外に開く。口縁部の内外面にヨコナデをほどこす。肩部の内外面にハケ調整をほどこし、肩部内面にはユビオサエがみられる。14は底部を欠損するが、胴部は球形を呈し、頸部はくの字に屈曲する。口縁端部はわずかに外方に突出する。胴部外面には粘土の積上げの痕跡が残る。外面の調整は口縁部がナデ、頸部にはハケ調整をほどこす。内面は胴部にハケ調整、口縁部に部分的にユビオサエをほどこす。胎土に砂礫を多く含み、外面には煤が付着する。15は甕の底部付近である。底部は輪台状を呈し、底部外面には縦方向のミガキ調整がみられる。胎土に砂礫を多く含み、外面には煤が付着する。16は底部から胴部下半にかけての部位である。底部は輪台状を呈する。底部の外面にはユビオサエ、内面はハケ調整のほか、底部付近にユビオサエがほどこされる。内面には粘土の接合の痕跡を残す。

17は碗形の鉢である。完形に復元できる。平底を呈し、直線的に外方向に開いて口縁部付近がやや内湾する。内外面ともに胴部にハケ調整、底部にユビオサエをほどこす。胎土に大粒の砂礫を含む。

18～21は高杯である。18、19は碗形の高杯であり、ともに完形に復元できる。18の脚柱部は中実であり、その下に円錐状の脚部がつく。脚部には円形の透かしが穿たれるが、その数は不明である。外面は杯部端部にヨコナデ、杯部と脚柱部の外面にハケ調整をほどこし、杯部と脚柱部の接合部にはユビオサエをほどこす。裾部の内外面にヨコナデをほどこす。19は脚部が円錐状であり、円孔をもたない。杯部、脚部ともに内外面にハケ調整をほどこす。裾部は外面がヨコナデ、内面が横方向のハケ調整後にナデをほどこす。20は有稜高杯の杯部底面の部位である。杯部と脚部の接合に際して、杯部側から充填した粘土が脚部内に垂下する。杯部底面は内外面に縦方向のミガキ調整をほどこし、脚部と杯部の接合に際して外面に添付した粘土帯の外面に横方向のハケ調整をほどこす。21は脚部であり、裾部側に三方向に円形の透かしを穿つ。脚柱部内面の上面は滑らかな凹面を呈する。

竪穴住居394から出土した土器は、頸部がゆるやかに大きく外湾する形態の甕(図4.08-11・12)を含み、口縁部を垂下する器台(図4.08-1)、なおかつ脚部が発達していない碗型高杯(図4.08-18・19)を含む点からまず佐山Ⅰ-4式からⅡ-1式(高野2003)に帰属する点をもつことが分かる。いっぽうで、球形の胴部をもち口縁部が内湾ぎみに立ち上がる甕(図4.08-13)や、杯部底面の径が小さい有稜高杯(図4.08-20)を含んでおり、佐山Ⅱ-3式新相以降に帰属する可能性があるものが存在する。以上からは、竪穴住居394から出土した土器群はやや広い時期幅で捉えることが妥当であろう。

図4.09～4.14には落ち込み378から出土した土器を示す。

図4.09の1～18は壺である。1～5は頸部から口縁部にかけての部位である。1、2は受け口状の口縁部を呈する。ともに口縁部外面にハケ調整具による刺突文をほどこす。1は胎土に大粒の砂礫を含む。2は外面の口縁部直下にユビオサエ、頸部の内外面にハケ調整をほどこす。3、4は頸部が直立ぎみに立ち上がったのち外湾して口縁部へ至る。3は口縁端部の内外面にヨコナデを、4は頸部の外面に

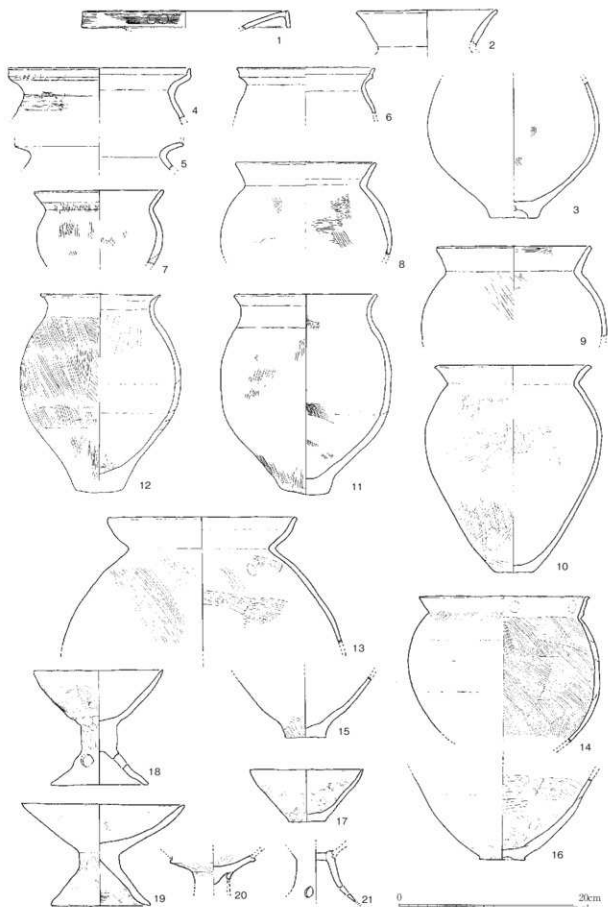


图 4.08 3区竖穴住居 394 出土土器 [1/4]

ハケ調整、口縁部外面にヨコナデをほどこす。5は頸部が外湾して口縁部へと至り、口縁部の内面に横方向のミガキ調整をほどこす。6は小型の壺であり、口縁部を欠損する。底部の外面中央に窪みをもち、扁球形の胴部を呈する。肩部内面に粘土の接合の痕跡を残す。

7、8は短頸壺の口縁部である。7は外反して下位にハケ調整具による刺突文が巡る。8はほぼ垂直に立ち上がり、胎土に砂礫を多く含む。9は短頸壺であり、胴部最大径付近と底部を欠損する。頸部はゆるやかに湾曲し、口縁部はわずかに外反しながら上方向に伸びる。口縁端部はわずかに外方向に肥厚する。外面は口縁部にヨコナデ肩部に縦方向のハケ調整を、内面には肩部にユビオサエ、胴部下半に縦方向のハケ調整をほどこす。10は広口壺である。肩部以上を復元できる。肩部から口縁部にかけてはゆるやかに湾曲する。頸部内面に粘土の接合の痕跡がみられる。11は短頸壺である。ほぼ完存する。胴部最大径が低い位置にあり、口縁部は短く上方向に立ち上がる。底部の外面は指頭大に窪む。胴部最大径付近の内面にハケ調整の上から粘土を接合した痕跡を残し、この部分が製作における乾燥単位になることが知られる。肩部内面をナデ調整する。東海地方に類例を求められる。12、13は直口壺である。ともに完形に復元することができる。12は底部外面に指頭大の窪みをもち、胴部は扁球形を呈する。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は直線的に伸びる。肩部の内面には粘土の接合の痕跡を残す。胴部内面にハケ調整がみられる。東海地方に類例を求められる。13は底部が平底であり、胴部は球形を呈する。頸部はゆるやかに湾曲し、口縁部はやや外反ぎみに立ち上がる。外面は肩部から底部にかけてミガキ調整、内面はハケ調整で底部には放射状にハケ調整具の当たりが残る。14は壺の胴部である。球形を呈し、外面は頸部にナデ、胴部はタタキ成形したのち中位に横方向のハケ調整し、さらにそののちに縦方向のミガキ調整をほどこす。内面は横方向のハケ調整をほどこす。15～18は底部である。15・18は平底、16・17は突出する平底を呈する。17は低部外面にユビオサエをほどこし、内面は底部から放射状にハケ調整をほどこす。18は外面に横方向のハケ調整とユビオサエをほどこし、内面には粘土の接合痕がみられる。19は鉢である。底部を欠損する。胴部は扁球形を呈し、頸部は屈曲し、口縁部は外湾して開く。口縁端部は外方向に面をもつ。胎土に砂礫を多く含む。

20、21は手培り形土器の覆い部片である。20は端部上端を欠損する。端面に柳描文と竹管文をほどこし、胎土には砂礫を多く含む。21は端部が内側に肥厚し、覆い部の外面下端に刻目突帯が巡る。外面に柳描文と柳描沈線文、端部に柳描波状文をほどこす。

図4.10の1～16は壺である。1は頸部以上を復元できる。口縁端部は内外面のナデにより比較的器壁が薄くなる。頸部の内面に粘土の接合の痕跡を残す。2～12は肩部以上を復元できる。2は頸部の屈曲が弱く、口縁部は短くわずかに外反する。肩部の外面をハケ調整する。精良な胎土をもつ。3は口縁端部が、内面に強くナデをほどこすことにより器壁がやや薄くなる。口縁部の内面に横方向のハケ調整をほどこす。4はやや肩が張る器形で、鉢の可能性もある。頸部は屈曲して口縁部はやや内湾ぎみに外に開く。口縁端部には面をもつ。胎土に砂礫を多く含む。5は口縁端部を欠損する。肩部が球形に近く、肩部の外面にハケ調整をほどこす。肩部の外面には煤が付着する。6は肩部がゆるやかに湾曲し、頸部はくの字に屈曲して口縁部がやや外反する。口縁部の外面を横方向のハケ調整、肩部の外面をハケ調整する。胎土に砂礫を多く含む、外面には煤が付着する。7は頸部がくの字に屈曲し、口縁部はやや外反して伸びる。肩部に比べて頸部から口縁部にかけての器壁が薄い。口縁部の外面に煤が付着する。8は頸部がゆるやかに湾曲し、口縁部は外湾する。頸部内面の屈曲付近に粘土の接合の痕跡を残す。9はやや大型のもので、頸部は屈曲し口縁部は短く立ち上がる。外面は口縁部から肩部にかけてハケ調整、

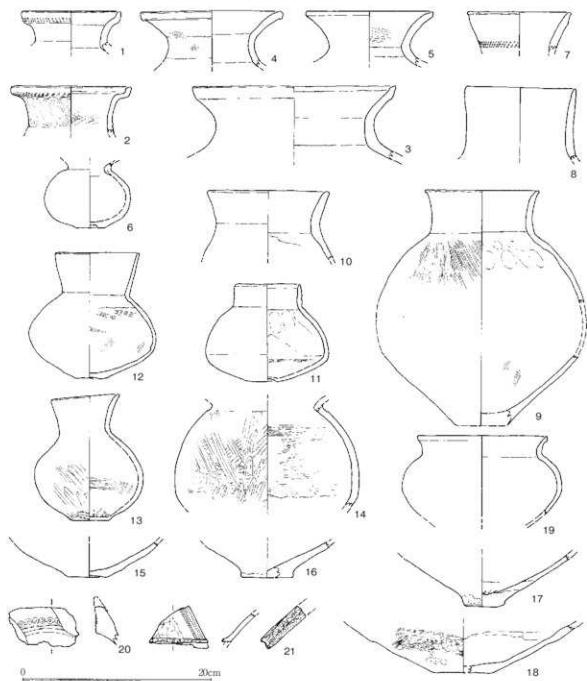


图 4.09 3区落込み 378 出土土器 (1) [1/4]

内面は肩部に調整具の当たりが残る。胎土に砂礫を多く含む。10は胴部が球形に近く、頸部はくの字に屈曲して内面には明瞭な稜線がみられる。口縁部は頸部から端部にかけて厚さを減しながら直線的に外に開く。胴部の外面をハケ調整し、内面には粘土の積み上げの痕跡を残す。精良な胎土をもつ。11は頸部がゆるやかに湾曲し、口縁部は外湾する。胴部外面はハケ調整する。胎土に砂礫を多く含む。12は頸部外面をつよくヨコナデする。口縁端部は外面に肥厚して面をもつ。胎土に砂礫を多く含む。13は底部を欠損する。胴部はやや長胴を呈し、頸部はくの字に屈曲する。口縁部はやや内湾ぎみに外に開く。胴部の外面をハケ調整する。14は口縁部を欠損する。平底を呈し、胴部最大径はやや高い位置にある。胴部の内外面をハケ調整し、底部の内面にハケ調整具の当たりが放射状に残る。15は肩部以上が遺存する。頸部はゆるやかに湾曲し、肩部から一連して口縁部に至る。頸部の外面と肩部の内面にハケ調整をほどこす。肩部の内面に粘土の接合の痕跡を残す。16は口縁部と底部を欠損する。頸部はゆるやかに湾曲し、胴部に比して器壁が薄くなる。胴部の内外面にハケ調整をほどこし、内面に粘土の接合の痕跡を残す。精良な胎土をもち、胴部外面に煤が付着する。

17・18は鉢である。17は底部を欠損する。球形の胴部をもち、口縁部は短く上方向に立ち上がる。口縁部内面にユビオサエ、肩部内面にハケ調整とナデをほどこす。18は底部を欠損する。胴部最大径がやや高い位置にあり、頸部は湾曲して口縁部が短く外へ開く。内外面に粘土の接合の痕跡を残す。精良な胎土をもち、胴部下半に煤が付着する。

19～24は甕である。19はやや小型のものである。輪台状の底部と球形に近い胴部をもち、頸部はくの字に屈曲して口縁部は外に開く。胴部の外面をハケ調整し、内面は胴部上半をケズリののちハケ調整、胴部下半をハケ調整する。胴部下半の外面に煤が付着する。20は肩部の傾斜が急で、一連してゆるやかに頸部から口縁部へ至り、口縁部は外湾して大きく外へ開く。口縁部から頸部の内面に横方向のハケ調整をほどこす。21は胴部の一部を欠損する。平底を呈し、胴部最大径はやや高い位置にある。頸部はくの字に屈曲する。口縁部はやや外湾し、口縁端部には面をもつ。肩部の外面をハケ調整、底部の内面には放射状のハケ調整具の当たりを残す。胴部下半に煤が付着する。22は肩部以上を欠損する。平底を呈し、胴部は球形を呈する。底部内面にユビオサエを残す。精良な胎土をもつ。23は肩部以上を復元できる。頸部は湾曲し、口縁端部を上方向につまみ上げる。肩部の外面にハケ調整をほどこす。24は胴部下半を一部欠損する。底部は輪台状を呈し、胴部下半は直線的で胴部最大径は比較的高い位置にある。頸部はくの字に屈曲し、口縁部はやや内湾ぎみに外に開く。胴部の内外面をハケ調整、口縁部の内面に横方向のハケ調整をほどこす。底部の内面にはユビオサエをほどこす。肩部の内外面に粘土の接合の痕跡を残す。

図4.11には受口状を呈する口縁部をもつ壺・甕・鉢を図示した。主に肩部以上を復元できる。

図4.11の1は甕または鉢である。口縁部は頸部から水平に近く伸びて上方向に短く立ち上がり、端部はナデにより内傾する面をもつ。肩部の外面に横方向のハケ調整、頸部の内面には横方向のハケ調整をほどこす。口縁部の内外面にヨコナデをほどこす。2は甕または壺である。球形に近い胴部をもち、口縁部は外湾したのち上方向に立ち上がる。口縁端部はわずかに内側に肥厚し、やや内傾する。調整は胴部の内面に横方向のハケ調整をほどこす。外面には口縁部と肩部にハケ調整具の端部による刺突文が並び、頸部下側と胴部中位に櫛描文をほどこす。胎土は精良であり、砂礫をまばらに含む。

3は小型の壺または甕である。口縁部が頸部から横方向に伸びたのち上方向に立ち上がり、端部は外湾する。肩部の内面に横方向のハケ調整をほどこし、口縁部の外面に斜行する櫛描沈線が並ぶ。4は小

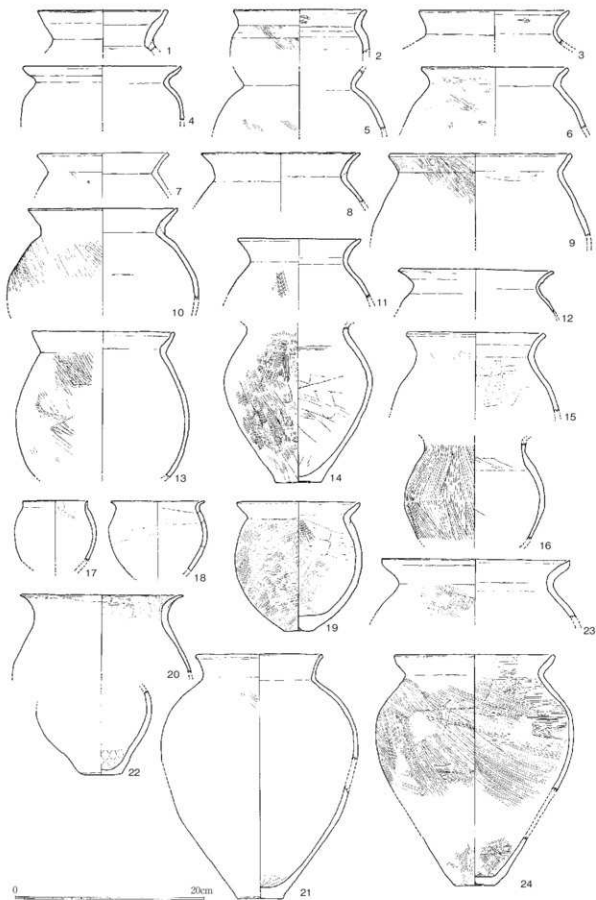


图 4.10 3区落込み 378 出土土器 (2) [1/4]

型の壺である。頸部は外湾し、口縁端部は短く立ち上がる。口縁端部には面をもつ。内面にはハケ調整後ナデをほどこす。5は甕である。口縁端部を欠損する。肩部は湾曲が弱く直線的で、頸部で湾曲して口縁部へ至る。肩部の内外面にハケ調整をほどこし、頸部外面をヨコナデする。外面には口縁部と肩部にハケ調整具の端部による刺突文が並び、頸部下側に櫛描文をほどこす。6は甕または鉢の頸部から口縁部にかけての細片である。口縁部は屈曲したのち外湾し、端部をつまみだす。口縁部外面に一条の沈線文がほどこされる。7は甕の肩部から口縁部にかけての細片である。肩部の外面をハケ調整する。頸部下側に櫛描文がほどこされ、櫛描文の直下にハケ調整具の端部による刺突文が並ぶ。外面には煤が付着する。8は甕である。肩部はゆるやかに湾曲し、頸部は外湾して口縁部へ至る。外面の口縁部と肩部にハケ調整具の端部による刺突文が並び、頸部下側に櫛描文をほどこす。胎土は精良であり、大粒の砂礫を含む。9は甕または鉢である。頸部はつよく湾曲し、口縁端部はやや内傾する。口縁部外面にはハケ調整具の端部による刺突文がみられる。胎土に砂礫を多く含む。10は甕である。肩部の湾曲はゆるやかで、頸部で外湾して口縁部へ至る。肩部の外面にハケ調整をほどこす。外面の口縁部と肩部にハケ調整具の端部による刺突文が並び、頸部下側に櫛描文をほどこす。外面に煤が付着する。11は甕である。口縁部が頸部から水平方向に伸び、屈曲して上方向に立ち上がる。口縁端部は外方向に肥厚する。肩部の外面にハケ調整をほどこす。口縁部の内外面にヨコナデをほどこす。12は球形の胴部をもち、頸部が湾曲したのち口縁部は上方向に屈曲し、やや外に開く。胴部の外面をハケ調整し、ヘラ描による横方向・斜め方向の沈線文をほどこす。内面には粘土の接合の痕跡が残る。外面に煤が付着する。13はやや長胴を呈する甕である。くの字に近く湾曲する頸部から口縁部がやや長く伸びたのち上方向に屈曲し、口縁端部は外方向に面をもつ。頸部の外面と胴部の内外面にハケ調整をほどこす。胎土に砂礫を多く含む、外面には煤が付着する。14は甕である。肩部の湾曲はゆるやかで、外湾する頸部から口縁部が外方向に直線的に伸び、口縁部の径が胴部の径より大きい。頸部内面にユビオサエをほどこす。肩部の外面には櫛描文がほどこされ、口縁部と肩部の外面の櫛描文の上下にハケ調整具の端部による刺突文が並ぶ。口縁部から頸部の外面に煤が付着する。15は甕または壺である。やや長胴を呈する胴部から頸部が外湾し、口縁部へと至る。口縁部は屈曲部以上の器壁が比較的厚く、口縁端部は外方向に肥厚してやや内傾する面をもつ。胴部の外面にハケ調整をほどこし、内面にはユビオサエが残る。口縁部の内外面にヨコナデをほどこす。肩部外面の中位と頸部直下に櫛描文をほどこす。

16は頸部が湾曲し、口縁部は屈曲してやや外に開く甕である。胎土は精良である。17は長胴を呈する甕である。肩部の湾曲はゆるやかで、頸部はくの字に屈曲し、口縁部は内面に段をもたない。肩部の内面に粘土の接合の痕跡を残す。肩部の内外面をハケ調整し、口縁部の内外面をヨコナデする。18は甕である。肩部は湾曲がゆるやかで、口縁部は頸部から外方向に開き、屈曲して上方向に立ち上がる。肩部の外面にハケ調整、内面にケズリをほどこし、頸部の内面は横方向のハケ調整のちナデをほどこす。口縁部の内外面をヨコナデする。頸部の外面に煤が付着する。19は甕である。ゆるやかに湾曲する肩部から頸部が屈曲し、口縁部は受口状を呈するが内面に段をもたない。肩部の内外面にハケ調整を、口縁部の内外面にヨコナデをほどこす。20はやや大型の甕である。肩部の湾曲はゆるやかで、頸部は湾曲して口縁部は外方向に開き、屈曲したのちやや外反ぎみに伸びる。口縁部と頸部の外面をヨコナデする。胎土に砂礫を多く含む、外面には煤が付着する。21は長胴を呈する壺または甕である。頸部はやや直立ぎみに立ち上がり、外反して口縁部へ至る。頸部の内面に粘土の接合痕を残す。肩部の外面をハケ調整する。胎土に砂礫を多く含む。

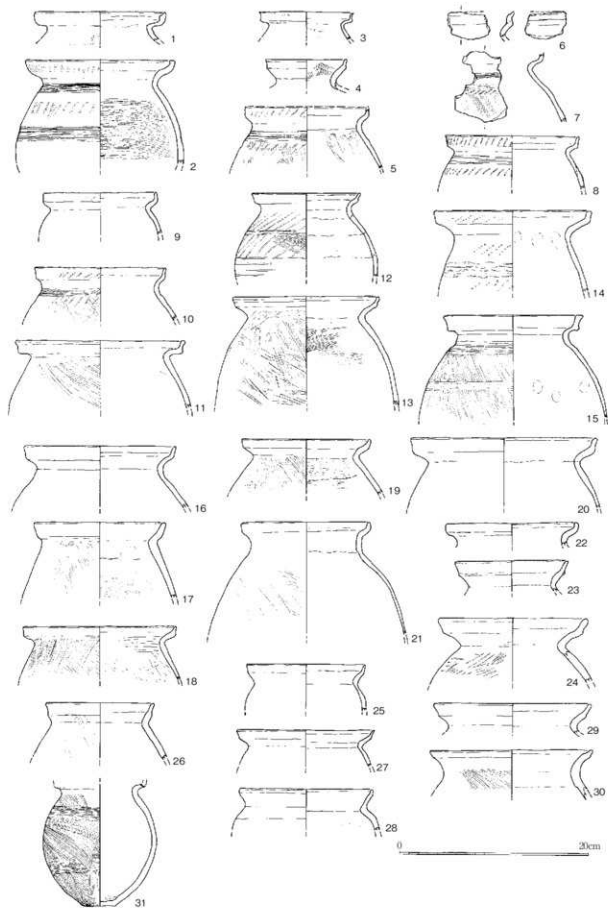


图 4.11 3区落込み 378 出土土器 (3) [1/4]

22、23は堯の口縁部である。22の口縁端部は外傾する面をもつ。23は頸部が肩部からくの字に屈曲して外反し、口縁部は上方向に屈曲して外方向へ伸びる。口縁部の屈曲部の外側には粘土帯を貼り付ける。外面をヨコナデする。外面には煤が付着する。24は堯である。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外反したのち屈曲してやや外反ぎみに伸びる。肩部の外面にタタキをほどこす。口縁部と頸部の外面をヨコナデする。外面には煤が付着する。25は堯または鉢である。器壁の厚さはくの字に屈曲する頸部の下側がもっとも薄く、上側は肥厚して口縁端部へ至る。頸部の外面にヨコナデをほどこす。26は堯である。ゆるやかに湾曲する肩部から頸部はくの字に屈曲し、口縁端部は内外面をヨコナデして器壁が薄くなる。頸部から肩部の外面にハケ調整をほどこす。外面には煤が付着する。27・28は堯または鉢である。27は頸部がくの字に屈曲して口縁部が外方向に開き、口縁端部は比較的器壁が薄い。28は頸部が湾曲し、口縁部は直線的に伸びて端部をつまみあげ、外側に面をもつ。口縁部は器壁が肩部に比べて薄い。肩部の内面にハケ調整をほどこす。頸部の外面、口縁部の内面をヨコナデする。外面には煤が付着する。29は堯の頸部から口縁部である。口縁部は外反し、上方向に屈曲して外に開く。頸部の外面、口縁部の内面をヨコナデする。外面には稜をもつが内面には段をもたない。外面には煤が付着する。30は堯の口縁部である。頸部はゆるやかに湾曲して一連して口縁部へ至り、口縁端部は外方向へつまみ出される。頸部の外面にハケ調整をほどこす。31はやや小型の堯で、口縁端部を欠損する。突出ぎみの平底を呈し、球形の胴部から頸部は湾曲し、口縁部は外方向へ伸びる。胴部の外面にハケ調整、底部の内面にユビオサエをほどこす。

図4.12の1～13は鉢である。1は口縁部から胴部にかけての細片である。胴部は内湾ぎみに立ち上がったのち上方向に立ち上がり、口縁端部は外方向に屈曲する。内面に粘土の接合の痕跡を残す。口縁部の内面に横方向のハケ調整をほどこす。2は受口状を呈する口縁部である。口縁部は頸部から大きく湾曲して開き、上方向に屈曲してやや外反する。口縁端部はやや内傾する面を呈する。口縁部の内外面をヨコナデし、肩部外面にはヘラ描沈線による格子文をほどこす。3～6は受口を呈する鉢である。いずれも底部を欠損する。3は扁球形の胴部をもち、湾曲する頸部から口縁部が屈曲して垂直に近く立ち上がる。口縁端部の内外面と胴部の外面をヨコナデする。4は口縁部の径が胴部の径よりも大きい。頸部はくの字に屈曲し、口縁端部はやや外に開く。胎土に砂礫を多く含む。5は扁球形の胴部をもち、頸部は湾曲して口縁部は端部にかけて内湾ぎみに立ち上がり、口縁部外面の稜は明瞭ではない。外面は肩部に櫛描文、口縁部と胴部中位にハケ調整具の端部による刺突文が並ぶ。精良な胎土をもつ。6は扁球形の胴部をもち、頸部から口縁部が外湾して水平近くを開き、口縁端部が上方向に屈曲して短く立ち上がる。口縁端部はわずかに外方向に肥厚する。肩部に櫛描文と、その直下にハケ調整具の端部による刺突文が並ぶ。精良な胎土をもつ。

7、8はいずれも底部を欠損する。胴部が半球形かやや長胴を呈し、頸部はくの字に屈曲して口縁部は外方向に開く。7は口縁部の内面をヨコナデする。9は胴部下半を欠損する。扁球形の胴部をもち、頸部はくの字に屈曲して口縁部は外湾する。肩部の内面にハケ調整具の当たりが残る。胎土に砂礫を多く含む。10は有段口縁鉢である。底部を欠損する。胴部は底部から内湾ぎみに外に開き、外湾したのち屈曲して口縁部は上方向に立ち上がる。精良な胎土をもつ。11、12は碗形を呈する。11はほぼ完形に遺存する。底部は輪台状を呈し、胴部は内湾して立ち上がり口縁部へ至る。胴部の外面はハケ調整をほどこし、底部の内面にはハケ調整具の当たりが放射状に残る。12は口縁部が外方向に屈曲し、外面にユビオサエがみられる。内面にはハケ調整をほどこす。13は台付鉢の脚台部である。底部からやや

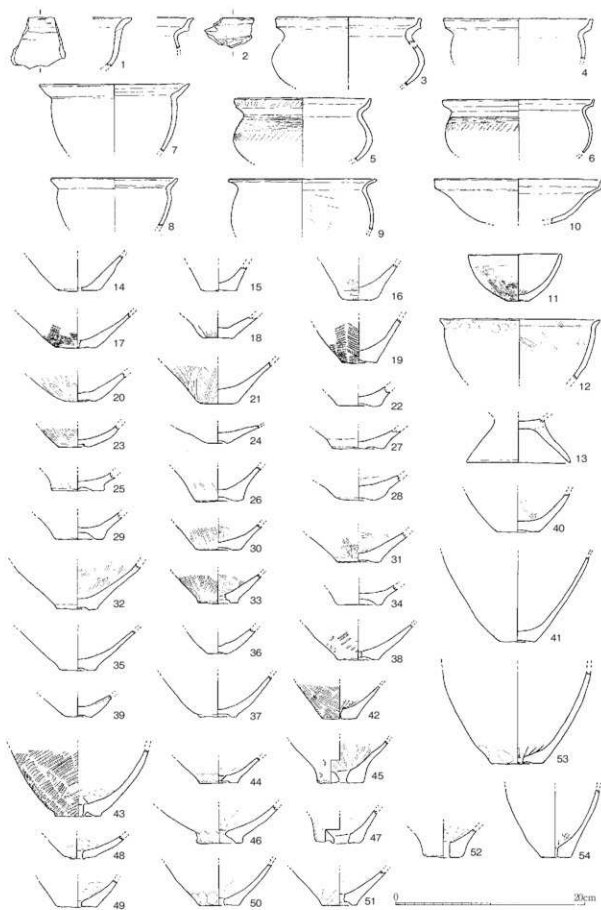


图 4.12 3区落込み 378 出土土器 (4) [1/4]

外反ぎみに伸び、裾部はやや内湾する。

14～41は壺、甕または鉢のものと考えられる底部である。平底あるいは輪台状を呈するものがある。17・19・38は外面にタタキをほどこす。30・31・33は内外面に、16・18・21・23・26は外面に、28・40は内面に、ハケ調整をほどこす。20は外面にミガキ調整をほどこし、32は内面にハケ後ミガキ調整をほどこす。

42～54は有孔鉢の底部から胴部である。底部は平底を呈するものと輪台状を呈するものがあり、穿孔は円筒状とすり鉢状を呈するものがある。穿孔方向は外面側に粘土のめくれがあるものがみられることから、内面側から行われたことがわかる。43は外面にタタキ、内面にユビオサエをほどこす。44・45・46・50・53は底部外面周囲にユビオサエをほどこす。47・48・51は外面がハケ調整である。内面は44～47・49～54がハケ調整、48がケズリである。

図4.13の1～6は器台である。1～3は受け部である。いずれも外方向に大きく開いて伸びる。1は端部が外面側に肥厚し、外方向に面をもつ。精良な胎土をもつ。2は比較的器壁が薄く、端部は垂下する。口縁端部に垂下する面には櫛描文をほどこす。3は端部に面をもつ。4は脚部中位以上を復元できる。受け部は外方向に大きく開く。脚部内面にハケ調整具の当たりを残す。5は裾部から受け部にかけて復元でき、ともに端部は欠損する。裾部から受け部にかけては一連して湾曲し、ともに大きく広がる。筒部中位に櫛描文をほどこす。裾部に数方向に横並びに二、あるいはそれ以上の単位の円形の穿孔をほどこす。6は器台の受け部であると考えられる。水平方向に伸びたのち屈曲し、やや外湾ぎみに立ち上がる。

7は小型器台であると考えられる。裾部を欠損する。脚柱部は中実で、受け部は碗形を呈する。脚柱部の外面に縦方向のミガキ調整、受け部の内面にハケ調整をほどこす。8、9は碗形の高杯である。8は裾部、杯部の端部を欠損する。脚柱部内面頂部は凹面を呈する。脚部外面に縦方向のミガキ調整をほどこす。9は裾部を欠損する。杯部は外方向に大きく開く。脚部の外面と杯部の内面に縦方向のミガキ

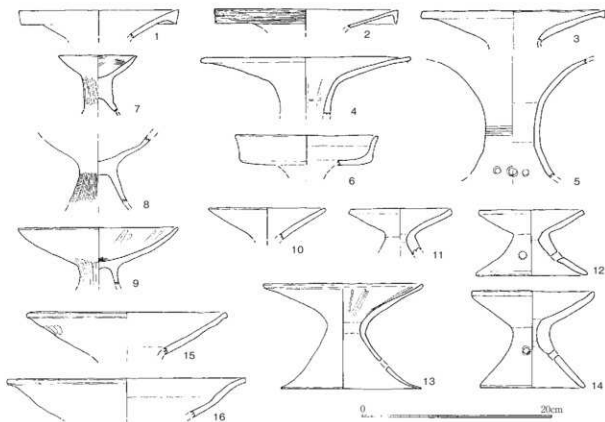


図4.13 3区落込み378出土土器(5) [1/4]

調整、杯部内面の底面にハケ調整をほどこす。

10～12は小型器台である。10は直線的に伸びる受け部である。端部は丸く収める。11は脚部中位から裾部を欠損する。受け部は脚部から屈曲してやや内湾ぎみに外方向に開く。端部には面をもつ。12は完形に復元できる。脚部から裾部にかけては外反し、受け部は脚部から屈曲して直線的に外方向に伸びる。受け部の端部には面をもつ。裾部には三方向に円形の穿孔をほどこす。

13～15は器台である。13は脚部が外方向に開いたのち裾部はやや径を広げ、受け部は器壁の厚さを減じながら直線的に外方向に開く。受け部端部には面をもつ。受け部の内面に縦方向にミガキ調整をほどこす。裾部に二方向に円形の穿孔をほどこす。14は脚部から裾部にかけてやや器壁の厚さを減じながらゆるやかに開き、受け部は内湾ぎみに外方向に伸びる。口縁端部外面にヨコナデをほどこす。脚部に三方向に円形の穿孔をほどこす。15は受け部である。直線的に外方向に伸び、端部には面をもつ。外面にユビオサエ、ナデをほどこす。16は高杯の杯部であると考えられる。やや内湾ぎみに開いたのち外湾し、端部には面をもつ。内面には湾曲付近にゆるやかな段がみられる。

図4.14の1～30は高杯または器台の脚部である。

図4.14の1は脚柱部である。杯部の底面は剥離する。頂部に穿孔をほどこす。2は杯部底面から脚部中位付近まで遺存する。杯部底面は凹面を呈する。脚部は裾広がりになり、三方向に円形の透かしをほどこす。脚部の外面は縦方向のミガキ調整、内面は横方向のハケ調整をほどこす。3は小型であり、器壁の厚さを減じながら直線的に伸び裾部へ至る。脚部に円孔をもたない。内面にケズリをほどこす。4は中実の脚柱部から裾部にかけて遺存する。杯部底面は凹面を呈し、裾部は脚柱部から大きく湾曲して開く。三方向に円形の透かしをほどこす。5は脚柱部の中位から裾部にかけて遺存する。脚柱部から裾部に向けて大きく湾曲して開く。脚柱部内面にケズリをほどこす。三方向に円形の透かしをほどこす。6は甕などの脚台部の可能性もある。頂部は比較的厚みがあり、脚部は裾広がりに開く。7は脚柱部である。杯部底面は凹面を呈する。三方向に円形の透かしをほどこす。精良な胎土をもつ。8は裾部に向けて直線的に伸びる。脚部内面には杯部側から充填した粘土が大きく垂下する。脚部の比較的高い位置に三方向に円形の透かしをほどこす。

9～12は器台の筒状の脚柱部を中心とする部位である。いずれも脚柱部から裾部にかけて遺存する。9は筒状の脚柱部から裾部が大きく外方向に開く。脚柱部下位に円形の透かしを3方向にほどこす。10は脚柱部から裾部にかけて一連して外方向に開き、四方向に円形の透かしをほどこす。11は直立する脚柱部から裾部が湾曲し、内湾ぎみに外方向に開く。外面に縦方向のミガキ調整をほどこす。12は脚柱部から受け部、裾部へはゆるやかに湾曲し、脚柱部と裾部の境付近に三方向に円形の透かしをほどこす。脚柱部外面にはハケ調整具の当たりが残り、受け部の内面にハケ調整をほどこす。脚柱部上位に粘土の接合の痕跡を残す。精良な胎土をもつ。

13は器台の受け部下位から脚部である。受け部から屈曲して脚部に至り、脚部は外湾ぎみに外方向に開く。透かしの有無は不明である。14は小型器台の脚部である。脚部は受け部から屈曲したのち直線的に外方向に伸びる。脚部の比較的高い位置に三方向の円形の透かしをほどこす。

15～25はやや外湾ぎみに裾部が外方向に伸びるものである。円形の透かしを四方向にほどこすもの(18)、三方向にほどこすもの(15、16、17、20、22)、透かしをほどこさないもの(21、25)がある。19・23・24は遺存状態から、透かしの数、方向は不明である。15は外面に縦方向のミガキ調整をほどこしたのち裾部に横方向のミガキ調整をほどこす。内面は全面にハケ調整をほどこす。16は外面に縦

方向のミガキ調整、内面にはハケ調整具の当たりがみられ、上位に絞りの痕跡を残す。18は外面にハケ調整ほどこし、内面上位に絞りの痕跡を残す。19は内面に横方向のハケ調整をほどこす。20は外面に縦方向のミガキ調整、内面にハケ調整をほどこす。21は内面にハケ調整をほどこす。24は外面に縦方向のミガキ調整、内面はハケ調整で上位に絞りの痕跡を残す。

26は脚部がやや内湾ぎみに外方向に大きく開き、脚柱部から杯部にかけては外湾する。27～30は脚柱部がやや長く伸びるものである。27は脚柱部と裾部の境付近に三方向に円形の透かしをほどこす。

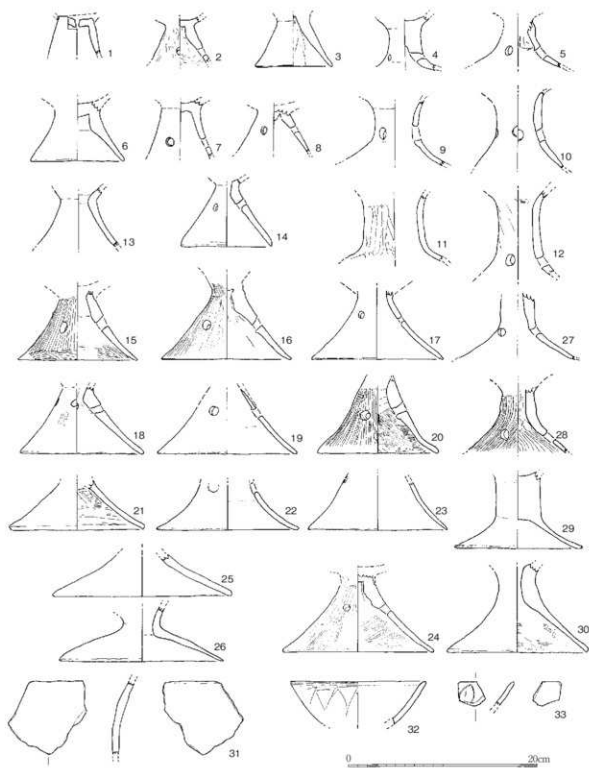


図 4.14 3区落込み 378 出土土器 (6) [1/4]

28は裾部寄りに円形の透かしを3方向にほどこし、外面は縦方向のミガキ調整、内面は上位に絞りの痕跡を残し、脚柱部と裾部の境付近にユビオサエ、裾部にミガキ調整をほどこす。29は脚柱部が中実であり、透かしをほどこさない。脚柱状部外面にハケ調整をほどこす。30は脚柱状部の器壁が比較的厚く、透かしをほどこさない。裾部内面に横方向のハケ調整をほどこす。

31は縄文土器の細片である。やや外湾する形態で器種や部位は不明である。胎土に角閃石と雲母を多く含み、生駒西麓地域からの搬入品であると考えられる。32、33は青磁の細片である。32は碗である。底部を欠損するが、口縁端部には内傾する面をもち、外面には葉文が浮彫でほどこされる。33は口縁端部を含む細片である。外面に葉文がみられる。

落ち込み378から出土した土器は、混入が明らかな縄文土器や青磁を除いたとしても、受け部から裾部にかけて大きく湾曲する器台(図4.13-5)や、有段口縁鉢(図4.12-10)を含んでおり、少なくとも佐山Ⅰ-2式からⅡ-3式新相(高野2003)まで時期幅がみられる。

[4区]

4区では溝419、落ち込み463から土器がまとまって出土した。

図4.15、4.16には溝419から出土した土器を示す。

図4.15の1は壺である。口縁部、底部を欠損する。胴部は球形を呈し、頸部は直立する。外面はミガキ調整、内面は胴部の下半にハケ調整をほどこしたのち粘土を積み上げ、上半にはナデ・ユビオサエがほどこされる。肩部内面と胴部の中位から下位にかけて煤が付着する。2は広口壺の口縁部である。頸部に突帯をもち、口縁部は直線的に外方向に伸び、口縁端部は垂下して外方向に面をもつ。口縁部外面にハケ調整後ナデをほどこす。3は直口壺の口縁部である。頸部から外湾したのちやや内湾ぎみに立ち上がる。内外面をヨコナデする。4は台付鉢である。台の裾部を欠損する。胴部は球形であり、頸部はゆるやかに屈曲して口縁部が直線的に外反する。脚柱部は器壁の厚さを減じながら裾方向に伸び、屈曲して裾部へと至る。口縁端部外面をヨコナデする。脚柱部外面に縦方向のミガキ調整をほどこす。東海地方に類例が多い形態のものである。5は鉢である。胴部下半を欠損する。やや扁球形を呈する胴部から頸部が屈曲し、口縁部は内湾ぎみに上方向に伸びる。肩部の外面に横方向のミガキ調整をほどこす。内外面に煤が付着する。

6～15は甕である。6は胴部下半を欠損する。胴部は球形に近く、頸部は湾曲して口縁部へと至る。受け口状の口縁部をもち、口縁端部はナデにより窪む。口縁部の内外面にヨコナデ、肩部の外面にハケ調整をほどこす。内外面に煤が付着する。7は口縁端部と胴部下半を欠損する。胴部はやや長胴を呈し、頸部は屈曲して口縁部へと至る。受け口状の口縁部をもつ。頸部の外面にヨコナデ、肩部の内外面にハケ調整をほどこす。8は肩部以上を復元でき、ゆるやかに湾曲する肩部から頸部が湾曲し、口縁部へ至る。口縁部が受け口状に近く内湾ぎみに立ち上がるが、内外面の稜線は明瞭ではない。口縁部の内外面にヨコナデ、肩部の外面をハケ調整後にミガキ調整、内面をハケ調整する。内面には粘土の接合の痕跡を残す。内外面に煤が付着する。9は小型のもので、口縁部は内外面にナデをほどこすことにより内湾ぎみに立ち上がり、受け口状に近い。平底をもち、外湾して立ち上がり球形の胴部をもつ。頸部はくの字に屈曲して口縁部へ至る。頸部の外面にヨコナデ、胴部の内外面にハケ調整をほどこす。胴部の外面に煤が付着する。10は頸部以上が遺存する。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外湾ぎみに立ち上がる。口縁端部の外面に面をもつ。口縁部は外面をハケ調整後ナデ、肩部の内外面にハケ調整をほどこす。外面に煤が付着する。11は肩部以上を復元できる。湾曲のゆるやかな肩部から頸部が湾曲して聞き、口縁部が外方向に伸びる。口縁部外面にヨコナデをほどこす。肩部の外面はタタキ後にハケ調整をほどこす。

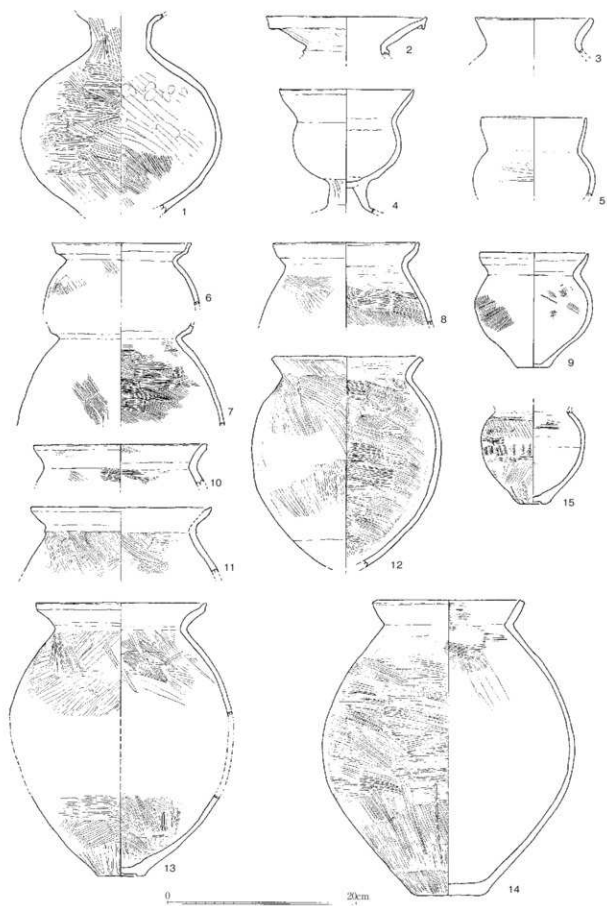


图 4.15 4区清419出土土器 (1) [1/4]

し、内面はハケ調整をほどこす。頸部から口縁部は肩部にハケ調整をほどこしたのちに接合され、頸部にはヨコナデをほどこす。12は底部を欠損する。胴部は長胴で最大径がやや高い位置にあり、頸部は屈曲して口縁部が外方向に開く。口縁部には面をもつ。全体の内外面にハケ調整をほどこす。口縁部の内外面はハケ調整後ヨコナデする。胴部外面の中位に煤が付着する。13は胴部最大径付近を欠損する。輪台状の底部をもち、やや長胴の胴部をもつ。肩部は屈曲し、口縁部は外反して端部をやや外方向にまみ上げる。外面は口縁部外面にヨコナデ、胴部にタタキをほどこしたのち肩部付近にはハケ調整、底部付近には縦方向のナデを強くほどこす。内面は胴部にハケ調整をほどこす。14は完形に復元できる。平底をもち、やや長胴を呈する胴部は最大径を中位付近にもつ。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は内湾ぎみに外に開いて立ち上がる。口縁部には面をもつ。外面は口縁部にヨコナデ、胴部にハケ調整をほどこしたのち下半に縦方向のミガキ調整を密にほどこす。内面は口縁部に横方向のハケ調整、肩部にハケ調整をほどこす。胴部中位に煤が付着する。15は小型のもので、口縁部を欠損する。輪台状の底部をもち、胴部はやや高い位置に最大径をもつ。外面は胴部にハケ調整をほどこし、底部付近にユビオサエ、肩部から胴部中位にかけて櫛描文、波状文、鹿状文をほどこす。胴部内面にハケ調整をほどこす。胴部内面には粘土の接合の痕跡が残る。

図4.16の1は壺である。肩部以上を復元できる。頸部は肩部から湾曲して口縁部へと至り、口縁部は内湾ぎみにやや外方向に立ち上がる。頸部付近の器壁が比較的厚い。口縁部から肩部の内外面に比較的目の広いハケ調整をほどこす。2は有孔鉢である。口縁部を欠損する。底部は突出し、胴部は大きく外方向に開いたのち内湾して立ち上がる。底部外面にユビオサエ、胴部の内面にハケ調整をほどこす。底部の穿孔はすり鉢状で内面側の径が広い。口縁部外面に煤が付着する。口縁部は遺存状態がわるく歪であり、磨滅のため剥離かどうか不明瞭なことから、他の器種の可能性もある。3は甕または鉢の底部である。輪台状を呈し、内面にはハケ調整具の当たりが放射状に残る。4は甕の底部である。底部は輪台状を呈し、胴部はゆるやかに湾曲して立ち上がる。外面はタタキ後にハケ調整、内面にはハケ調整をほどこす。外面に煤が付着する。5は甕の底部である。平底を呈し、胴部はゆるやかに湾曲して立ち上がる。胴部の内外面にハケ調整をほどこす。外面に煤が付着する。

6、7は鉢である。6は胴部下半が遺存する。底部は外面の中央を窪ませることにより輪台状を呈し、胴部は扁球形を呈する。外面に縦方向のミガキ調整、内面にハケ調整をほどこす。内面と胴部外面の中位に煤が付着する。7は口縁部を欠損する。底部は比較的小さな平底であり、胴部は扁球形を呈する。頸部はくの字に屈曲して口縁部が外方向に開く。胴部の外面をハケ調整、内面は底部付近にハケ調整をほどこし、胴部中位をナデ、頸部直下にユビオサエをほどこす。内外面に煤が付着する。8、9は有孔鉢である。ともに底部から胴部がやや内湾ぎみに伸びる。8は外面の底部外面と底面にユビオサエ、内面にやや目の粗いハケ調整をほどこす。9は内外面ともにハケ調整をほどこす。外面に煤が付着し、胎土には砂礫を多く含む。10は注口付台付無頸壺である。胴部は球形に近く、最大径がやや高い位置にある。脚部は底部から直線的に外方向に伸びる。外面は胴部にハケ・ミガキ調整、底部の内外面にユビオサエをほどこす。内面は胴部にハケ調整後まばらにミガキ調整、脚部にユビオサエをほどこす。外面と脚部内面に煤が付着する。11は手埴り形土器の覆い部である。端部外面に突帯をもつ。外面にハケ調整後ヘラ描による沈線文をほどこす。

12～16は高杯である。12、13は杯部内面の底面が剥離するほかはほぼ完形に復元できる。ともに杯部は内湾ぎみに外方向に伸びたのち屈曲して直線的に外方向に立ち上がり、脚部は中空でゆるやかに外

湾する。12は杯部の内外面と脚部の外面に縦方向のミガキ調整、脚部の内面に横方向のケズリをほどこす。脚部には二段の円形の透かしを三方向にほどこす。13は外面が杯部にハケ調整したのち横方向のミガキ調整、脚部に縦方向のハケ調整ののち縦方向のミガキ調整をほどこす。内面は杯部が横方向のハケ調整ののち縦方向のミガキ調整、脚部が上位に横方向のケズリ、下位から裾部にかけて横方向のハケ調整をほどこす。脚部には3方向に円形の透かしをほどこす。14は杯部である。底面から湾曲して開いたのち直線的に外方向に立ち上がる。外面には方向は不明瞭であるがミガキ調整がほどこされる。15は杯部であり、底面と端部を欠損する。外面の稜線は突帯状を呈するが、内面の段は明瞭ではない。内面に縦方向のミガキ調整をほどこす。16は脚部である。杯部側から裾部にかけてゆるやかに外湾する。外面に縦方向のミガキ調整をほどこし、内面上位には絞りの痕跡を残す。二段の円形の透かしを三方向にほどこす。

17～19は小型器台である。17はほぼ完形に復元できる。受け部、脚部ともに直線的に伸びる。受け部の内外面と脚部外面に縦方向のミガキ調整、脚部の内外面にハケ調整をほどこす。18、19は脚部である。18は裾部がやや内湾ぎみに外方向に伸びる。外面に縦方向のミガキ調整、内面の上位に横方向のケズリ、下位にハケ調整をほどこす。三方向に円形の透かしをほどこす。19は裾部がやや外方向に開く。外面に縦方向のミガキ調整をほどこし、裾部内面にはヨコナデをほどこす。内面には粘土の接合の痕跡を残す。20は中型の器台である。受け部は脚部から屈曲してやや内湾ぎみに外方向に開く。端部には外方向に面をもつ。受け部の内外面、脚部の外面に縦方向のミガキ調整をほどこす。

溝 419から出土した土器のうち、甕は平底を呈するもの、長胴ながら胴部の中位に最大径をもつもの、タキをほどこすものがある点が特徴である。また有孔鉢を含むことから、時期としては佐山Ⅱ式（高野 2003）の範疇で捉えられるものと考えられる。小型器台（図 4.16 - 17）は、X字形を呈する中空のいわゆる布留系のものとは異なり、佐山Ⅱ - 3式新相の範疇で捉えられるものである。また東海地方に類例の多い台付鉢（図 4.16 - 4）は東海地方では帰属時期が週間Ⅰ式からⅡ式古相に限られ（赤塚 1990）、時期としては産駒がない（高野 2003）。

図 4.17 には落ち込み 463 から出土した土器を示す。

図 4.17 の 1～8 は甕である。1 は口縁部を欠損する。底部は輪台状を呈し、胴部は球形に近い。頸部は湾曲して口縁部が外方向に開く。外面は胴部にハケ調整、内面は胴部にハケ・ナデ調整、頸部直下にユビオサエをほどこす。外面にヘラ描沈線文・波状文をほどこす。胎土に砂礫を多く含む。ハケ調整の凹みが赤くみられる箇所があり、外面に赤彩をほどこしていた可能性がある。2 は底部を欠損する。球形の胴部をもち、頸部がくの字に屈曲して口縁部が外方向に開き、口縁端部を上方向につまみ上げる。外面は胴部をタキ成形した後に胴部下半に縦方向のハケ調整をほどこし、口縁部をヨコナデする。内面は胴部にケズリをほどこす。外面には全体的に煤が付着する。3 は胴部下半を欠損する。胴部は球形を呈し、頸部が湾曲して口縁部が外方向に開く。受け口状の口縁部をもち、端部を外方向へつまみ出す。口縁部の内外面にヨコナデをほどこし、胴部は外面をタキ成形したのちハケ調整、内面にハケ調整をほどこす。外面に煤が付着する。4、5 は底部を欠損する。ともにやや長胴を呈し、頸部がゆるやかに湾曲したのち口縁部がやや外湾する。口縁端部には面をもつ。胴部の内外面にハケ調整をほどこす。4 は口縁部の内外面、5 は口縁部の外面にヨコナデをほどこす。5 は外面に煤が付着する。6 は肩部以上を復元できる。ゆるやかに湾曲する肩部から頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外方向に開く。口縁端部には面をもつ。肩部の内外面、口縁部の内面にハケ調整をほどこす。頸部直下の内面にユビオサエをほどこす。7 は小型のものであり、完形に復元できる。輪台状の底部をもち、胴部は球形を呈する。頸部

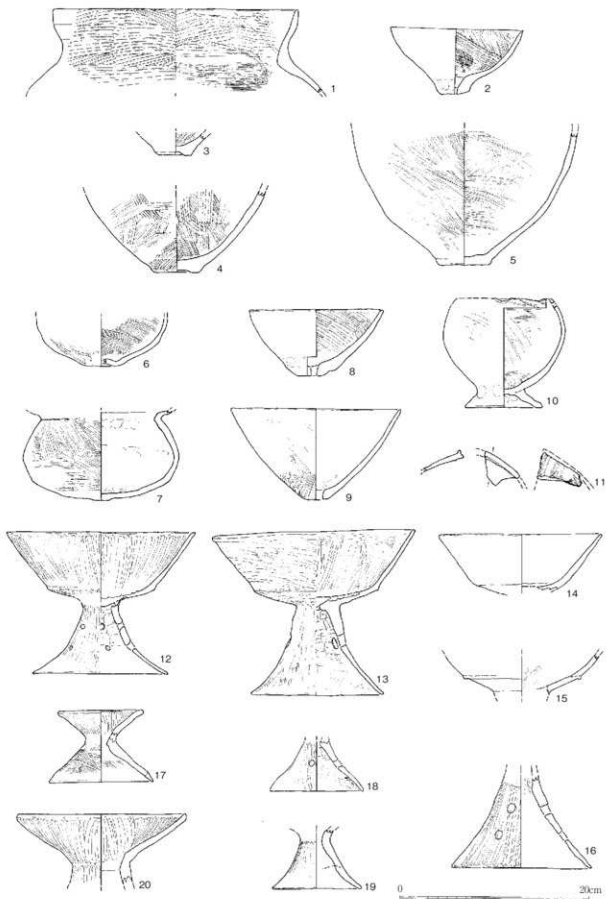


图4.16 4区清419出土土器(2) [1/4]

はくの字に屈曲し、口縁部は外に開く。口縁端部は外方向に面をもつ。外面は底部付近にユビオサエ、内面は胴部と口縁部にハケ調整をほどこす。頸部と胴部の内面に粘土の接合の痕跡を残す。精良な胎土をもつ。8は完形に復元できる。長胴を呈し、頸部はくの字に屈曲して口縁部はやや内湾ぎみに外方向に開く。口縁端部には面をもつ。外面は胴部をタタキ成形した後ハケ調整とユビオサエをほどこし、口縁部にハケ調整とユビオサエをほどこす。内面は全面にハケ調整をほどこす。外面には全体的に煤が付着する。

9は裾広がりに伸びる蓋であると考えられる。摘みの外面にユビオサエ、胴部の内外面にハケ調整をほどこし、端部をヨコナデする。端部の内外面に煤が付着する。

10、11は鉢である。10は胴部下半を欠損する。胴部は扁球形を呈し、頸部は湾曲して口縁部は受け

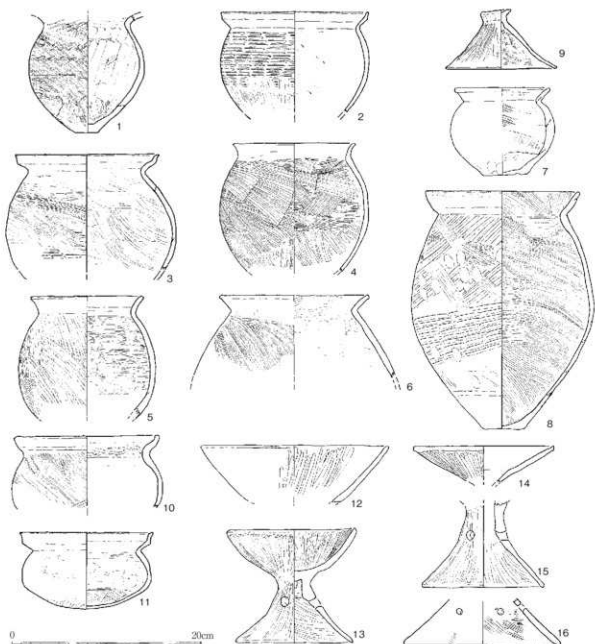


図4.17 4区落込み463出土土器 (1/4)

口状を呈する。口縁端部に面をもつ。胴部の外面と頸部の内面に比較的目の粗いハケ調整をほどこす。口縁端部の内外面にヨコナデをほどこす。外面に煤が付着する。11は完形に復元できる。丸底で胴部は扁球形を呈し、頸部はくの字に屈曲して口縁部は受け口状を呈する。外面は胴部にハケ調整、底部にケズリをほどこす。内面は胴部にハケ調整のち中位にケズリをほどこす。頸部から口縁部の内外面にヨコナデをほどこす。外面の胴部下半に煤が付着する。

12、13は高杯である。12は杯部であり、やや内湾ぎみに外方向に立ち上がる。端部には面をもつ。内外面に縦方向のミガキ調整をほどこす。13は完形に復元できる。杯部は碗状を呈し、脚部は外湾して開く。杯部の内外面、脚部の外面に縦方向のミガキ調整をほどこす。脚柱部の内面にはケズリをほどこし、上位に絞り成形の痕跡を残す。脚部中位から裾部にかけてハケ調整をほどこす。脚部中位に円形の透かしを三方向にほどこす。精良な胎土をもつ。14は器台の受け部である。端部に外方向の面をもつ。外面に縦方向のミガキ調整をほどこす。15は高杯または器台の脚部である。脚柱部は直立し、裾部は外方向に開く。端部には面をもつ。外面に縦方向のミガキ調整、内面にはラセン状にハケ調整をほどこす。中位に円形の透かしを三方向にほどこす。16は高杯または器台の脚の裾部である。直線的に外方向に開き、内外面にハケ調整をほどこす。円形の透かしを三方向にほどこす。胎土には砂礫を多く含み、比較的硬質である。

落ち込み463から出土した土器は、甕は胴部が球形に近づきつつも内面にケズリをほどこさず、かつ頸部の湾曲がゆるやかなのがみられる。また碗形高杯の脚部は中空で、杯部径を上回るほど発達せず、小型器台を含まないことから佐山Ⅱ-1式（高野2003）のなかで捉えることができる。

以上のように、今回の調査で出土した土器からは多くの遺構が佐山Ⅱ式期を中心とした時期に含まれることがわかるが、堅穴住居62のように佐山Ⅲ式期後半に帰属すると考えられる遺構も存在し、また佐山Ⅱ式期を中心とする遺構にも佐山Ⅲ式期以降の遺物が混入する例が多い。今後も今回の調査区周辺で佐山Ⅲ式以降の遺構が検出される可能性は十分にあるだろう。

また、佐山Ⅱ式に含まれる土器群では、有稜高杯にかんしてそのほとんどが杯部が深い鉢状を呈し、脚部がゆるやかに開く「広義の東海系高杯」（高野2003）と捉えられる。脚部がゆるやかに外湾している点で「近江で受容されたもの」（高野2003）、あるいは「京都盆地における古墳時代初期の脚部部の特徴」（若林2010）を有するものである。また甕や鉢では近江地域に類例が多い受け口状の口縁部をもつものが多く、全体としては隣接する近江地域の影響が強いと考えられる。近江地域からの搬入の可能性を考えられるものもあるが、これらの土器群は各遺構出土土器中の構成比率の高さからみれば単なる影響のみというわけではなく、集落内で再生産されたきわめて在地の様相に強く結びついたものと考えられる。山城盆地における地域性のなかでいかに捉えることができるかどうかは今後の検討が必要である。

【引用文献】

- 赤塚次郎 1990 「廻間式土器」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 高野陽子 2003 「弥生時代後期～古墳時代の土器様相」『佐山遺跡』京都府遺跡調査報告書第33冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』講談社
- 若林邦彦 2010 「庄内式土器における地域的様式差—京都盆地の小型器台から—」『考古学は何を語るか』同志社大学考古学シリーズX

表 4.1 出土土器観察表

図版番号	遺構名	器種	残存率(%)	色調	粘土	肌理	備考
401 1	土坑31西平	甕	胴部80	外面 Hae25YR6/4 鈍い橙～5YR5/6 明赤内面 Hae10YR4/1 肌灰～ND/肌灰	$\phi \sim 3\text{mm}$ チャート微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 赤色酸化粒微量、雲母微量	胴部下手外面段状 胴部内面全体	
401 2	土坑31西平	甕	胴部25	外面 Hae7.5YR8/3 浅黄橙～10YR7/1 に近い黄 内面 Hae5YR7/4 に近い橙～10YR7/3 に近い黄橙	$\phi \sim 3\text{mm}$ 赤色酸化粒微量、チャート多量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石微量、角閃石微量	胴部下手外面段状	
401 3	土坑31西平	小壺形打子	口縁10 胴部25	内外面 Hae10YR6/4 に近い黄橙	$\phi \sim 3\text{mm}$ 石英微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 石英少量、角閃石多量、雲母多量		生跡西側露出
401 4	土坑31西平	甕	口縁30	外面 Hae10YR4/1 肌灰～5YR5/8 明赤内面 Hae10YR5/2 浅黄橙	$\phi \sim 4\text{mm}$ チャート微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 石英微量、長石少量、雲母微量		外面露出
401 5	土坑31西平 ア字部	甕	口縁100	外面 Hae5YR6/4 淡橙～10YR7/1 に近い黄 内面 Hae7.5YR7/3 に近い橙	$\phi \sim 1\text{mm}$ 石英微量、長石微量、チャート微量、雲母微量		外面露出 精良な粘土をもつ
401 6	土坑31西平	甕	口縁10 胴部30	外面 Hae10YR7/4 に近い黄橙～5YR7/6 明赤 内面 Hae7.5YR7/4 に近い橙～7.5YR5/2 淡橙	$\phi \sim 3\text{mm}$ チャート少量、 $\phi \sim 3\text{mm}$ 石英微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 雲母微量、赤色酸化粒微量		外面露出
401 7	土坑31西平	高杯	口縁20	外面 Hae7.5YR7/3 に近い黄 内面 Hae7.5YR7/4 に近い黄	$\phi \sim 2\text{mm}$ 長石微量、石英微量、チャート微量、雲母微量		精良な粘土をもつ
401 8	土坑31西平	小壺形打子	口縁75 胴部80	内外面 Hae10YR7/3 に近い黄橙～2.5YR6/6 橙	$\phi \sim 3\text{mm}$ チャート微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石微量、雲母微量		精良な粘土をもつ
401 9	土坑31ア字部	小壺形打子	受け部100	外面 Hae5YR5/1 肌灰～7.5YR7/2 明赤 内面 Hae7.5YR4/2 淡橙～7.5YR7/2 明赤	$\phi \sim 2\text{mm}$ 雲母少量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石微量	受け部外面段状	精良な粘土をもつ
401 10	土坑31西平	高杯	胴部100	内外面 Hae2.5YR7/6 橙	$\phi \sim 3\text{mm}$ 石英微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石少量、赤色酸化粒微量		粘土に砂粒を多く含む
402 1	土坑32	細頸甕	口縁20 胴部60	外面 Hae10YR8/4 浅黄橙 内面 Hae10YR8/2 灰白	$\phi \sim 4\text{mm}$ の石英多量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ の石英少量、チャート少量、赤色酸化粒微量		粘土に砂粒を多く含む
402 2	土坑32	打子付小壺形打子	口縁90 胴部60	外面 Hae7.5YR8/3 浅黄橙～2.5Y7/1 肌灰 内面 Hae7.5YR7/2 明赤	$\phi \sim 2\text{mm}$ チャート少量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石、赤色酸化粒微量、石英微量、雲母微量		
402 3	土坑32	台付甕	胴部80	外面、胴部内面 Hae2.5Y5/1 黄灰～2.5Y7/6 橙 内面 Hae10YR7/4 に近い黄橙～10YR5/2 浅黄橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ チャート微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 石英微量、長石少量、雲母微量、赤色酸化粒微量、角閃石微量		外面露出
402 4	土坑32	高杯	口縁60	外面 Hae2.5YR2/2 灰白～2.5Y7/1 灰白 内面 Hae10YR7/2 に近い黄	$\phi \sim 3\text{mm}$ チャート微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石少量、石英微量、雲母微量	外面露出	精良な粘土をもつ
402 5	土坑32	甕	口縁30	外面 Hae5YR7/6 橙～2.5YR6/6 橙 内面 Hae10YR7/4 明赤～2.5Y7/2 淡橙	$\phi \sim 3\text{mm}$ チャート多量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石微量、赤色酸化粒微量		外面露出 粘土に砂粒を多く含む
402 6	土坑32	甕	口縁75 胴部70	外面 Hae10YR7/2 灰白～10YR7/2 に近い黄 内面 Hae10YR6/1 肌灰～10YR7/2 に近い黄	$\phi \sim 1\text{mm}$ チャート微量、石英微量、雲母微量、長石微量	口縁基部、肩部外面段状	外面露出
402 7	土坑33	甕	口縁5以下 胴部50	外面 Hae10YR8/1 灰白～10YR3/1 肌灰 内面 Hae10YR6/1 肌灰～10YR3/1 肌灰	$\phi \sim 3\text{mm}$ 石英少量、 $\phi \sim 2\text{mm}$ 長石少量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ チャート多量	胴部下手外面段状 胴部内面全体	外面露出
403 1	溝34	甕	口縁90 胴部15 底面60	外面 Hae7.5YR8/3 浅黄橙～5YR7/4 に近い黄 内面 Hae10YR3/2 肌灰	$\phi \sim 4\text{mm}$ チャート多量、 $\phi \sim 1.5\text{mm}$ 雲母、 $\phi \sim 3.5\text{mm}$ 石英	胴部内面全体	
403 2	溝34	甕	胴部100 底面30	外面 Hae2.5YR6/6 橙～2.5Y3/1 黄灰 内面 Hae7.5YR7/6 橙～5YR7/4 鈍い橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ 石英微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石多量、雲母少量、チャート少量	胴部下手外面段状 胴部内面全体	
403 3	溝34	大壺形打子	口縁25	外面 Hae2.5YR7/6 橙～5YR8/4 淡橙 内面 Hae5YR8/4 淡橙	$\phi \sim 1\text{mm}$ 石英多量、チャート多量、長石少量、雲母微量		胴部と口縁部が互に露出する 粘土に砂粒を多く含む 、粗大品
403 4	溝34 南平下層	鉢	口縁40	内外面 Hae2.5YR3/3 黄黄～2.5YR7/6 橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ 赤色酸化粒少量、長石少量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 石英微量		粘土に砂粒を多く含む
403 5	溝34 南平下層	鉢	口縁20	外面 Hae2.5YR7/4 浅赤橙 内面 Hae5YR5/4 淡橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ 石英微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ チャート少量、長石微量、雲母微量		外面露出
403 6	溝34 南平	甕	口縁70 胴部100	外面 Hae7.5YR8/4 浅黄橙 内面 Hae10YR7/1 灰白	$\phi \sim 3\text{mm}$ チャート微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石微量、石英微量、雲母微量	胴部内外面段状 胴部内面全体	外面露出
403 7	溝34	甕	口縁30	内外面 Hae5YR8/3 淡橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ 石英少量、赤色酸化粒少量	底部外面	発音がなく胴部下平は同位で土器 胴部下手外面露出
403 8	溝34	甕	口縁30	外面 Hae10YR3/1 肌灰～5YR6/6 橙 内面 Hae10YR7/1 灰白～5YR8/4 淡橙	$\phi \sim 3\text{mm}$ チャート微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石多量、赤色酸化粒微量、雲母微量	胴部下手外面段状	
403 9	溝34 南平	甕	胴部40	外面 Hae7.5YR7/6 橙 内面 Hae7.5YR7/6 橙～10YR8/4 浅黄	$\phi \sim 2\text{mm}$ 石英少量、長石少量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 赤色酸化粒微量		
403 10	溝34	甕	口縁20	外面 Hae5YR7/8 橙～5YR7/1 明赤 内面 Hae10YR8/3 浅黄橙	$\phi \sim 1\text{mm}$ 長石少量、石英微量、赤色酸化粒微量、雲母微量	胴部外面	外面露出
403 11	溝34	甕	口縁90	内外面 Hae2.5YR6/6 橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ 長石多量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 石英微量、雲母微量	肩部外面段状	
403 12	溝34 南平下層	甕	口縁40	外面 Hae7.5YR7/4 に近い黄～10YR7/3 に近い黄 内面 Hae7.5YR7/6 橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ 石英微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石少量、雲母微量	口縁部～肩部外面段状	
403 13	溝34 南平	鉢	口縁40	内外面 Hae5YR7/4 に近い黄～10YR7/2 肌灰	$\phi \sim 3\text{mm}$ 長石多量、石英少量、雲母少量、チャート少量		外面露出
403 14	溝34	鉢	口縁40	外面 Hae5YR7/8 橙～5YR5/2 淡橙 内面 Hae5YR7/6 橙～10YR7/2 に近い黄	$\phi \sim 2\text{mm}$ チャート少量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石少量、赤色酸化粒微量、雲母少量	胴部下平～底部外面広い範囲	
403 15	溝34 南平東側	鉢	口縁70	外面 Hae2.5YR7/6 橙～10YR8/1 灰白 内面 Hae2.5YR7/8 橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ チャート多量、赤色酸化粒微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石微量、雲母少量	口縁部外面段状	
403 16	溝34 南平	鉢	口縁40	外面 Hae2.5YR7/1 灰白～5YR7/6 橙 内面 Hae7.5YR8/2 灰白～5YR4/4 に近い黄	$\phi \sim 3\text{mm}$ 長石多量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ チャート多量、赤色酸化粒微量	口縁部～肩部外面段状	
404 1	溝34 南平下層	高杯	口縁50	外面 Hae7.5YR8/1 灰白～7.5YR7/4 に近い黄 内面 Hae7.5YR8/2 灰白	$\phi \sim 3\text{mm}$ チャート微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石少量、赤色酸化粒微量	口縁基部内面	
404 2	溝34 南平下層	高杯	作部60	外面 Hae2.5YR7/4 浅赤橙～7.5YR6/3 に近い黄 内面 Hae10YR8/2 灰白～5YR7/6 橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ 雲母微量、チャート微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 石英微量、長石微量	口縁基部外面	精良な粘土をもつ
404 3	溝34	壺形	口縁100	外面 Hae7.5YR7/8 黄橙 内面 Hae7.5YR6/6 浅黄橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ 石英微量、チャート微量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 長石微量		精良な粘土をもつ
404 4	溝34 南平	小壺形打子	口縁70 胴部30	外面 Hae7.5YR8/6 浅黄橙～2.5YR7/4 に近い黄 内面 5YR7/6 橙～10YR8/1 灰白	$\phi \sim 3\text{mm}$ チャート少量、 $\phi \sim 1\text{mm}$ 赤色酸化粒少量、長石微量、雲母微量		精良な粘土をもつ
404 5	溝34	壺形	口縁50 胴部20	内外面 Hae 5 YR7/6 橙	$\phi \sim 2\text{mm}$ 長石多量、石英微量	胴部外面段状	精良な粘土をもつ

階数	番号	造構名	部種	内率 (注1、%)	色調	粉土	照度	備考
404	6	溝34	高杯	断面95	内外面 Hue 5YR7/6 程度	φ~1mm長石多量、石英少量、黒 チャート少量		精白な粉土をもつ
404	7	溝34 南半	高杯	断面100	内外面 Hue10YR8/2灰白~7.5YR6/4 に多い程度	φ~4mmチャート少量、φ~1mm石 英少量、赤色酸化程度量長石少量、 雲母少量		
404	8	溝34 北半	高杯	断面100	内外面 Hue6Y10R7/1暗灰、Hue2.5YR3/4 程度	φ~3mm石英少量、φ~1mm長石少 量、チャート少量		脚柱部外面露状
404	9	溝34 北半東部	高杯	断面100	内外面 Hue7.5YR/1 灰白~2.5YR7/4 に多い程度	φ~3mm赤色酸化程度少量、φ~1mm 長石少量		
405	1	壁六住居62 北西 上~中層	前窓部 作存	受け部30	内面 HueN5/1灰~N4/1灰 外面 Hue6Y7/1灰~N4/1灰	φ~4mmチャート少量、φ~1mm石 英少量、白色粒少量		
405	2	壁六住居62 北西	小窓丸 底窓	口幅50	内面 Hue10YR7/1 灰白	φ~1mm長石少量、石英微量、チャ ート微量		精白な粉土をもつ
405	3	壁六住居62 北西	小窓丸 底窓	断面100	外面 Hue2.5YR8/3赤明赤 内面 Hue2.5YR8/3赤明赤	φ~3mmチャート少量、φ~1mm長 石少量、石英微量		脚柱外面露状
405	4	壁六住居62 南東	小窓丸 底窓	口幅10 断面60	内外面 Hue10YR8/3 浅黄橙	φ~1mm石英微量、長石少量		脚柱外面露状
405	5	壁六住居62 北西 上~中層	小窓丸 底窓	口幅80 断面100	内面 10YR8/3 浅黄橙~10YR3/1 黒 内面 Hue10YR8/3 浅黄橙	φ~1mm石英微量、長石少量		口幅部~脚柱外面露状
405	6	壁六住居62 南西床面 上層	小窓丸 底窓	口幅30 断面30	内外面 Hue5YR6/8 橙	φ~3mmチャート少量、φ~1mm長 石微量		
405	7	壁六住居62 内柱穴81	窓	口幅25	外面 Hue10YR8/3 浅黄橙 内面 Hue7.5YR8/4 浅黄橙	φ~1mm石英微量、チャート少量、 雲母微量		
405	8	壁六住居62 上~中層	窓	断面100	外面 Hue10YR7/2に赤い黄橙 内面 Hue2.5Y7/1 灰白	φ~3mmチャート少量、φ~1mm長 石少量		精白な粉土をもつ
405	9	壁六住居62 内南西柱穴 上層	窓	口幅20	外面 Hue7.5YR8/3 浅黄橙 内面 Hue5YR7/6 橙	φ~3mm石英微量、長石少量、φ~ 1mm雲母微量		精白な粉土をもつ
405	10	壁六住居62 北西 上~中層	窓	口幅10	外面 Hue7.5YR8/2 灰白 内面 Hue7.5YR7/3 に多い程度	φ~1mm長石少量、雲母微量		精白な粉土をもつ 外面露状
405	11	壁六住居62 北西	窓	口幅15	内外面 Hue10YR8/2 灰白	φ~1mm石英少量、長石微量、チャ ート少量		外面露状
405	12	壁六住居62 北西	窓	口幅15	内外面 Hue7.5YR8/3 浅黄橙	φ~1mm石英微量、長石微量、赤色 酸化程度少量チャート微量		精白な粉土をもつ 外面露状
405	13	壁六住居62 北西	窓	口幅15	内外面 Hue10YR8/4 浅黄橙	φ~3mmチャート少量、φ~1mm長 石少量、石英微量		内外面に露状
405	14	壁六住居62 内柱穴81	窓	口幅25	外面 Hue10YR8/4 浅黄橙 内面 Hue10YR7/2に赤い黄橙	φ~3mm長石少量、φ~1mm石英微 量		内外面に露状
405	15	壁六住居62 内柱穴81	窓	口幅15	外面 Hue7.5YR8/3 浅黄橙 内面 Hue7.5YR8/4 浅黄橙	φ~1mm石英微量、長石微量、赤色 酸化程度量、雲母微量		精白な粉土をもつ 外面露状
405	16	壁六住居62 北西 上~中層	窓	断面100	内外面 Hue2.5YR6/8 橙	φ~3mm長石少量、石英少量、チャ ート多量		粉土に砂礫を多く含む
405	17	壁六住居62 北西	窓	口幅90	内外面 Hue10YR8/2 灰白	φ~3mmチャート少量、石英少量、 φ~1mm長石少量、雲母少量		精白な粉土をもつ
405	18	壁六住居62 北西	高杯	口幅60	内外面 Hue5YR7/6 程度	φ~3mmチャート少量、φ~1mm長 石少量、石英微量		受け部外面露状
405	19	壁六住居62 北西	高杯	口幅20	外面 Hue7.5YR7/2 明褐色~ 7.5YR3/1 黒 内面 Hue10YR5/2 灰黄橙	φ~1mm長石微量、石英微量、雲 母微量		受け部外面露状
405	20	壁六住居62 内南西面直 上層	高杯	口幅10	外面 Hue7.5YR7/2 明褐色 内面 Hue7.5YR7/2 明褐色~5YR8/4	φ~1mm長石微量、チャート微量、 石英微量		精白な粉土をもつ
405	21	壁六住居62 北西 上~中層	高杯	口幅部10	外面 Hue10YR7/3に赤い黄橙 内面 Hue10YR7/2に赤い黄橙	φ~1mm石英微量、長石微量		柱部外面露状
405	22	壁六住居62 床面直線部 西	高杯	口幅20	外面 Hue10YR8/3 浅黄橙 内面 Hue7.5YR8/3 浅黄橙	φ~3mm石英少量、φ~1mmチャ ート少量、長石微量		柱部外面
405	23	壁六住居62 北西 上~中層	高杯	断面100	外面 Hue2.5YR7/8 橙 内面 Hue5YR7/8 橙	φ~3mm石英微量、赤色酸化程度量、 φ~1mm長石少量		
405	24	壁六住居62 北西	高杯	断面100	外面 Hue7.5YR8/4 浅黄橙 内面 Hue5YR7/6 橙	φ~1mm石英微量、長石微量、チャ ート微量		
405	25	壁六住居62 北西	高杯	断面部 100 脚柱部100	内外面 Hue7.5YR8/2 灰白~5YR8/4 程度	φ~3mmチャート少量、φ~1mm長 石少量、雲母微量		柱部内面
405	26	壁六住居62 北西 上~中層	高杯	断面部100 断面100	外面 Hue7.5YR8/3 浅黄橙 N3/ 暗灰 内面 Hue7.5YR8/2 灰白	φ~1mm石英微量、長石微量、チャ ート微量		断面外面
405	27	壁六住居62 北東面直 上層	高杯	断面部90	外面 Hue10YR7/3 暗褐~7.5YR6/4 内面 Hue10YR4/1 暗灰	φ~1mm石英微量、長石微量		脚柱部内外面
405	28	壁六住居62 北西	高杯	断面部90	内外面 Hue10YR7/2に赤い黄橙~ 10YR5/1 暗灰	φ~3mm石英少量、φ~1mm長石微 量		精白な粉土をもつ
406	1	落込み180 西半	前窓部 作存	断面50	内外面 HueN6/1 灰	φ~1mm白色粒少量		
406	2	落込み180 西半	前窓部 作存	断面30	外面 HueN7/1 灰 内面 Hue10YR7/1 灰白 内面 Hue10YR7/1 灰白 内面 Hue7.5YR4/3 暗オリーブ 内面 Hue10YR7/1 灰白~ 5YR5/2 暗オリーブ	φ~1mmチャート少量、白色粒少 量		
406	3	落込み180 アゼ	前窓部 大梁	断面20	外面 Hue7.5YR8/3 浅黄橙 内面 Hue2.5YR8/1 灰白~7.5YR8/2 灰	φ~3mm赤色酸化程度少量、チャ ート微量		
406	4	落込み180 アゼ	窓	口幅15	外面 Hue10YR7/2に赤い黄橙 内面 Hue10YR4/1 暗灰	φ~3mm石英微量、長石微量、 φ~1mm長石少量		断面外面
406	5	落込み180 アゼ	底窓部	断面50	外面 Hue10YR7/2に赤い黄橙 内面 Hue10YR4/1 暗灰	φ~3mm石英微量、長石微量、 φ~1mm長石少量、雲母微量		断面外面
406	6	落込み180 東半	高杯	断面部90	内外面 Hue10YR8/4 浅黄橙	φ~3mm石英微量、長石微量、赤色 酸化程度少量		断面外面
406	7	落込み180 東半	高杯	断面部90	内外面 Hue10YR8/3 浅黄橙	φ~3mm石英微量、長石微量、赤色 酸化程度少量		断面外面
406	8	落込み180 東半	高杯	断面部90	外面 Hue10YR8/3 浅黄橙 内面 Hue7.5YR8/3 浅黄橙	φ~3mm石英微量、長石微量、赤色 酸化程度少量		断面外面
407	1	壁六住居291 南東部	鉢 底窓部100	断面部50 断面100	内面 Hue5YR7/4に赤い黄~5YR3/1 暗灰 内面 Hue7.5YR8/4 浅黄橙	φ~1mm長石微量、石英微量、チャ ート微量		断面外面
407	2	壁六住居291 南東部	鉢 底窓部30	断面部30	外面 Hue5YR7/8 橙 内面 Hue2.5YR6/1 暗灰~7.5YR8/6 浅黄橙	φ~4mmチャート多量、φ~3mm石 英微量、長石微量		断面~脚柱下外面露状
407	3	壁六住居291 中央東部 床面	底窓部100	断面部100	外面 Hue7.5YR8/3 浅黄橙~ 5YR7/6 暗灰 内面 Hue7.5YR8/3 浅黄橙~ 7.5YR8/6 浅黄橙	φ~3mmチャート少量、赤色酸化程 度少量		精白な粉土をもつ

図版番号	遺構名	部種	残存率(%)	色調	粘土	黒炭	備考
407 4	竪穴住居291 南東区床面	底部	100	外面 Hue25YR6-8 黄緑～5YR7.6 黄 内面 Hue7.5YR8-6 黄黄緑～5YR7.6 黄	φ～2mmチャート少量、φ～1mm長石微量		
407 5	竪穴住居291 北西区下層	底部	80	外面 Hue10YR8-8 赤黒～2.5YR7.7 黄 内面 Hue7.5YR7.2 灰白～7.5YR7.6 黄	φ～2mmチャート少量、φ～1mm長石微量、赤色酸化程度		粘土に砂粒を多く含む
407 6	竪穴住居291 北西区上層	底部	100	外面 Hue10R6.3 に近い赤黄 内面 Hue10YR8-2 灰白	φ～1mm石英微量、チャート少量、長石微量、赤色酸化程度		底部外面現状
407 7	竪穴住居291 北西区上層	底部	50	内外面 Hue10YR8/4 浅黄緑	φ～2mmチャート少量、φ～2mm長石少量、φ～1mm長石微量		粘土に砂粒を多く含む
407 8	竪穴住居291 南東区床面	高杯 器/灰	口縁85	外面 Hue7.5YR1.1 灰白～N3/ 暗灰 内面 Hue5Y8-1 灰白	φ～2mmチャート微量、φ～1mm長石微量		口縁部外面現状
407 9	竪穴住居291 北西区上層	高杯/器/灰 割柱部	60	外面 Hue5YR7.6 黄～2.5YR7.6 黄 内面 HueN3 暗灰	φ～2mm石英微量、チャート微量、φ～1mm長石微量		割柱部内面全体
408 1	竪穴住居294 南半	器/灰	口縁10	内外面 Hue10YR8/3 浅黄緑～7.5YR8/3 浅黄緑	φ～2mmチャート少量、φ～1mm石英微量、長石微量		口縁端部外面現状
408 2	竪穴住居294 南西区	器/灰	口縁25	外面 Hue5YR7.4 に近い黄 内面 Hue10YR8/4 浅黄緑	φ～2mm石英微量、チャート微量、φ～1mm長石微量、赤色酸化程度		外面現状
408 3	竪穴住居294	甕/鉢	胴部40 底部80	外面 Hue10YR8-2 灰白 内面 Hue2.5YR3-1 黒褐	φ～2mmチャート微量、φ～1mm石英微量、長石微量		胴部、底部外面現状 割柱部内面全体
408 4	竪穴住居294 南半	甕/鉢	口縁10 胴部75	内外面 Hue10YR8/4 浅黄緑	φ～2mmチャート微量、φ～2mm長石微量		外面現状
408 5	竪穴住居294 南西区	甕/鉢	胴部15	内外面 Hue1.5YR6.8 黄	φ～2mm石英微量、チャート微量		
408 6	竪穴住居294 南半	甕/鉢	口縁20	外面 Hue10YR8/3 浅黄緑～2.5YR1.1 灰 内面 Hue10YR8/3 浅黄緑～N3/ 暗灰	φ～1mm石英微量、長石微量		口縁部～胴部内面
408 7	竪穴住居294 南半	鉢	胴部50	内外面 Hue7.5YR8/3 浅黄緑～5YR7.4 に近い黄	φ～2mm石英微量、長石微量、φ～1mm型母微量		精良な粘土をもつ
408 8	竪穴住居294 南半	甕/鉢	口縁5	外面 Hue10YR2.1 黒 内面 Hue7.5YR8/4 浅黄緑	φ～2mm長石少量、石英微量、チャート微量、φ～1mm赤色酸化程度		外面現状
408 9	竪穴住居294 南半	甕/鉢	口縁50	内外面 Hue7.5YR8/3 浅黄緑	φ～2mm石英微量、長石微量、チャート微量、赤色酸化程度		外面現状
408 10	竪穴住居294 北西区	甕/鉢	口縁50 底部50	内外面 Hue7.5YR7.4 に近い黄	φ～2mm石英少量、φ～2mmチャート微量、φ～1mm長石微量、石英微量		胴部外面現状 外面現状 粘土に砂粒を多く含む
408 11	竪穴住居294	甕/鉢	口縁10 底部70	内外面 Hue7.5YR7.6 黄	φ～2mmチャート微量、石英微量、φ～1mm長石微量、型母微量		外面現状
408 12	竪穴住居294	口縁40 底部100	外面 Hue7.5YR8/3 浅黄緑～2.5YR5-2 灰 内面 Hue7.5YR7.4 に近い黄	φ～2mm長石少量、φ～2mm型母少量、φ～1mmチャート		外面現状	
408 13	竪穴住居294 東半	甕/鉢	口縁30	外面 Hue7.5YR8-4 浅黄緑～10YR3.1 黒 内面 Hue7.5YR8/3 浅黄緑～10YR6.1 黒灰	φ～2mm石英少量、長石微量、φ～2mm型母少量、チャート微量、赤色酸化程度		外面現状 粘土に砂粒を多く含む
408 14	竪穴住居294 東半	甕/鉢	口縁80 底部90	外面 Hue5YR5-2 灰黒～10YR8/3 浅黄緑 内面 Hue10YR8/3 浅黄緑～7.5YR4-2 灰	φ～2mm石英少量、チャート微量、赤色酸化程度		外面現状 粘土に砂粒を多く含む
408 15	竪穴住居294	甕/鉢	底部100	外面 Hue5YR5-2 灰黒～10YR8/3 浅黄緑 内面 Hue10YR8/3 浅黄緑～10YR7.2 に近い黄	φ～2mm石英微量、チャート少量、赤色酸化程度少量、φ～1mm長石微量		底部外面現状
408 16	竪穴住居294	甕/鉢	底部100	外面 Hue7.5YR8/3 浅黄緑 内面 Hue5YR5.3 暗灰	φ～2mm赤色酸化程度少量、φ～2mm長石微量		胴部下下面現状 割柱部内面全体
408 17	竪穴住居294	鉢	底部80	外面 Hue5YR7.3 に近い黄 内面 Hue5YR7.4 に近い黄	φ～2mm石英微量、チャート微量、φ～2mm長石微量		外面現状
408 18	竪穴住居294	高杯	杯底30 胴部30	外面 Hue10YR6.3 に近い黄緑～10YR7.1 灰白 内面 Hue10YR7/3 に近い黄	φ～2mm石英微量、φ～2mmチャート微量、φ～1mm型母微量		精良な粘土をもつ
408 19	竪穴住居294	高杯	杯底75 胴部90	内外面 Hue10YR7/3 に近い黄	φ～4mmチャート少量、石英少量、φ～1mm長石少量		精良な粘土をもつ
408 20	竪穴住居294 南半	高杯	杯底部底面75	外面 Hue5YR8-6 黄 内面 Hue2.5YR6-6 黄	φ～1mm石英微量、チャート微量、長石少量、型母微量		粘土に砂粒を多く含む
408 21	竪穴住居294	高杯	胴部底面100	外面 Hue5YR7.4 に近い黄 内面 Hue5YR7.6 黄	φ～2mmチャート微量、φ～1mm石英微量、長石微量、型母微量		粘土に砂粒を多く含む
409 1	竪穴A.328 西半	甕	口縁25	内外面 Hue7.5YR8/3 浅黄緑	φ～2mmチャート微量、φ～1mm長石微量		
409 2	竪穴A.328 下層	甕	口縁90	外面 Hue7.5YR8/3 浅黄緑 内面 Hue7.5YR8-1 灰白～5YR7.6 黄	φ～4mm石英微量、φ～2mm長石少量、φ～1mm赤色酸化程度		精良な粘土をもつ
409 3	竪穴A.328 下層	甕	口縁25	外面 Hue2.5YR6-8 黄 内面 Hue7.5YR8-8 黄	φ～4mm石英微量、φ～2mm長石少量、φ～1mm赤色酸化程度		
409 4	竪穴A.328 下層	甕	口縁50	外面 Hue7.5YR8/3 に近い黄 内面 Hue7.5YR3.1 黒灰 内面 Hue5YR7.6 黄～7.5YR8/1 灰白	φ～2mm石英少量、チャート少量、φ～1mm長石少量		外面現状
409 5	竪穴A.328 下層	甕	口縁40	外面 Hue5YR8-4 浅黄緑 内面 Hue5YR7.6 黄～10YR8/3 浅黄緑	φ～2mmチャート少量、φ～1mm長石微量、赤色酸化程度少量、型母微量		口縁端部内面
409 6	竪穴A.328 下層	甕	胴部～底部100	外面 Hue2.5YR8-6 黄 内面 Hue7.5YR1.1 灰白～10YR7.6 黄	φ～2mm石英少量、長石少量、チャート少量		底部～胴部外面広口 割柱部内面全体
409 7	竪穴A.328 西半	甕	口縁20	内外面 Hue5YR8/4 浅黄緑	φ～2mm長石少量、チャート微量、石英微量、φ～1mm型母微量		粘土に砂粒を多く含む
409 8	竪穴A.328 下層	甕	口縁80	内外面 Hue5YR8-3 浅黄緑	φ～2mm長石少量、石英少量、赤色酸化程度少量、φ～1mm長石微量		粘土に砂粒を多く含む
409 9	竪穴A.328 下層	甕	口縁30	外面 Hue5YR8/3 浅黄緑 内面 Hue5YR8-3 浅黄緑～7.5YR8/3 浅黄緑	φ～2mm石英微量、チャート微量、赤色酸化程度少量、φ～1mm長石微量		精良な粘土をもつ
409 10	竪穴A.328 西半	甕	口縁70	内外面 Hue2.5YR8-2 灰白	φ～2mmチャート微量、石英微量、φ～1mm長石微量、赤色酸化程度		
409 11	竪穴A.328 下層	甕	口縁25	外面 Hue7.5YR8/4 浅黄緑 内面 Hue10YR8-2 灰白	φ～2mmチャート少量、φ～2mm型母少量、長石少量、赤色酸化程度		粘土に砂粒を多く含む
409 12	竪穴A.328 下層	甕	口縁30 胴部90	外面 Hue2.5YR8-2 灰白～2.5YR8/3 黄 内面 Hue5YR8-2 灰白	φ～2mmチャート少量、φ～2mm長石少量、φ～1mm長石微量		口縁～胴部外面現状
409 13	竪穴A.328 下層	甕	口縁90 胴部80 底部100	外面 Hue7.5YR8-1 灰白～7.5YR5-1 灰 内面 Hue7.5YR8-1 灰白～10YR7/1 灰	φ～4mm長石少量、φ～3mm石英少量、φ～2mm型母微量、チャート微量		胴部下下面現状
409 14	竪穴A.328 下層	甕	胴部30	外面 Hue5YR7.4 に近い黄 内面 Hue7.5YR8-1 灰白	φ～2mm長石少量、φ～2mm石英少量、チャート微量、φ～1mm型母微量		外面現状
409 15	竪穴A.328 西半	甕	底部100	外面 Hue2.5YR8-3 黄 内面 Hue10YR8-3 浅黄緑	φ～2mm石英少量、チャート少量、φ～1mm長石少量、型母微量		底部外面現状
409 16	竪穴A.328 下層	甕	底部40	外面 Hue10YR8-1 灰白～10YR8-2 灰白 内面 Hue5YR7.6 黄	φ～2mmチャート微量、φ～1mm石英微量、長石微量、赤色酸化程度		胴部下下面

国産	番号	産地名	器種	焼成率 (焼上げ%)	色調	胎土	加工	備考
4.09	17	落込丸 378 下脚	皿	底部100	内面 Hae10YR8/1灰白色 外面 Hae5YR6/6青	φ-2mm石少量、φ-1mm長石 少量、長石微量、赤鉄微量	表面外面面状、 胴部内面	
4.09	18	落込丸 378 下脚	鉢	底部25	内面 Hae7YR2/1黒色 内面 Hae5Y8/1灰白色	φ-3mmチャート少量、φ-1mm石 少量、長石微量、赤鉄微量	底部一部胴下平外面	
4.09	19	落込丸 378 下脚	鉢	底部15	内面 Hae10YR8/1灰白-10YR5/2 内面 Hae10YR8/2灰白	φ-2mmチャート少量、φ-1mm石 少量、長石微量、赤鉄微量		胎土に赤鉄を多く含む 胴部下平外面面状付
4.09	20	落込丸 378 下脚百子	手箱	細片	内外面 Hae5YR8/1灰白	φ-2mmチャート少量、φ-2mm石 少量、φ-1mm赤色酸化鉄少量		胎土に赤鉄を多く含む
4.09	21	落込丸 378 下脚	手箱	細片	内外面 Hae10YR8/2灰白	φ-1mm長石少量、赤鉄微量		精白胎土をもつ 内外面面状付
4.10	1	落込丸 378 下脚	羹	口縁20	内外面 Hae10YR8/3浅黄緑	φ-2mmチャート少量、φ-1mm石 少量、長石微量、赤色酸化鉄少量、 赤鉄微量		
4.10	2	落込丸 378 西平	羹	口縁25	内外面 Hae75YR8/4浅黄緑	φ-3mmチャート少量、φ-1mm石 少量		精白胎土をもつ
4.10	3	落込丸 378 下脚	羹	口縁20	内面 Hae10YR6/8黄緑 外面 Hae5YR6/6青	φ-2mmチャート少量、φ-1mm石 少量、長石微量、赤鉄微量		
4.10	4	落込丸 378 下脚	羹	口縁15	内面 Hae10YR3/1黒色 内面 Hae10YR7/3にぶい黄緑	φ-2mm石少量、チャート少量、 φ-1mm長石少量赤鉄微量	口縁部内外面、胴部 外面	
4.10	5	落込丸 378 西平	羹	底部15	内面 Hae10YR8/3浅黄緑 外面 Hae25Y7/1灰白-25YR8/1灰白	φ-2mmチャート少量、φ-1mm長石 少量、赤色酸化鉄少量		胎土に赤鉄を多く含む 外面面状付
4.10	6	落込丸 378 下脚	羹	口縁10	内面 Hae75YR3/1黒色-75YR6/3 にぶい黄 外面 Hae10YR8/2灰白 内面 Hae10YR8/2灰白、10YR6/2 灰黒-3YR6/6青	φ-2mm石少量、φ-1mmチャート 少量、長石微量、赤鉄微量		胎土に赤鉄を多く含む 外面面状付
4.10	7	落込丸 378 西平	羹	口縁20	内面 Hae10YR8/2灰白 内面 Hae25Y8/1灰白	φ-2mm赤色酸化鉄少量、チャート 少量、φ-1mm長石少量		
4.10	8	落込丸 378 アセ七平	羹	口縁15	内面 Hae5YR7/6青-75YR8/4浅黄緑 外面 Hae5YR7/6青	φ-2mmチャート少量、φ-2mm赤 色酸化鉄少量、石少量、長石微量		胎土に赤鉄を多く含む
4.10	9	落込丸 378 下脚	羹	口縁10	内面 Hae10YR8/1灰白-75YR8/4 浅黄緑 外面 Hae10YR8/1灰白	φ-2mmチャート少量、φ-2mm石 少量、赤色酸化鉄少量	口縁底部	胎土に赤鉄を多く含む
4.10	10	落込丸 378 下脚	羹	口縁15	内面 Hae75YR8/4浅黄緑 外面 Hae10YR8/1灰白	φ-2mm石少量、φ-1mm長石少 量、赤色酸化鉄少量、赤鉄微量		
4.10	11	落込丸 378 西平	羹	口縁5	内面 Hae75YR7/8黄緑 外面 Hae10YR8/4浅黄緑	φ-2mmチャート少量、φ-2mm赤 色酸化鉄少量、φ-2mm長石少量		胎土に赤鉄を多く含む
4.10	12	落込丸 378 下脚	羹	口縁30	内面 Hae5YR7/8青-10YR8/6黄緑 外面 Hae5YR6/6青	φ-2mmチャート少量、φ-2mm石 少量、長石微量	口縁部内面状	胎土に赤鉄を多く含む
4.10	13	落込丸 378 下脚	羹	口縁30	内外面 Hae5YR7/6青	φ-4mmチャート少量、φ-2mm石少 量、赤色酸化鉄少量、φ-1mm長石少量	胴部外面面状 胴部内面全体	胎土に赤鉄を多く含む
4.10	14	落込丸 378 下脚	羹	胴部50 底部100	内外面 Hae5YR7/6青	φ-2mmチャート少量、φ-1mm石 少量、長石微量	胴部内面状	外面面状付
4.10	15	落込丸 378 下脚	羹	口縁30	内外面 Hae75YR8/4浅黄緑	φ-2mm石少量、チャート少量、 φ-1mm赤色酸化鉄少量、長石微量		
4.10	16	落込丸 378 下脚	羹	胴部50	内面 Hae5YR7/6青-5YR4/2灰黒 外面 Hae25YR6/6青-N2/灰黒	φ-2mm石少量、φ-1mm長石少 量、赤鉄微量	胴部内面状	精白胎土をもつ 外面面状付
4.10	17	落込丸 378 西平新製北	鉢	口縁20	内面 Hae25Y3/1黄灰 外面 Hae75Y6/1黒白	φ-2mmチャート少量、φ-1mm石 少量、長石微量		
4.10	18	落込丸 378 下脚	鉢	口縁10 胴部100	内外面 Hae75YR8/3浅黄緑	φ-2mmチャート少量、チャート少量、 φ-1mm長石少量、赤鉄微量	胴部下平内面	胎土に赤鉄を多く含む 胴部下平外面面状付
4.10	19	落込丸 378 下脚	鉢	口縁50 胴部60 底部100	内面 Hae75YR8/4浅黄緑-25YR2/1 灰白 外面 Hae8/5浅黄緑-N7/灰 内面 Hae25Y7/3黄緑-25Y2/1黒 外面 Hae10YR1/1黒色-10YR5/2 灰黒 内面 Hae10YR8/1灰白-10YR5/2 灰黒 外面 Hae5Y7/1灰白-5YR8/1灰白	φ-2mmチャート少量、φ-2mm石 少量、φ-1mm長石少量	胴部外面、口縁部内 面	外面面状付
4.10	20	落込丸 378 下脚	羹	口縁5 底部100	内面 Hae10YR8/1灰白-10YR5/2 灰黒 外面 Hae5Y7/1灰白-5YR8/1灰白	φ-2mmチャート少量、φ-2mm石 少量、長石微量、赤色酸化鉄少量	胴部外面 胴部内面全体	
4.10	22	落込丸 378 下脚	羹	底部100	内面 Hae75YR8/2灰白-75YR8/1 灰白、N4/灰 外面 HaeN4/灰-N6/灰、25YR/1 灰白	φ-4mmチャート少量、φ-2mm赤 色酸化鉄少量、φ-1mm長石少量、 赤鉄少量	胴部外面面状	
4.10	23	落込丸 378 下脚	羹	口縁25	内面 Hae25YR6/6青-25YR3/1黒 色 外面 10YR6/6青	φ-2mmチャート少量、φ-2mm石 少量、φ-1mm長石少量		外面面状付
4.10	24	落込丸 378 下脚	羹	口縁25 胴部40	内面 Hae25YR7/6青 外面 HaeN4/灰	φ-2mm石少量、チャート少量、 φ-1mm長石少量、赤色酸化鉄少量	口縁部内面状 胴部内面全体	外面面状付
4.11	1	落込丸 378 下脚	皿/鉢	口縁25	内面 Hae25YR8/2灰白 外面 Hae25YR7/3灰白	φ-1mm長石少量、石少量		
4.11	2	落込丸 378 下脚	皿/鉢	口縁30	内面 Hae10YR8/3浅黄緑 外面 Hae10YR7/1灰白-10YR8/3浅黄緑	φ-4mmチャート少量、φ-2mm赤 色酸化鉄少量	胴部外面面状	胎土に赤鉄を多く含む
4.11	3	落込丸 378 下脚	皿/羹	口縁25	内外面 Hae75YR8/2灰白	φ-2mm石少量、φ-2mmチャート 少量、φ-1mm赤鉄少量	口縁部外面	
4.11	4	落込丸 378 西平	皿	口縁10	内外面 Hae25YR7/6青	φ-2mm石少量、φ-2mmチャート 少量、φ-1mm長石少量、赤鉄微量		
4.11	5	落込丸 378 下脚	皿	口縁25	内面 Hae10YR8/4浅黄緑 内面 Hae10YR6/8黄緑 外面 Hae25YR1/1黒色 外面 Hae10YR8/2灰白	φ-2mm石少量、赤色酸化鉄少量、 チャート少量、φ-1mm長石少量、 φ-1mm長石少量	胴部内面全体	外面面状付
4.11	6	落込丸 378 西平	皿/鉢	細片	内面 Hae25YR1/1黒色 外面 Hae10YR8/2灰白	φ-2mm石少量、チャート少量、 φ-1mm長石少量		胎土に赤鉄を多く含む
4.11	7	落込丸 378 下脚	羹	細片	内面 Hae25YR7/3赤黄緑 外面 Hae25YR6/1黒灰	φ-2mm赤色酸化鉄少量、チャート 少量、石少量	胴部内面全体	胎土に赤鉄を多く含む 外面面状付
4.11	8	落込丸 378 西平	羹	口縁30	内外面 Hae10YR8/2灰白-10YR8/3 浅黄緑	φ-2mm石少量、φ-2mmチャート少 量、φ-1mm赤色酸化鉄少量		胎土に赤鉄を多く含む 外面面状付
4.11	9	落込丸 378 下脚	皿/鉢	口縁20	内面 Hae25YR8/1灰白-10YR8/1 灰白色 外面 Hae10YR8/2灰白	φ-2mmチャート少量、赤色酸化鉄 少量、φ-1mm長石少量		胎土に赤鉄を多く含む
4.11	10	落込丸 378 下脚	羹	口縁25	内面 Hae25YR7/6青 外面 Hae25YR7/4にぶい黄	φ-4mmチャート少量、φ-2mm石 少量、赤色酸化鉄少量、φ-1mm 長石少量		外面面状付
4.11	11	落込丸 378 下脚	羹	口縁10 胴部25	内面 Hae75YR8/3浅黄緑- Hae75YR7/1明灰 内面 Hae10YR8/1灰白	φ-2mmチャート少量、φ-2mm石 少量、φ-1mm赤色酸化鉄少量、 赤鉄微量		
4.11	12	落込丸 378 下脚	羹	口縁10 胴部25	内面 Hae5YR8/3黄緑-5YR5/2灰黒 外面 Hae5YR3/3赤	φ-2mm石少量、チャート少量、 φ-1mm長石少量、赤鉄微量		外面面状付
4.11	13	落込丸 378 下脚	羹	口縁20 胴部25	内面 Hae5YR8/4黄緑-5YR5/1黒 灰 外面 Hae25YR7/3明灰 外面 Hae75YR8/4浅黄緑- 75YR3/1黒 外面 Hae75YR8/4浅黄緑- 75YR3/1黒	φ-2mm石少量、チャート少量、 φ-1mm長石少量、赤鉄微量	胴部内面全体	胎土に赤鉄を多く含む 外面面状付
4.11	14	落込丸 378 下脚	羹	口縁15	内面 Hae75YR8/3浅黄緑- 10YR3/1黒灰	φ-4mmチャート少量、φ-2mm赤 色酸化鉄少量、φ-1mm長石少量		胎土に赤鉄を多く含む 外面面状付
4.11	15	落込丸 378 下脚	皿/鉢	口縁15	内面 Hae10YR8/3浅黄緑、10YR7/1灰白 内面 Hae25Y7/1灰白	φ-2mm石少量、長石少量、チャート 少量	胴部外面面状 胴部内面全体	
4.11	16	落込丸 378 西平	羹	口縁10	内面 Hae10YR8/3浅黄緑-10YR8/2灰白 内面 Hae10YR8/3浅黄緑	φ-2mmチャート少量、φ-2mm石 少量	胴部内面面状	
4.11	17	落込丸 378 下脚	羹	口縁15	内外面 Hae10YR8/2浅黄緑	φ-4mm石少量、φ-1mm長石少 量、赤鉄微量	口縁部外面面状 胴部内面全体	

国産番号	通称名	部種	残存率(律:%)	色調	粘土	部種	備考
4.11.18	落込丸328下層	葉	口縁20	外底 Hae5YR6.1黄灰～5YR8.4淡緑 内底 Hae5YR6.1黄灰	φ-1mm石英微量、長石微量、赤母微量	胴部内面全体	内外面備付着
4.11.19	落込丸328下層	葉	口縁40	内外面 Hae5YR6.8橙	φ-2mmチャート少量、φ-1mm石英少量、長石微量、赤母微量		内外面備付着
4.11.20	落込丸328下層	葉	口縁50	内外面 Hae7YR8.2灰白	φ-2mmチャート少量、φ-1mm石英少量、赤母微量、赤色酸化粒微量		粘土に砂粒を多く含む
4.11.21	落込丸328下層	葉・鉢	口縁100	外面 Hae2.5YR7.6橙～2.5YR8.1灰白 内底 Hae2.5YR7.6橙～10YR8.1灰白	φ-1mmチャート少量、φ-2mm石英少量、赤母微量、赤色酸化粒微量、φ-1mm長石微量		粘土に砂粒を多く含む
4.11.22	落込丸328下層	葉	口縁40	外面 Hae5YR7.6橙～5YR8.3淡緑 内底 Hae7YR8.2灰白～2.5YR7.4淡黄	φ-2mm石英微量、チャート微量、φ-1mm長石微量、赤色酸化粒微量		
4.11.23	落込丸328西平	葉	胴縁10	外面 Hae7.5YR8.2淡黄～5YR7.4に、赤い 内底 Hae5YR6.4に、赤い赤褐色	φ-2mmチャート少量、φ-1mm石英少量、長石少量、赤母微量		外面備付着
4.11.24	落込丸328下層	口縁20	内外面 Hae7.5YR8.3淡黄橙	φ-1mm石英少量、チャート微量、φ-1mm長石微量		外面備付着	
4.11.25	落込丸328下層	葉・鉢	口縁25	外面 Hae5YR8.4淡黄 内底 Hae7.5YR8.3淡黄橙	φ-2mmチャート微量、φ-2mm石英微量、赤色酸化粒微量		
4.11.26	落込丸328下層	葉	口縁25	外面 Hae5YR8.6橙赤～5YR2.1黒黄赤 内底 Hae5YR7.6橙赤～5YR5.3に、赤い赤褐色	φ-2mmチャート微量、φ-2mm石英微量、長石微量、赤色酸化粒微量		内外面備付着
4.11.27	落込丸328下層	葉・鉢	口縁30	外面 Hae10YR8.4淡黄橙～2.5YR6.6橙 内底 Hae10YR8.3淡黄橙～2.5YR6.6橙	φ-1mm石英微量、φ-1mm長石微量、赤色酸化粒微量、赤母微量		内外面備付着
4.11.28	落込丸328下層	葉・鉢	口縁25	外面 Hae7.5YR8.2灰白～7.5YR2.2灰黒 内底 Hae5YR8.2灰白～7.5YR4.2灰黒、7.5YR7.1明黄緑	φ-2mm石英微量、チャート微量、φ-1mm長石微量、赤母微量		外面備付着
4.11.29	落込丸328西平	葉	口縁30	内外面 Hae10YR8.2灰白～7.5YR6.2	φ-2mmチャート微量、φ-2mm石英少量、φ-1mm長石微量		粘土に砂粒を多く含む
4.11.30	落込丸328下層	葉	口縁15	外面 Hae2.5YR6.8橙 内底 Hae2.5YR7.6橙	φ-2mm石英少量、チャート少量、φ-1mm長石微量、赤母微量		内外面備付着
4.11.31	落込丸328下層	葉	胴部50	外面 Hae7.5YR6.4に、赤い橙～2.5YR8.2灰白 内底 Hae10YR7.3に、赤い黄橙	φ-1mm石英少量、φ-2mm石英少量、φ-1mm長石微量		
4.12.1	落込丸328下層	鉢	底部100	内外面 Hae10YR8.1灰白	φ-2mm石英微量、チャート微量	胴部外周、口縁内面	粘土に砂土をもつ
4.12.2	落込丸328西平	鉢	胴片	内外面 Hae7.5YR8.2灰白	φ-2mmチャート微量、φ-1mm石英少量、長石微量	胴部内面全体	粘土に砂粒を多く含む 外面備付着
4.12.3	落込丸328下層	鉢	口縁25	外面 Hae2.5YR8.3淡黄～5.2暗灰黄 内底 Hae2.5YR8.2灰白～6.2灰黄	φ-2mmチャート微量、φ-1mm石英微量、赤母微量		外面備付着
4.12.4	落込丸328下層	鉢	口縁15	外面 Hae5YR7.4に、赤い橙	φ-2mmチャート少量、φ-2mm石英少量、赤色酸化粒微量		粘土に砂粒を多く含む
4.12.5	落込丸328下層	鉢	口縁30	内外面 Hae2.5YR8.1灰白	φ-1mm赤色酸化粒微量、φ-2mmチャート微量、φ-1mm長石微量	口縁～胴部外面段状	
4.12.6	落込丸328西平	鉢	口縁5	外面 Hae7.5YR8.1灰白～5YR7.4に、赤い橙 内底 Hae7.5YR8.1灰白	φ-2mmチャート少量、φ-2mm石英微量、赤色酸化粒微量	口縁部	胴部外面段状
4.12.7	落込丸328下層	鉢	胴部15	内外面 Hae7.5YR8.4淡黄橙	φ-5mm赤色酸化粒微量、φ-3mm石英少量、チャート微量、φ-1mm長石微量	口縁～胴部外面段状	
4.12.8	落込丸328下層	鉢	胴部10	内外面 Hae7.5YR8.4淡黄橙	φ-2mmチャート微量、φ-1mm石英微量、長石微量		外面備付着
4.12.9	落込丸328下層	鉢	口縁10	内外面 Hae10YR8.2淡黄橙	φ-2mmチャート少量、赤色酸化粒微量		粘土に砂粒を多く含む
4.12.10	落込丸328下層	葉・口縁鉢	口縁25	外面 Hae5YR8.4淡黄 内底 Hae5YR8.3淡黄	φ-2mmチャート少量、赤色酸化粒微量	口縁部内外面	粘土に砂土をもつ
4.12.11	落込丸328下層	鉢	口縁15	外面 Hae7.5YR8.3淡黄橙～10YR7.1灰白 内底 Hae7.5YR8.3淡黄橙～10YR8.1灰白	φ-3mm石英少量、φ-2mm長石微量、赤母微量	底部～胴部外面	
4.12.12	落込丸328下層	鉢	口縁25	外面 Hae10YR8.2灰白 内底 Hae10YR8.2灰白～10YR7.2に、赤い黄橙	φ-2mmチャート少量、φ-1mm石英微量	胴部外面	外面備付着
4.12.13	落込丸328下層	口縁鉢	胴部95	外面 Hae10YR8.1灰白～10YR5.1暗灰 内底 Hae10YR6.2灰白～10YR6.1暗灰	φ-4mmチャート少量、φ-3mm長石微量、φ-2mm石英少量	内外面段状	
4.12.14	落込丸328下層	底部100	内外面 Hae7.5YR8.2灰黄	φ-2mm長石少量、赤母微量	内外面		胴部片もあるが、底部に砂粒を多く含む
4.12.15	落込丸328西平	底部100	内外面 Hae5YR8.4淡黄～10YR8.1灰白	φ-2mm石英微量、チャート少量、φ-1mm長石微量			
4.12.16	落込丸328西平	底部100	外面 Hae7.5YR7.6橙 内底 Hae7.5YR3.1黒	φ-2mmチャート少量、φ-1mm長石微量	底部外面、内面		
4.12.17	落込丸328西平	底部100	内外面 Hae7.5YR8.2灰白	φ-2mmチャート微量、長石微量、赤母微量、φ-1mm長石微量	底部外面、内面		
4.12.18	落込丸328西平	底部100	外面 Hae5YR4.1暗灰 内底 Hae5YR3.1暗灰	φ-2mm長石微量、φ-1mm長石微量、チャート少量、赤母少量	底部外面		
4.12.19	落込丸328西平	底部100	外面 Hae10YR8.3淡黄橙～10YR8.1灰白 内底 Hae2.5YR8.2灰白	φ-2mmチャート少量、φ-1mm長石微量、φ-1mm石英少量	胴部外面		
4.12.20	落込丸328下層	底部100	外面 Hae10YR5.6赤～10R4.1暗赤灰 内底 Hae5YR7.4に、赤い橙～5YR5.1灰黄	φ-2mm長石微量、チャート微量、石英微量、φ-1mm赤母少量		外面備付着	
4.12.21	落込丸328西平	底部100	内外面 Hae7.5YR3.1黒	φ-2mm石英少量、チャート微量		外面備付着	
4.12.22	落込丸328西平	底部100	外面 Hae10YR8.2灰白 内底 Hae10YR8.2灰白	φ-2mm長石微量、石英少量、φ-1mm赤母微量	内面		
4.12.23	落込丸328西平	底部100	外面 Hae7.5YR8.4淡黄橙～10YR7.1灰白 内底 Hae7.5YR8.3淡黄橙～2.5YR6.1暗灰	φ-2mmチャート少量、φ-2mm長石多量、φ-1mm赤母少量		外面備付着	
4.12.24	落込丸328下層	底部90	外面 Hae5YR7.6橙～5YR8.4淡黄 内底 Hae2.5YR8.2灰白	φ-2mmチャート少量、φ-1mm長石微量			
4.12.25	落込丸328下層	底部100	内外面 Hae7.5YR8.3淡黄橙	φ-4mm赤色酸化粒少量、φ-2mmチャート少量	胴部下外面		
4.12.26	落込丸328下層	底部90	内外面 Hae10YR8.4淡黄橙	φ-4mmチャート少量、赤色酸化粒微量、φ-1mm長石微量		外面備付着	
4.12.27	落込丸328下層	底部100	外面 Hae5YR7.4に、赤い黄赤～2.5YR8.2灰白 内底 Hae5Y5.1灰赤～2.5YR6.1黄灰	φ-2mm石英微量、チャート微量、φ-1mm長石多量	底部～胴部下外面		
4.12.28	落込丸328下層	底部100	外面 Hae2.5YR8.2灰白赤～2.5Y6.1灰赤 内底 Hae10YR6.2灰黄褐色	φ-2mmチャート微量、φ-1mm長石微量、長石微量、赤母微量	胴部下外面		
4.12.29	落込丸328下層	底部100	内外面 Hae10YR8.2淡黄橙	φ-8mm赤色酸化粒少量、φ-5mmチャート少量、φ-1mm長石微量	内面	外面備付着	
4.12.30	落込丸328西平	底部70	外面 Hae2.5YR8.2灰白 内底 Hae10YR8.2灰白	φ-2mm長石多量、チャート少量、φ-1mm赤母微量		内外面備付着	
4.12.31	落込丸328西平	底部70	外面 Hae7.5YR8.3淡黄橙～10YR6.1暗灰 内底 Hae10YR8.1灰白～10YR8.3淡黄橙	φ-2mmチャート微量、φ-1mm長石微量	底部～胴部下外面		

国産	番号	産地名	部種	現存率 (%以上)	色調	胎土	原厚	備考
4.12	32	落込丸 378 下層	底部 90		外周 Hue5YR8/4 淡黄 内周 Hue7.5YR8/4 浅黄青	φ<3mm ナット少量、φ<1mm 長石微量		底部-胴部下半外面
4.12	33	落込丸 378 下層	底部 40		外周 Hue7.5YR7/1 に近い褐色 7.5YR5/2 黄褐色 内周 Hue7.5YR5/1 暗褐色	φ<3mm ナット少量、φ<1mm 長石少量		底部外面
4.12	34	落込丸 378 下層	底部 90		外周 Hue5YR7/4 に近い褐色 7.5YR8/4 浅黄青 内周 Hue10YR7/1 灰白色	φ<1mm ナット少量、φ<1mm 赤色酸化粒少量、長石微量		底部外面
4.12	35	落込丸 378 西半	底部 100		外周 Hue2.5YR7/1 ~ 8/1 灰白 内周 Hue10YR8/2 灰白	φ<2mm 石質少量、φ<1mm 長石少量、赤鉄微量		胴部下外面、内面
4.12	36	落込丸 378 西半	底部 100		外周 Hue5YR7/4 に近い黄 内周 Hue10YR8/3 浅黄青	φ<1mm 長石微量、石質少量、ナット少量、赤鉄微量		胴部下外面
4.12	37	落込丸 378 西半	底部 50		外周 Hue2.5YR6/6 橙 内周 Hue5YR7/6 橙	φ<1mm 長石微量、ナット少量、赤鉄微量		胴部下外面
4.12	38	落込丸 378 西半	底部 30		外周 Hue2.5YR7/6 橙 内周 Hue2.5YR7/6 橙	φ<1mm 長石微量、ナット少量、石質微量、赤鉄微量		底部内面
4.12	39	落込丸 378 西半	底部 100		外周 Hue2.5YR2/1 赤黒 内周 Hue10YR6/6 赤黄	φ<2mm ナット少量、φ<1mm 長石少量、赤鉄微量		外面保存有
4.12	40	落込丸 378 西半	底部 100		外周 Hue10YR8/2 灰白 内周 Hue8N/4 灰	φ<3mm ナット少量、φ<3mm 石質少量、φ<1mm 長石微量		底部外面、内面
4.12	41	落込丸 378 下層	底部 100		外周 Hue5YR8/4 浅黄青 内周 Hue10YR8/2 灰白	φ<3mm ナット少量、φ<2mm 石質少量、φ<1mm 長石少量		底部-胴部下外面
4.12	42	落込丸 378 西半野面より	有孔鉢 底部 100		外周 Hue10YR8/2 灰白 内周 Hue7.5YR7/3 に近い黄	φ<2mm ナット少量、石質微量、φ<1mm 長石微量、赤鉄微量		胴部下外面
4.12	43	落込丸 378 下層	有孔鉢 底部 100		内外周 Hue10YR8/3 浅黄青 10YR8/2 灰白	φ<3mm 赤色酸化粒少量、φ<2mm 長石微量、石質微量		胴部下外面隆状
4.12	44	落込丸 378 下層	有孔鉢 底部 75		外周 Hue2.5YR7/6 橙 内周 Hue2.5YR8/3 浅黄青	φ<3mm 石質少量、φ<2mm 長石微量、φ<1mm ナット少量		胎土に砂礫を多く含む
4.12	45	落込丸 378 下層	有孔鉢 底部 100		外周 Hue10YR8/2 灰白 内周 Hue2.5YR7/2 黄	φ<3mm ナット少量、赤色酸化粒少量、石質微量		胎土に砂礫を多く含む
4.12	46	落込丸 378 西半	有孔鉢 底部 80		内外周 Hue10YR8/1 灰白 7.5YR7/4 浅黄青	φ<1mm 長石少量、石質微量、ナット少量、赤鉄微量		胴部下外面
4.12	47	落込丸 378 西半	有孔鉢 底部 90		外周 Hue5YR8/3 浅黄青 7.5YR7/1 黄	φ<1mm 長石微量、ナット少量、赤鉄微量		胴部下外面
4.12	48	落込丸 378 西半	有孔鉢 底部 70		外周 Hue7.5YR8/4 浅黄青 内周 Hue5YR7/4 に近い黄	φ<2mm 石質少量、φ<1mm 長石微量、φ<1mm 赤色酸化粒少量、赤鉄微量		底部外面
4.12	49	落込丸 378 西半	有孔鉢 底部 100		内外周 Hue7.5YR8/1 ~ 8/2 灰白 内周 Hue7.5YR8/3 浅黄青	φ<2mm ナット少量、石質微量、長石微量、赤鉄微量		底部外面
4.12	50	落込丸 378 西半	有孔鉢 底部 50		外周 Hue7.5YR8/4 浅黄青 内周 Hue5YR7/6 橙	φ<3mm ナット少量、赤色酸化粒少量、φ<1mm 石質微量、長石微量		胎土に砂礫を多く含む
4.12	51	落込丸 378 下層	有孔鉢 底部 100		外周 Hue7.5YR8/4 浅黄青 内周 Hue5YR7/6 橙	φ<3mm ナット少量、赤色酸化粒少量、φ<1mm 石質微量、長石微量		胎土に砂礫を多く含む
4.12	52	落込丸 378 下層	有孔鉢 底部 100		外周 Hue5YR8/4 淡黄 内周 Hue2.5YR7/6 橙	φ<2mm 長石少量、φ<3mm ナット少量、φ<1mm 赤色酸化粒少量		底部-胴部下外面
4.12	53	落込丸 378 下層	有孔鉢 底部 100		外周 Hue10YR8/2 灰白 内周 Hue10YR8/2 灰白	φ<2mm ナット少量、φ<1mm 石質微量、長石微量		底部-胴部下外面
4.12	54	落込丸 378 下層	有孔鉢 底部 100		外周 Hue10YR8/3 内周 Hue10YR8/2 灰白	φ<2mm 赤色酸化粒少量、φ<1mm 石質微量、長石微量		胴部下外面隆状、胴部下内面
4.13	1	落込丸 378 西半	野台 口縁 10		内外周 Hue7.5YR8/2 灰白	φ<1mm ナット少量、赤色酸化粒少量		腹直な胎土をもつ
4.13	2	落込丸 378 西半	野台 口縁 30		外周 Hue7.5YR7/4 に近い黄 内周 Hue7.5YR7/6 橙	φ<2mm 石質微量、ナット少量、φ<1mm 長石微量、赤色酸化粒少量		
4.13	3	落込丸 378 下層	野台 口縁 5 以下		内外周 Hue7.5YR8/6 浅黄青	φ<1mm 長石微量、ナット少量、赤鉄微量		
4.13	4	落込丸 378 下層	野台 口縁 5 以下		内外周 Hue2.5YR7/2 黄	φ<3mm ナット少量、赤色酸化粒少量、φ<1mm 石質微量		
4.13	5	落込丸 378 西半	野台 野柱部 100		外周 Hue5YR8/4 淡黄 内周 Hue10YR8/1 灰白	φ<2mm 石質少量、赤色酸化粒少量、ナット少量		野柱部-胴部外面
4.13	6	落込丸 378 下層	野台 口縁 10		外周 Hue5YR8/4 淡黄 内周 Hue7.5YR8/2 浅黄青	φ<1mm 長石少量、赤色酸化粒少量、ナット少量		
4.13	7	落込丸 378 下層	小笠野台 受け部 100		外周 Hue10YR8/1 内周 Hue10YR8/1 灰白	φ<2mm 石質微量、ナット少量、φ<1mm 長石微量、赤鉄微量		
4.13	8	落込丸 378 下層	高杯 杯脚組合部 100		内外周 Hue10YR8/3 浅黄青 10YR8/1 灰白	φ<2mm ナット少量、φ<2mm 石質少量、φ<1mm 長石少量、赤鉄微量		杯部内外面
4.13	9	落込丸 378 下層	高杯 口縁 10		外周 Hue5YR8/4 淡黄 内周 Hue5YR8/4 淡黄	φ<2mm 長石微量、石質微量、ナット少量、赤鉄微量		杯部外面
4.13	10	落込丸 378 下層	小笠野台 口縁 70		内外周 Hue2.5YR8/4 淡黄	φ<1mm 石質微量、長石少量、赤色酸化粒少量		口縁隆部
4.13	11	落込丸 378 下層	小笠野台 底部 90		内外周 Hue5YR8/6 橙 10YR8/2 灰白	φ<2mm ナット少量、石質微量、赤色酸化粒少量、長石微量		胎土に砂礫を多く含む
4.13	12	落込丸 378 下層	小笠野台 口縁 10 程度 50		外周 Hue2.5YR7/6 橙 内周 Hue2.5YR7/6 橙	φ<2mm 石質微量、φ<1mm 長石微量、赤色酸化粒少量、赤鉄微量		口縁隆部
4.13	13	落込丸 378 下層	野台 口縁 25 程度 10		内外周 Hue5YR8/3 淡黄	φ<2mm 石質少量、ナット少量、φ<1mm 長石少量、赤色酸化粒少量		口縁隆部
4.13	14	落込丸 378 下層	野台 口縁 10 程度 50		内外周 Hue5YR8/4 浅黄青 2.5YR7/6 橙	φ<2mm 石質少量、赤色酸化粒少量、φ<1mm 長石少量		
4.13	15	落込丸 378 下層	野台 口縁 20		内外周 Hue10YR8/4 に近い赤黄	φ<3mm ナット少量、φ<1mm 石質微量、長石微量		受け部内面
4.13	16	落込丸 378 西半	高杯 口縁 10		内外周 Hue10YR8/2 灰白	φ<2mm 石質少量、ナット少量、φ<1mm 長石微量、赤鉄微量		
4.14	1	落込丸 378 下層	野台 野柱部 100		内外周 Hue7.5YR8/1 灰白	φ<1mm 石質微量、ナット少量		野柱部に凹孔あり
4.14	2	落込丸 378 下層	野台 野柱部 100		内外周 Hue7.5YR8/2 灰白	φ<2mm 石質少量、φ<1mm ナット少量、赤色酸化粒少量、赤鉄微量		野柱部内面
4.14	3	落込丸 378 西半	野台 野柱部 100		内外周 Hue10YR8/2 灰白	φ<4mm ナット少量、φ<2mm 石質少量、φ<1mm 赤色酸化粒少量		胎土に砂礫を多く含む
4.14	4	落込丸 378 西半	野台 野柱部 100		外周 Hue2.5YR6/6 橙 内周 Hue2.5YR5/8 赤黄	φ<1mm 長石微量		
4.14	5	落込丸 378 西半	野台 野柱部 100		内周 Hue5YR8/4 淡黄 外周 Hue5YR7/4 に近い黄	φ<1mm 長石少量、赤色酸化粒少量、ナット少量、赤鉄微量		
4.14	6	落込丸 378 西半	野台 野柱部 50		外周 Hue7.5YR8/3 浅黄青 2.5YR7/1 灰	φ<1mm 石質微量、長石微量、ナット少量		
4.14	7	落込丸 378 西半	野台 野柱部 100		内外周 Hue7.5YR8/2 灰白	φ<3mm ナット少量、石質少量、φ<1mm 長石微量		腹直な胎土をもつ
4.14	8	落込丸 378 西半	野台 野柱部 100		外周 Hue2.5YR8/8 赤 内周 Hue7.5YR8/2 灰白	φ<1mm 石質少量、長石少量、赤鉄微量		
4.14	9	落込丸 378 西半	野台 野柱部 100		内外周 Hue7.5YR7/6 橙	φ<2mm ナット少量、φ<1mm 石質微量、長石微量		

国産	番号	産地名	部材	残存率 (注 8)	色調	胎土	黒灰	備考
4.14	10	高込丸328 西平	舞台	舞柱部90	外面 Hae5YR7.8橙～7.5YR8.4浅黄緑 内面 Hae2.5YR6.8橙	φ～2mm石英微量、φ～1mm長石微量		
4.14	11	高込丸328 下層	舞台	舞柱部100	内外面 Hae7.5YR7.3にぶい橙	φ～2mm石英微量、チャート少量、 φ～1mm着色片状微量、長石微量		
4.14	12	高込丸328 西平	舞台	舞柱部80	外面 Hae5YR8.2灰白 内面 Hae5YR6.4にぶい橙	φ～2mm石英微量、チャート微量、 赤色酸化鉄少量		精白な粒土をもつ
4.14	13	高込丸328 西平	舞台	舞柱部100	外面 Hae5YR7.6橙 内面 Hae5YR7.6橙	φ～1mm石英微量、長石微量、チャート少量		
4.14	14	高込丸328 西平	小型 舞台	彫座25	外面 Hae7.5YR8.4にぶい橙～7.5YR8.1灰白 内面 Hae7.5YR8.1灰白～5YR8.4浅橙	φ～2mm石英少量、φ～1mmチャート微量、長石微量、赤母微量		
4.14	15	高込丸328 下層	高枳	彫座20	外面 Hae7.5YR8.2灰白～7.5YR7.4にぶい橙 内面 Hae7.5YR8.3浅黄緑	φ～2mm石英少量、φ～1mmチャート微量、長石微量		
4.14	16	高込丸328 下層	高枳	彫座60	外面 Hae2.5YR7.6橙～10YR8.2灰白 内面 Hae7.5YR8.2灰白	φ～2mmチャート微量、石英微量、 φ～1mm長石少量、赤色酸化鉄微量		
4.14	17	高込丸328 下層	高枳	彫座60	内外面 Hae10YR8.2灰白	φ～2mm石英少量、チャート微量、 φ～1mm長石微量		
4.14	18	高込丸328 下層	舞台	舞柱部100 彫座5以下	外面 7.5YR6.1暗灰～10R6.6赤橙 内面 Hae2.5YR7.1灰白～2.5YR7.4浅赤橙	φ～2mmチャート少量、φ～1mm長石少量、石英微量、赤母微量		
4.14	19	高込丸328 西平	舞台	彫座15	内外面 Hae10YR8.2灰白	φ～1mm石英微量、長石微量、赤色酸化鉄微量		
4.14	20	高込丸328 下層	高枳	彫座85	外面 Hae2.5YR7.6橙 内面 Hae2.5YR7.6橙	φ～2mm石英微量、φ～1mm長石微量、 チャート微量		
4.14	21	高込丸328 下層	高枳	口縁90	内外面 Hae7.5YR8.4浅黄緑	φ～1mm石英微量、チャート少量、 長石微量、赤母微量	口縁端部破状	
4.14	22	高込丸328 下層	高枳	彫座30	内外面 Hae10YR8.4浅黄緑	φ～1mm石英微量、赤色酸化鉄少量、 長石微量		
4.14	23	高込丸328 西平	高枳	彫座40	外面 Hae7.5YR8.3浅黄緑 内面 Hae10YR8.2灰白	φ～1mm石英微量、長石微量、赤色酸化鉄少量	彫座部外面	
4.14	24	高込丸328 下層	高枳	口縁10 以下	内外面 Hae10YR7.2灰白	～2mmのチャート、長石含む、1mm 雲母含む		
4.14	25	高込丸328 下層	高枳	彫座25	外面 Hae2.5YR8.2灰白色 内面 Hae10YR8.2灰白	φ～1mm石英微量、赤色酸化鉄微量、 長石微量	彫座部外面破状	
4.14	26	高込丸328 下層	高枳	彫座25	外面 Hae10YR8.2灰白～5YR8.3浅橙 内面 Hae5YR7.3にぶい橙	φ～1mm石英微量、チャート少量、 赤色酸化鉄少量	口縁端部	
4.14	27	高込丸328 下層	高枳	彫座50	外面 Hae2.5YR7.4浅赤橙 内面 Hae10YR8.2灰白	φ～2mmチャート微量、赤色酸化鉄少量		精白な粒土をもつ
4.14	28	高込丸328 西平	高枳	舞柱部100	外面 Hae5YR8.3浅橙 内面 Hae2.5YR7.6橙～10YR8.1灰白	φ～2mmチャート微量、φ～1mm石英少量、赤母微量		精白な粒土をもつ
4.14	29	高込丸328 下層	高枳	舞柱部100	内外面 Hae5YR7.6橙	φ～2mm石英微量、φ～1mm赤色酸化鉄少量、長石微量		
4.14	30	高込丸328 下層	高枳	彫座50	内外面 Hae2.5YR6.8橙	φ～1mm長石多量、石英微量		
4.14	31	高込丸328 下層	織文土器 深鉢	組片	外面 Hae10YR8.4にぶい黄褐 内面 Hae7.5YR8.4にぶい橙	～2mmの長石、～2.5mmの石英、 ～5mmの角閃石多く含む		牛脚野産産出
4.14	32	高込丸328 西平	青磁焼 口縁15	組片	ほとんど粉砕されます。N7.0灰白色	ほとんど粉砕されます。N7.0灰白色		番号なし(南台)。共同番号あり。
4.14	33	高込丸328 西平	青磁焼 組片	組片・磁粒				内側に磁器碎片、麻片混入。
4.15	1	溝419	壺	胴部75 彫座25	外面 Hae2.5YR8.8橙～5YR8.2浅黄 内面 Hae10YR7.4にぶい橙～10YR6.1暗灰	φ～5mmチャート多量、φ～2mm石英少量、φ～1mm長石微量		胴部下外表面破着
4.15	2	溝419	壺	口縁70	外面 Hae5YR7.4にぶい橙～5YR7.8橙 内面 Hae10YR8.2灰白～7.5YR8.4浅黄緑	φ～2mmチャート微量、φ～1mm石英微量、長石微量、赤色酸化鉄微量	口縁端部内面破状	
4.15	3	溝419	壺	口縁90	外面 Hae7.5YR8.2灰白～7.5YR8.4浅黄緑 内面 Hae7.5YR8.3浅黄緑	φ～4mmチャート微量、φ～1mm石英微量、長石微量、赤色酸化鉄微量		
4.15	4	溝419、溝419ア	台付鉢	口縁20 彫座60	外面 Hae2.5YR7.4浅赤橙～5YR8.3浅黄 内面 Hae7.5YR8.3浅黄緑	φ～2mm石英多量、チャート微量、 φ～1mm長石微量	胴部内面破状	
4.15	5	溝419	鉢	口縁90	内外面 Hae5YR8.8橙	φ～1mm石英少量、長石微量、赤色酸化鉄微量		精白な粒土をもつ 内外面破着
4.15	6	溝419	壺	口縁50	内外面 Hae2.5YR6.8橙	φ～2mm石英少量、チャート微量、 φ～1mm長石微量	胴部外面	内外面破着
4.15	7	溝419	壺	胴部25	外面 Hae2.5YR8.3浅黄緑～2.5YR6.8橙 内面 Hae7.5YR8.3浅黄緑	φ～2mm石英微量、チャート微量、 φ～2mm赤色酸化鉄少量	外面破着	
4.15	8	溝419	壺	口縁25	外面 Hae10YR8.6赤 内面 Hae2.5YR6.8橙～10YR8.1灰白	φ～2mm石英少量、チャート微量、 φ～1mm長石微量、赤母微量	内外面破着	
4.15	9	溝419	壺	口縁50 彫座50 底部50	外面 Hae7.5YR8.3浅黄緑～10YR8.6赤 内面 Hae7.5YR7.4にぶい橙～2.5YR6.6橙	φ～2mmチャート微量、φ～2mm石英微量、φ～1mm長石微量	外面破着	
4.15	10	溝419	壺	口縁20	外面 Hae5YR8.8橙 内面 Hae5YR8.6橙～7.5YR7.4にぶい橙	φ～2mm石英少量、チャート微量、 φ～1mm長石微量	外面破着	
4.15	11	溝419ア	壺	胴部20	外面 Hae5YR7.6橙 内面 Hae2.5YR8.2灰白	φ～2mmチャート微量、φ～1mm石英微量、長石微量、赤母微量		
4.15	12	溝419	壺	口縁30 胴部50	外面 Hae5YR7.8橙 内面 Hae5YR7.4にぶい橙	φ～2mm石英微量、φ～1mm長石少量、赤母微量	内外面破着	
4.15	13	溝419	壺	口縁20 底部100	外面 Hae2.5YR7.6橙～2.5YR7.3浅赤橙 内面 Hae7.5YR8.3浅黄緑～7.5YR7.1暗灰	φ～2mmチャート少量、石英微量、 φ～1mm長石微量	底部内面破状	外面破着
4.15	14	溝419	壺	口縁20 底部70	外面 Hae7.5YR8.6橙～7.5YR6.2灰褐 内面 Hae2.5YR7.6橙～5YR6.2灰褐	φ～2mmチャート少量、φ～1mm石英微量、長石微量、赤色酸化鉄微量	内外面破着	
4.15	15	溝419	壺	口縁20 胴部40 底部100	外面 Hae2.5YR8.6橙～10YR4.1暗灰 内面 Hae10YR8.2灰白	φ～2mmチャート少量、石英微量、 φ～1mm長石微量	胴部外面破状	外面破着
4.16	1	溝419	壺	口縁10	外面 Hae7.5YR6.6橙 内面 Hae7.5YR6.3にぶい橙～7.5YR5.2灰褐	φ～1mm長石微量、φ～3mmチャート微量、赤母微量		内面破着
4.16	2	溝419	有孔鉢	口縁95 底部100	外面 Hae5YR8.1灰白、7.5YR7.6橙、2.5YR7.6橙 内面 Hae2.5YR7.6橙、7.5YR8.4浅黄緑	φ～2mm長石少量、ナト少量、φ～2mm石英少量、赤母少量	口縁部～底部外面	
4.16	3	溝419	壺・鉢	底部100	外面 Hae10YR8.6赤 内面 Hae10YR8.1灰白	φ～4mmチャート少量、φ～1mm長石少量、石英微量		
4.16	4	溝419	壺	底部100	外面 Hae10YR8.1暗灰～2.5YR7.8橙 内面 Hae7.5YR7.2灰黄～2.5YR4.1暗灰	φ～2mm石英多量、チャート微量、 φ～1mm長石少量、赤母微量	胴部内面全体	内外面破着
4.16	5	溝419	壺	底部70	外面 Hae10YR7.2にぶい黄緑～5YR8.6橙 内面 Hae10YR7.2にぶい黄緑～10YR4.1暗灰	φ～2mm長石少量、石英微量、φ～1mmチャート微量、赤母微量	胴部内面破状	外面破着
4.16	6	溝419	鉢	底部20	外面 Hae7.5YR7.4にぶい橙 内面 Hae10YR8.6にぶい黄緑	φ～1mm長石少量、石英微量、チャート少量、赤母微量	胴部～底部外面	内面破着
4.16	7	溝419	鉢	胴部25 底部20	外面 Hae5YR8.6明赤 内面 Hae5YR8.6橙	φ～2mmチャート微量、φ～1mm石英微量、長石微量、赤母微量		内外面破着
4.16	8	溝419	有孔鉢	口縁60 底部100	外面 Hae2.5YR6.8橙、N7.1灰白～N2.1黒 内面 Hae2.5YR1.1灰白	φ～2mm長石少量、φ～1mm石英微量、 チャート少量、赤母微量	胴部外面破状	内外面破着

国産	番号	造機名	器種	焼成率 (律・%)	色調	胎土	肌理	備考
416	9	窯 419	有孔鉢	口縁 50 底縁 75	外周 Hue25YR7.6 靑～75YR7.4 に3.5°傾 内周 Hue25YR7.6 靑	φ～3mm ナット少量、石英微量、 φ～1mm 長石微量		胎土に砂粒を多く含む 内外面保付着
416	10	窯 419	唐口付 台付無 蓋型	口縁 100 底縁 60	外周 Hue7.5YR6.4 靑 内周 HueN3 靑灰	φ～3mm ナット少量、石英少量、 φ～1mm 長石微量、雲母少量	肩部外面 胴部内面全体	外面保付着
416	11	窯 419	手焙	細片	外周 Hue5YR6.8 靑～10YR7.4 に3.5°傾 内周 Hue10YR7.4 に3.5°傾	φ～3mm 石英微量、長石少量、φ～ 1mm ナット微量		
416	12	窯 419	高杯	口縁 10 底縁 5	外周 Hue2.5YR6.8 靑 内周 Hue2.5YR6.4 に3.5°傾～ Hue5Y2.1 灰(赤黄)	φ～3mm ナット少量、石英少量、 雲母少量、φ～1mm 長石微量	杯部外面	胎土に砂粒を多く含む
416	13	窯 419	高杯	口縁 60 底縁 60	内外周 Hue5YR7.4 に3.5°傾～ 5YR8.3 淡靑	φ～3mm ナット少量、φ～2mm 石英 少量、φ～1mm 長石少量、雲母微量	杯部外面現状	
416	14	窯 419	高杯	杯底 50	外周 Hue5YR7.6 靑～2.5YR6.4 内周 Hue7.5YR8.4 淡黄靑～7.5YR7.6 靑	φ～1mm 石英少量、長石微量、ナット 微量		
416	15	窯 419	高杯	杯底曲部 40	外周 Hue10YR7.3 に3.5°傾 内周 Hue10YR10.3 に3.5°傾	φ～3mm ナット少量、φ～2mm 長石 微量、石英微量		
416	16	窯 419	高杯	杯底 30	外周 Hue10YR7.2 に3.5°傾 内周 Hue10YR8.2 灰白	φ～2mm ナット少量、石英少量、 φ～1mm 長石微量		
416	17	窯 419	小型器 台	口縁 25 底縁 25	外周 Hue7.5YR6.4 に3.5°傾(脚底)～ 5YR8.6 靑(15度)	φ～3mm ナット少量、石英微量、 φ～1mm 長石微量、赤色酸化鉄微量	胴部内面	
416	18	窯 419	小型器 台	杯底 25	内外面 Hue2.5YR6.6 靑	φ～3mm ナット少量、石英微量、 φ～1mm 長石微量、赤色酸化鉄微量		
416	19	窯 419	小型器 台	杯底 100 杯底 5	内外面 Hue5YR6.6 靑	φ～3mm ナット少量、石英微量、 φ～1mm 長石微量、赤色酸化鉄微量		
416	20	窯 419	器台	口縁 25	外周 Hue2.5YR6.8 靑 内周 Hue5YR7.6 靑	φ～3mm ナット少量、石英微量、 φ～1mm 長石微量、赤色酸化鉄微量	受け部内面現状	
417	1	落ち込み 463	蓋	胴部 100 底縁 100	外周 Hue2.5YR6.4 靑～N3 脚底 内周 Hue2.5YR7.4 に3.5°傾～N4 脚底	φ～3mm 石英少量、ナット少量、 φ～2mm 石英微量	胴部下半外面現状	外面赤部の可能性あり
417	2	落ち込み 463	蓋	口縁 75 胴部 75	外周 Hue10YR5.2 靑灰～ Hue7.5YR4.1 脚底 内周 Hue10YR7.1 灰白～ Hue2.5YR8.8 靑	φ～3mm ナット少量、長石微量、 φ～2mm 石英微量		外面保付着
417	3	落ち込み 463	蓋	口縁 90	外周 Hue10YR3.1 脚底～ Hue2.5YR7.8 靑 内周 Hue7.5YR4.1 脚底	φ～3mm 石英少量、φ～2mm ナット 少量、長石微量、雲母微量		外面保付着
417	4	落ち込み 463	蓋	口縁 50 底縁 25	外周 Hue10YR7.4 に3.5°傾 内周 Hue10YR7.3 に3.5°傾～ 7.5Y4.1 灰	φ～2mm 石英微量、ナット微量、 φ～1mm 長石微量、雲母微量	口縁部～胴部外面	
417	5	落ち込み 463	蓋	口縁 5 胴部 30	外周 2.5YR6.6 靑～10YR8.6 靑 内周 2.5YR8.3 淡靑～10YR8.4 淡黄靑	φ～3mm 長石少量、ナット微量、 φ～1mm 赤色酸化鉄微量		外面保付着
417	6	落ち込み 463	蓋	口縁 25	外周 2.5YR7.6 靑～7.5YR6.6 靑 内周 7.5YR7.4 に3.5°傾	φ～3mm 長石少量、石英微量、ナット 微量、雲母微量	胴部外面現状	
417	7	落ち込み 463	蓋	口縁 50 底縁 50	外周 2.5YR8.4 淡黄靑～7.5YR6.1 靑 内周 Hue7.5YR8.4 淡黄靑	φ～3mm ナット少量、石英微量、 φ～1mm 長石微量、赤色酸化鉄微量	胴部外面現状	精良な胎土をもつ
417	8	落ち込み 463	蓋	口縁 70 胴部 90 底縁 100	外周 Hue2.5YR6.6 靑～Hue10YR17.1 灰白 内周 Hue2.5YR6.8 靑～Hue2.5YR8.1 灰白	φ～3mm 石英少量、ナット少量、 φ～1mm 長石微量、赤色酸化鉄微量	胴部下半～底縁外面	外面保付着
417	9	落ち込み 463	蓋か	外縁 80	外周 Hue2.5YR6.6 靑 内周 Hue10YR7.2 に3.5°傾	φ～3mm 石英微量、ナット微量、 φ～1mm 長石微量、赤色酸化鉄微量		内外面保付着
417	10	落ち込み 463	鉢	口縁 60	外周 Hue5YR6.6 靑 内周 Hue2.5YR6.6 靑	φ～3mm ナット少量、石英微量、 φ～1mm 長石少量、雲母微量		外面保付着
417	11	落ち込み 463	鉢	口縁 60 底縁 50	外周 Hue7.5YR7.8 黄靑～7.5YR2.1 黒 内周 Hue2.5YR1.1 灰白～7.5YR7.1 黄	φ～3mm ナット少量、φ～2mm 石 英微量、長石微量		外面保付着
417	12	落ち込み 463	高杯	口縁 40	外周 5YR8.4 淡靑 内周 5YR8.3 淡靑	φ～3mm ナット少量、φ～2mm 石 英微量、長石少量、雲母微量		胎土に砂粒を多く含む
417	13	落ち込み 463	高杯	口縁 70 胴部 80	外周 Hue5YR7.4 に3.5°傾～7.5YR7.1 明靑 内周 Hue5YR6.6 靑～7.5YR7.1 明靑	φ～2mm ナット少量、石英微量、 φ～1mm 長石微量、赤色酸化鉄微量		精良な胎土をもつ
417	14	落ち込み 463	器台	口縁 40	外周 Hue2.5YR7.6 靑～7.5YR8.3 淡黄靑 内周 Hue7.5YR8.1 灰白～7.5YR8.4 淡黄靑	φ～3mm ナット少量、φ～2mm 石 英微量、赤色酸化鉄微量、φ～1mm 長石微量	受け部外面現状	
417	15	落ち込み 463	高杯/ 器台	胴部 100	外周 Hue5YR7.6 靑～N3 脚底 内周 Hue5YR6.8 靑～10YR8.1 灰白	φ～3mm ナット少量、φ～2mm 石英 微量、φ～1mm 長石微量、雲母微量	胴部外面現状	
417	16	落ち込み 463	高杯/ 器台	胴部 70	内外面 Hue7.5YR6.6 靑～10YR7.3 に3.5°傾	φ～3mm ナット少量、石英少量、 φ～1mm 長石微量、赤色酸化鉄微量		胎土に砂粒を多く含む

凡例

・土器胎土の色調のうちマンセル表色系を用いるものについては、小山正忠・竹原秀雄(編)『新版 標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修/助日本色彩研究所色票監修)第24版(2002年度版)に拠った。

第2節 石器・礫

本遺跡では、剥片石器28点、剥片114点、石製品2点、礫石器13点、礫78点の計239点が出土している。剥片石器・剥片は無斑晶安山岩（サヌカイト）が多くを占め、チャートは6点のみ確認されている。剥片石器の多くは強く磨滅していたため、遺存状態が良好なものを対象に図化をおこなった。石製品は全点を図化し、礫石器については、使用痕が明確に確認できたものを図化し、本書に掲載した。礫については概要のみを本書に掲載した。なお本書に掲載している石材名はすべて肉眼鑑定によるものである。

石鏃（図4.18-1～12）

本遺跡では石鏃が19点出土しているが、磨滅や風化が著しいものを除いた12点を図化した。石鏃に用いられている石材は無斑晶安山岩とチャートの二種類に限られる。一般的に無斑晶安山岩（サヌカイト）は肉眼観察のもとでは風化面が青灰色を呈し、ガジリとよばれる新欠部分が黒色ないし青色を示すことから判別を行った。その結果、図4.18-3と図4.18-11を除く10点が無斑晶安山岩（サヌカイト）であることがわかった。図4.18-1は凹基式の石鏃である。稜線がやや磨滅しているが両端部からの剥離によって二等辺三角形に近い平面形態に整形されていることから縄文時代に属するものであると考えられる。図4.18-2は鋸歯状に縁辺を整形された凹基式の石鏃である。縁辺の特徴から縄文時代に属すると考えられる。図4.18-3は青灰色のチャートを用いている凹基式の石鏃である。図4.18-4は五角形状の平面形態をもつ平基式の石鏃である。図4.18-5は凹基式の石鏃である。一部に自然面と思われる面が確認できるが、剥離面が風化したものとも考えられる。図4.18-6は粗雑な鋸歯状の縁辺を持つ凹基式の石鏃である。図4.18-2とおなじく縁辺の特徴から縄文時代に属すると考えられる。図4.18-7は凹基式の石鏃である。先端部分が欠損しているため、詳細な形状は不明である。図4.18-8は凹基式の石鏃である。磨滅を強く受けているため縁辺や稜線が丸みを帯び、面を持っている。また、一部に自然面が残存している。図4.18-9は素材面と自然面を大きく残している凹基式の石鏃である。縁辺と基部に対して剥離を加えて整形したものである。図4.18-10は凹基式の石鏃である。表裏の両面に素材面が残存している。図4.18-11は青色チャートを用いた平基式の石鏃である。先端部に垂直な剥離が認められる。図4.18-12は素材剥片の背面から腹面への加工がみられる凹基式の石鏃である。加工は縁辺のみで、素材剥片の中央部分まで剥離が進んでいないため、素材剥片の形状をそのまま利用しているものと考えられる。

楔形石器（図4.18-13）

本遺跡では楔形石器が8点出土しているが、8点中7点は磨滅や風化が著しいため、図化は行わなかった。図(13)は両端部に打撃による細かなステップ状の剥離が密集し、凸レンズ状の縦断面形態を示す楔形石器である。石材は無斑晶安山岩（サヌカイト）である。

スクレイパー（図14.18-14）

本遺跡ではスクレイパーが1点出土している。図(14)は背面に自然面を残している剥片の縁辺に剥離を加えて刃部を作り出しているスクレイパーである。石材は無斑晶安山岩（サヌカイト）である。

剥片類

本遺跡からは114点の剥片が出土しているが、その多くが石器製作の際に生じるような小型の剥片であり、後述のような石器の素材となるような大きさの剥片は少数である。また、剥片の多くは磨滅や風化が著しいため稜線が明瞭でないものや剥離面が礫面（自然面）に変化しているもの、もしくは二重風化（パティナ）の面をもつものが見られることから、本遺跡の石器類は何らかの営力によって元位置か

ら動かされた可能性が考えられる。石材は114点中111点が無斑晶安山岩（サヌカイト）、残りの3点がチャートである。

石製品（図 14.18-15、図 14.19-18）

本遺跡では石製品が1点出土している。図 15 は磨製石斧の刃部とみられる石製品である。表と裏の両面に研磨痕が認められ、研磨することによって刃部を作りだしている。また、節理による破断面が確認できる。石材は緑泥岩である。図 18 横断面形態が楕円形を示す石棒の一部とみられる石製品である。全体を大きく欠損しているため、完全な形態は不明である。石材は輝石安山岩である。

礫石器（図 14.18-16、図 14.19-17）

本遺跡では礫石器が14点出土しているが、明らかな使用痕が認められる2点を図化した。図(16)は堅穴式住居 291 の床面下層から出土した砥石である。全体に研磨痕が認められるほか、打撃痕とみられる窪みも確認できる。石材は砂岩である。図(17)は砥石である。全体に研磨痕が認められ、一部に溝状の使用痕や線状の打撃痕とみられる窪みも確認できる。石材は砂岩である。

礫

本遺跡では礫を78点出土している。これらが最も多く出土しているのは落込み378であり、52点出土している。そのほかに出土している礫についても遺構からの出土がすべてである。2005年の調査と同じく、本遺跡の遺構形成面からは拳大以上の礫は検出されていないことから、これらの礫の他の場所から遺跡内に持ち込まれた可能性が十分に考えられる。

遺跡周辺の地質は、緑色岩・層状チャート・混在岩・砂岩などの堆積岩類、花崗岩に代表される酸性火成岩類から構成される美濃-丹波帯に属している。さらに、近辺には古琵琶湖層群・大阪層群・段丘堆積物および沖積層が分布している。美濃-丹波帯の酸性火成岩類は、特に琵琶湖西部比叡山周辺の南北に広く分布し、その地域の堆積岩層は酸性火成岩類が貫入することによって、熱変成作用を受けたため、ホルンフェルスなどの変成岩を産出する。近江盆地に分布する古琵琶湖層群と京都盆地に分布する大阪層群は、ともに更新世に形成された層群で、河成ないし湖成の礫・砂・シルト・粘土層で構成されている。また、沖積層は琵琶湖西岸や、京都盆地において広く分布する。

本遺跡から出土した礫種はチャート、砂岩が最も多く含まれ、まれにホルンフェルスなどの変成岩類や花崗岩類などの酸性火成岩類も確認できる。これは、遺跡周辺の地質を反映しているものと考えられ、このことから礫の多くは遺跡近辺で採取可能な在地の石材である可能性が高いといえる。

しかし、石器に用いられている石材の中には遺跡周辺の地質環境では産出しない石材も存在する。石鏃や楔形石器に用いられている一般的にサヌカイトと認識される無斑晶安山岩は、瀬戸内海を中心としたごく限られた地域でのみ産出することが確認されていることから、この石材については他の地域からの搬入とするのが妥当だろう。

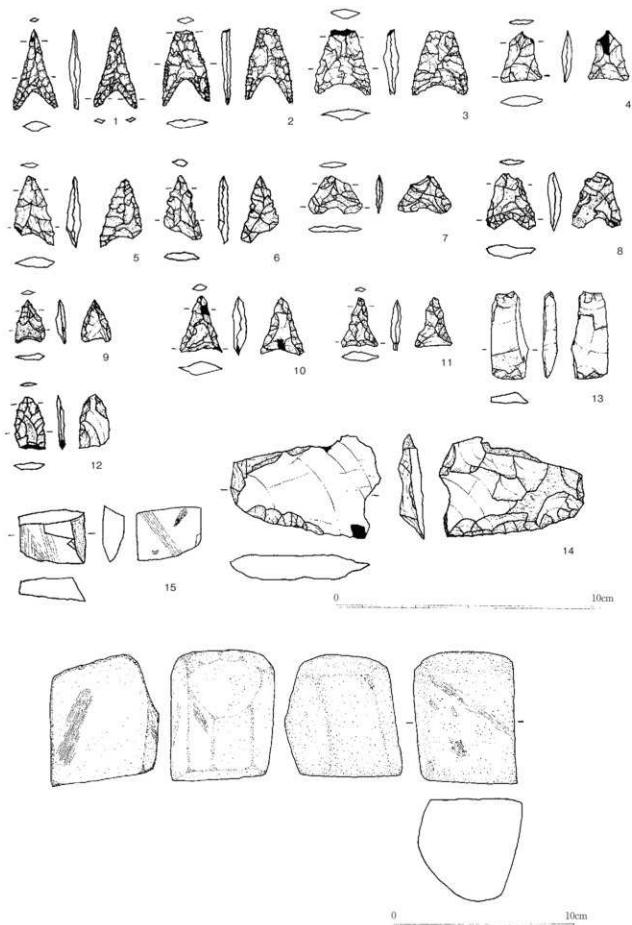
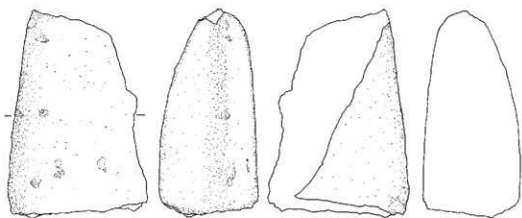
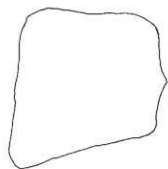
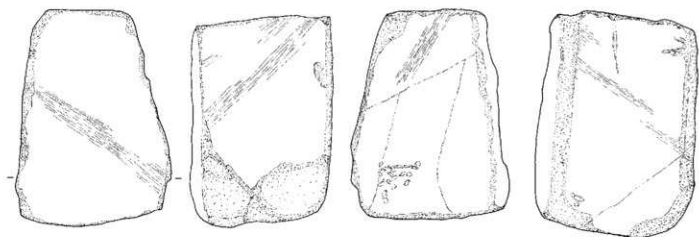


图 4.18 出土石器 (1~15: 2/3) [17: 1/3]



17



18

0 10cm

图 4.19 出土石器 (1/3)

表 4.2 出土石器観察表

出土遺構	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	石材	器種名	掲載番号
2層	24.20	20.90	5.10	チャート	石鏃	3
	18.50	20.50	2.70	サヌカイト	楔形石器	
3層	30.10	16.20	3.40	サヌカイト	石鏃	1
落込み 154	32.70	13.50	5.00	サヌカイト	楔形石器	13
	27.40	17.60	2.70	サヌカイト	石鏃	2
落込み 299	37.60	24.90	9.60	サヌカイト	剥片	5
	15.20	12.60	2.90	サヌカイト	剥片	
	33.50	13.10	3.70	サヌカイト	剥片	
	26.40	14.60	3.50	サヌカイト	石鏃	
	35.20	33.80	10.10	サヌカイト	剥片	
	26.10	46.10	5.50	サヌカイト	楔形石器	
	29.40	9.70	3.30	サヌカイト	剥片	
	34.10	30.90	9.20	サヌカイト	楔形石器	
	18.00	23.30	6.30	サヌカイト	剥片	
	16.70	23.70	2.10	サヌカイト	剥片	
	20.70	21.80	5.30	サヌカイト	剥片	
	395	25.20	24.50	6.50	サヌカイト	
落込み 378	21.50	33.50	9.00	サヌカイト	楔形石器	6
	12.60	13.30	1.30	サヌカイト	二次加工のある剥片	
	28.40	15.60	5.40	サヌカイト	剥片	
	19.50	22.50	5.50	サヌカイト	二次加工のある剥片	
	16.50	17.20	2.30	サヌカイト	剥片	
	16.40	30.30	2.60	サヌカイト	二次加工のある剥片	
	15.90	12.80	5.00	サヌカイト	剥片	
	21.50	26.00	5.90	サヌカイト	二次加工のある剥片	
	34.50	16.00	4.70	チャート	楔形石器	
	13.10	3.80	0.70	粘板岩	剥片	
	10.10	7.90	0.80	サヌカイト	剥片	
	19.10	9.70	3.10	サヌカイト	楔形石器	
	9.90	11.70	0.80	サヌカイト	剥片	
	10.40	15.70	0.90	サヌカイト	剥片	
	12.90	9.90	0.50	サヌカイト	剥片	
	21.70	13.60	1.90	チャート	剥片	
	26.10	13.80	5.50	サヌカイト	楔形石器	
	15.20	14.70	3.70	チャート	剥片	
	21.00	17.00	5.90	サヌカイト	剥片	
	12.00	10.20	1.80	サヌカイト	剥片	
	24.30	15.00	3.20	サヌカイト	石鏃	
	20.10	15.80	4.00	サヌカイト	剥片	
	12.00	11.80	2.90	サヌカイト	剥片	
	15.30	12.80	2.30	サヌカイト	剥片	
	17.10	21.80	1.80	サヌカイト	剥片	
	15.80	5.00	5.00	サヌカイト	剥片	
16.80	23.00	7.00	サヌカイト	剥片		
45.80	34.50	7.10	チャート	剥片		
18.50	15.00	3.50	サヌカイト	石鏃		
17.30	9.80	2.30	サヌカイト	剥片		
11.40	19.30	5.10	サヌカイト	楔形石器 (剥片)		
26.80	29.90	8.50	サヌカイト	楔形石器		
15.70	11.10	1.80	サヌカイト	剥片		
25.80	16.30	5.50	サヌカイト	剥片		

31.70	16.10	860	サスカイト	楔形石器	
13.20	12.40	220	サスカイト	石鏃	
34.60	29.10	650	サスカイト	剥片	
11.00	34.70	1060	サスカイト	石核	
31.80	24.40	1030	サスカイト	石核	
14.70	9.60	440	サスカイト	剥片	
26.30	15.70	380	サスカイト	剥片	
20.10	24.60	730	珪質頁岩	磨製石斧	15
15.00	16.30	210	サスカイト	剥片	
12.60	11.90	300	サスカイト	剥片	
19.90	9.10	550	サスカイト	楔形石器	
19.50	14.40	750	サスカイト	剥片	
20.40	21.20	360	サスカイト	剥片	
12.00	15.70	270	サスカイト	剥片	
15.40	11.00	200	サスカイト	石鏃	9
18.00	13.70	290	チャート	石鏃	11.
5.70	15.00	140	サスカイト	剥片	
21.30	37.90	390	サスカイト	剥片	
23.00	11.00	440	サスカイト	剥片	
10.00	10.70	040	サスカイト	剥片	
13.10	11.80	110	サスカイト	剥片	
26.80	10.10	250	サスカイト	楔形石器 (剥片)	
17.10	30.30	430	サスカイト	楔形石器	
27.80	12.20	950	サスカイト	楔形石器	
13.00	19.20	150	サスカイト	剥片	
9.30	10.40	030	サスカイト	剥片	
28.30	6.00	600	サスカイト	楔形石器	
19.80	24.50	700	サスカイト	楔形石器	
26.70	32.40	840	サスカイト	剥片	
28.20	18.10	630	サスカイト	剥片	
42.30	42.20	1460	サスカイト	石核	
19.20	28.10	860	サスカイト	剥片	
26.20	27.30	740	サスカイト	楔形石器 (剥片)	
20.50	15.70	110	サスカイト	剥片	
22.00	18.60	240	サスカイト	剥片	
8.50	14.40	040	サスカイト	剥片	
13.50	9.20	080	サスカイト	剥片	
9.20	7.70	200	サスカイト	剥片	
20.20	22.80	180	サスカイト	剥片	
25.80	21.20	800	サスカイト	剥片	
12.80	21.20	190	サスカイト	剥片	
12.30	15.30	190	サスカイト	剥片	
19.20	22.70	320	サスカイト	石核	
17.40	15.50	150	サスカイト	剥片	
14.00	20.00	260	サスカイト	石鏃	7
24.00	9.00	530	サスカイト	剥片	
26.20	31.30	1170	サスカイト	楔形石器	
15.20	20.10	320	サスカイト	剥片	
19.30	18.70	370	サスカイト	剥片	
21.80	12.90	360	サスカイト	石鏃	
20.80	16.10	400	サスカイト	石鏃	10
20.60	12.50	380	サスカイト	石鏃	

	15.80	13.60	4.10	サスカイト	楔形石器	
	17.00	25.10	5.10	サスカイト	剥片	
	17.60	22.60	5.00	サスカイト	剥片	
	20.40	10.70	1.60	サスカイト	剥片	
	36.10	22.60	6.10	サスカイト	剥片	
	22.70	17.70	4.10	サスカイト	剥片	
	18.10	24.50	1.10	サスカイト	剥片	
	7.90	10.70	1.00	サスカイト	剥片	
	21.60	28.50	6.20	サスカイト	剥片	
	24.60	18.00	6.50	サスカイト	剥片	
	23.40	22.50	4.80	サスカイト	剥片	
	17.10	15.80	2.70	サスカイト	二次加工のある剥片	
	19.80	10.60	2.00	サスカイト	石鏃	12
	57.70	73.60	15.60	片麻岩	剥片	
	16.10	12.90	0.40	サスカイト	剥片	
	19.00	8.60	7.10	サスカイト	剥片	
	14.10	20.40	2.50	サスカイト	剥片	
	18.70	22.10	6.00	サスカイト	剥片	
	26.40	6.90	4.10	サスカイト	剥片	
	17.60	19.90	4.70	サスカイト	剥片	
	12.10	14.00	1.90	サスカイト	剥片	
	15.60	17.00	3.60	サスカイト	楔形石器 (剥片)	
	20.60	23.90	5.10	サスカイト	剥片	
	15.10	11.90	1.80	サスカイト	剥片	
	16.80	19.00	4.10	サスカイト	剥片	
	12.40	16.00	4.40	チャート	剥片	
	25.00	20.50	6.90	サスカイト	楔形石器	
	16.10	17.30	1.60	サスカイト	剥片	
	35.00	16.90	5.10	サスカイト	楔形石器	
	13.60	21.60	7.10	サスカイト	剥片	
	25.70	30.20	6.10	サスカイト	剥片	
	19.90	13.10	1.80	サスカイト	剥片	
	14.30	26.60	1.30	サスカイト	剥片	
	17.30	21.30	3.50	サスカイト	剥片	
	20.40	10.30	3.70	サスカイト	剥片	
	12.30	19.90	5.10	サスカイト	楔形石器	
	12.30	14.80	2.40	サスカイト	剥片	
	24.40	30.40	7.90	サスカイト	剥片	
	26.80	26.60	6.80	サスカイト	楔形石器	
	18.10	24.70	6.40	サスカイト	楔形石器	
	12.30	7.70	1.00	サスカイト	剥片	
	14.40	12.70	2.30	サスカイト	剥片	
溝 34	20.50	18.30	4.70	サスカイト	石鏃	8
壑穴住居 394	23.80	30.20	4.70	サスカイト	楔形石器	14
	23.90	31.40	7.00	サスカイト	楔形石器	
	12.80	18.40	2.10	サスカイト	剥片	
	11.70	18.70	1.90	サスカイト	剥片	
	53.90	31.90	9.40	サスカイト	スクレイパー	
	29.20	40.60	9.50	サスカイト	楔形石器	
	23.80	13.00	5.60	サスカイト	楔形石器	

第5章 調査成果のまとめ

第3章で紹介した検出遺構と、第4章で紹介した出土遺物の状況を考え併せ、過去の調査成果と総合すると以下のことがいえる。

今回検出された遺構の主要な時期は主に3つに分けることができる。

第1の時期の遺構群は、古墳時代初頭を中心とした竪穴住居・柱穴群・窪地での多量土器集積などが主要な内容である。このうち住居跡や柱穴などの生活遺構が多数検出されるのは、3-2区であるが、3-1区の東端と2区東部にも住居・掘立柱建物が検出されている。また、2区の落込み上の溝からは多量の土器（古墳時代初頭土器）が廃棄されている状況が確認された。また、4区については調査中で不明であるが、2005年に行った隣接地の調査成果などとあわせると、約2～3ha程度の範囲にわたって住居や生活施設が点在していたものと考えられる。出土土器の特徴からは、ほぼ庄内式期の前半に限定できる遺構が主体を占めている。2005年の調査を含めて、住居跡にはほとんど拡張などの重複が見られないことも考えあわせると、極めて短期間の集落形成を想定しておくべきであろう。とすれば、2005年の調査と今回調査を合わせると、古墳時代初頭の典型的な集落の規模や構造を示す好例として、当遺跡の古墳時代初頭遺構群を捉えることができよう。

第2の時期の遺構群は、平安時代を中心としたものである。落込み状遺構の上層部にはかならず平安時代を中心とした土器群が出土し、またいくつかの溝状遺構では平安時代の須恵器・陶器類のみが出土している。これはほぼ今回調査区の全面に及んでいる。類似した状況は2005年調査区にもみられ、谷状遺構の上層が平安時代須恵器・瓦片を主体とする灰色シルト層で埋没していた。つまり、岩倉忠在地遺跡の同志社関連調査区で検出された古代以前の窪地は、すべて平安時代の遺物包含層で埋没していることになる。一方、古代の生活遺構はほとんど検出されていない。このことから、当調査区とその周辺では、平安時代に広く開発がおよび、人為的に窪地を埋積させて土地の平坦化が図られたと考えられる。住居等が確認できないところは、集落形成ではなく耕地化が主眼であったと考えるべきであろう。当調査区の隣接地には「四の坪」「八の坪」といった地名が橋名に残っており、条里地割の存在が想定できる。今回確認された平安時代の広域開発行為は、条里地割敷設と関係していた可能性がある。

第3の遺構形成時期は中・近世の遺構群である。これらの多くは溝状遺構であり、畝溝・耕作痕跡もしくは水路痕と考えられる。多くの溝状遺構は東西・南北方向に展開しており、耕作地の地割に沿って形成されたと考えられる。柱穴や建物は明確ではないことから、中・近世にも集落形成は無かったと考えられる。この段階で更なる削平・埋積行為が断続的に行われた結果、古代以前の遺構群は大きく削平されたと考えられる。

また、これ以外にも、人為的な遺構形成は不明確であるが、縄文時代の剥片・石鏃を含む打製石器群が1区と3-1・3-2区で散発的に出土している。今回の調査では縄文土器が1片も出土していないので、詳細な時期の類推は難しいが、2005年調査区では縄文中期・後期土器片が出土している。おそらく、今回の調査区は同時期の活動領域に相当し、石器製作活動や狩猟活動などが行われていたと考えられる。



図 5.01 遺跡全体の遺構配置 (古墳時代初頭中心)